

修士論文指導演習1

Supervisory Seminar on Master's Thesis 1

温 文(WEN WEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY6910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習2(秋学期)」と併せて、修士論文を作成する前期課程2年次生を対象に、研究と論文執筆の指導を行う。この演習においては、少なくとも研究テーマを確定させ、研究計画を立案することまでを完了させる。(可能ならば、予備調査や予備実験を終えることが望ましい。)

Together with “Supervisory Seminar on Master's Thesis 2” (fall semester), this class will provide supervision to 2nd-year master's program students as they conduct research and write their theses. In this seminar, students are required to complete at least the process of determining a research theme and formulating a research design. (It is advisable to complete a preliminary survey or experiment.)

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、詳細な研究計画の設定、研究の遂行、データの分析、論文執筆について指導する。「修士論文指導演習2(秋学期)」と併せて、指導は心理学専攻所属の教員(指導教員、副指導教員)が担当する。

For each student's particular research theme, supervision will be provided with regard to detailed research planning, execution, data analysis, and article writing. Supervision for this class as well as for “Supervisory Seminar on Master's Thesis 2 (fall semester)” will be provided by an advisor and sub-advisor who are faculty members of the Graduate Program in Psychology.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究計画の立案(1)
- 【3】: 研究計画の立案(2)
- 【4】: 研究計画の立案(3)
- 【5】: 先行研究のレビュー(1)
- 【6】: 先行研究のレビュー(2)
- 【7】: 先行研究のレビュー(3)
- 【8】: 具体的研究方法の決定と準備(1)
- 【9】: 具体的研究方法の決定と準備(2)
- 【10】: 具体的研究方法の決定と準備(3)
- 【11】: 具体的研究方法の決定と準備(4)
- 【12】: 予備調査/実験の実施(1)
- 【13】: 予備調査/実験の実施(2)
- 【14】: 予備調査/実験の実施(3)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワー等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自でテーマを定め、そのために必要な文献を読むこと。テーマ決定後と研究計画を立て、たとえば質問紙を作成するなどの具体的な作業は授業外に行う。授業時間中に行われるのは、成果に基づいた議論のみである。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究計画:25% 文献レビュー:25% 実験／調査の準備:25% 実験／調査の実施:25%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で適宜紹介する。

修士論文指導演習1

Supervisory Seminar on Master's Thesis 1

石黒 格 (ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM112
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY6910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習2(秋学期)」と併せて、修士論文を作成する前期課程2年次生を対象に、研究と論文執筆の指導を行う。この演習においては、少なくとも研究テーマを確定させ、研究計画を立案することまでを完了させる。(可能ならば、予備調査や予備実験を終えることが望ましい。)

Together with “Supervisory Seminar on Master’s Thesis 2” (fall semester), this class will provide supervision to 2nd-year master’s program students as they conduct research and write their theses. In this seminar, students are required to complete at least the process of determining a research theme and formulating a research design. (It is advisable to complete a preliminary survey or experiment.)

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、詳細な研究計画の設定、研究の遂行、データの分析、論文執筆について指導する。「修士論文指導演習2(秋学期)」と併せて、指導は心理学専攻所属の教員(指導教員、副指導教員)が担当する。

For each student’s particular research theme, supervision will be provided with regard to detailed research planning, execution, data analysis, and article writing. Supervision for this class as well as for “Supervisory Seminar on Master’s Thesis 2 (fall semester)” will be provided by an advisor and sub-advisor who are faculty members of the Graduate Program in Psychology.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究計画の立案(1)
- 【3】: 研究計画の立案(2)
- 【4】: 研究計画の立案(3)
- 【5】: 先行研究のレビュー(1)
- 【6】: 先行研究のレビュー(2)
- 【7】: 先行研究のレビュー(3)
- 【8】: 具体的研究方法の決定と準備(1)
- 【9】: 具体的研究方法の決定と準備(2)
- 【10】: 具体的研究方法の決定と準備(3)
- 【11】: 具体的研究方法の決定と準備(4)
- 【12】: 予備調査/実験の実施(1)
- 【13】: 予備調査/実験の実施(2)
- 【14】: 予備調査/実験の実施(3)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワー等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自でテーマを定め、そのために必要な文献を読むこと。テーマ決定後と研究計画を立て、たとえば質問紙を作成するなどの具体的な作業は授業外に行う。授業時間中に行われるのは、成果に基づいた議論のみである。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究計画:25% 文献レビュー:25% 実験／調査の準備:25% 実験／調査の実施:25%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で適宜紹介する。

修士論文指導演習2

Supervisory Seminar on Master's Thesis 2

温 文(WEN WEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM121
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY6910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習1(春学期)」と併せて、修士論文を作成する前期課程2年次生を対象に、研究と論文執筆の指導を行う。得られたデータに基づいて、研究結果の分析方法、解釈、論文の執筆方法、論文全体の構成、研究の解釈や意義などに関する考察などについての指導を受ける。

Combined with “Supervisory Seminar on Master’s Thesis 1 (spring semester),” this class will provide supervision to 2nd-year master’s program students as they conduct research and write their theses. Based on the data obtained, students will receive instruction on analyzing and interpreting research results and discussion.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、詳細な研究計画の設定、研究の遂行、データの分析、論文執筆について指導する。「修士論文指導演習1(春学期)」と併せて、指導は心理学専攻所属の教員(指導教員、副指導教員)が担当する。For each student’s particular research theme, supervision will be provided with regard to detailed research planning, execution, data analysis, and article writing. As with “Supervisory Seminar on Master’s Thesis 1 (spring semester),” supervision will be provided by an advisor and sub-advisor who are faculty members of the Graduate Program in Psychology.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 予備実験／調査結果の分析(1)
- 【3】: 予備実験／調査結果の分析(2)
- 【4】: 本実験／調査計画の立案(1)
- 【5】: 本実験／調査計画の立案(2)
- 【6】: 本実験／調査方法の決定と準備(1)
- 【7】: 本実験／調査方法の決定と準備(2)
- 【8】: 実験／調査の実施(1)
- 【9】: 実験／調査の実施(2)
- 【10】: 結果の分析と考察(1)
- 【11】: 結果の分析と考察(2)
- 【12】: 論文の執筆(1)
- 【13】: 論文の執筆(2)
- 【14】: 研究発表の準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

質問紙作成、実施、データ分析、論文執筆といった研究計画遂行のための各種作業は、授業時間外に行われる。授業時間中に行われるのは、成果に基づいた議論のみである。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究計画:25% 実験／調査の準備:25% 実験／調査の実施:25% 結果の分析と考察:25%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で適宜紹介する。

修士論文指導演習2

Supervisory Seminar on Master's Thesis 2

石黒 格 (ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM122
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY6910
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習1(春学期)」と併せて、修士論文を作成する前期課程2年次生を対象に、研究と論文執筆の指導を行う。得られたデータに基づいて、研究結果の分析方法、解釈、論文の執筆方法、論文全体の構成、研究の解釈や意義などに関する考察などについての指導を受ける。

Combined with “Supervisory Seminar on Master’s Thesis 1 (spring semester),” this class will provide supervision to 2nd-year master’s program students as they conduct research and write their theses. Based on the data obtained, students will receive instruction on analyzing and interpreting research results and discussion.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、詳細な研究計画の設定、研究の遂行、データの分析、論文執筆について指導する。「修士論文指導演習1(春学期)」と併せて、指導は心理学専攻所属の教員(指導教員、副指導教員)が担当する。For each student’s particular research theme, supervision will be provided with regard to detailed research planning, execution, data analysis, and article writing. As with “Supervisory Seminar on Master’s Thesis 1 (spring semester),” supervision will be provided by an advisor and sub-advisor who are faculty members of the Graduate Program in Psychology.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 予備実験／調査結果の分析(1)
- 【3】: 予備実験／調査結果の分析(2)
- 【4】: 本実験／調査計画の立案(1)
- 【5】: 本実験／調査計画の立案(2)
- 【6】: 本実験／調査方法の決定と準備(1)
- 【7】: 本実験／調査方法の決定と準備(2)
- 【8】: 実験／調査の実施(1)
- 【9】: 実験／調査の実施(2)
- 【10】: 結果の分析と考察(1)
- 【11】: 結果の分析と考察(2)
- 【12】: 論文の執筆(1)
- 【13】: 論文の執筆(2)
- 【14】: 研究発表の準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

質問紙作成、実施、データ分析、論文執筆といった研究計画遂行のための各種作業は、授業時間外に行われる。授業時間中に行われるのは、成果に基づいた議論のみである。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究計画:25% 実験／調査の準備:25% 実験／調査の実施:25% 結果の分析と考察:25%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で適宜紹介する。

基礎心理学研究法

Research Methods in Psychonomic Science

木原 健 (KIHARA KEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM131
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5210
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

実験心理学の研究手法とその背景にある理論的体系について、実践可能なレベルで理解することを目標にする。
Achieving the practical level of understanding and abilities to use methodological and theoretical knowledge in psychonomic science.

授業の内容 / Course Contents

基礎心理学の研究遂行に必要な知識と技術について概説する。研究テーマの設定から、文献調査などの準備段階、実験の実施、成果発表に至るまで、研究の各ステップについて具体的事例を交えながら解説する。また、職業としての基礎心理学者の実際や、研究倫理についても説明する。受講者自身の研究活動に応用できるように、課題の提出を求めて演習形式で講義を行うこともある。なお、受講者の関心や理解度に応じて授業計画の内容は柔軟に変更する。

In this class, knowledge and techniques that are necessary to conduct research in psychonomic science are lectured. How to decide on research topics, do reference work, run experiments, and present the findings are outlined step by step with specific examples. Psychonomic scientist as a professional and their ethical standards are also explained. Students will be asked to introduce tasks that are ordered. Contents in this class may be changed depending on the interests and understanding of the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション / Introduction
- 【2】: 受講者による自身の研究紹介 / Presentation of participants' own research
- 【3】: 研究テーマの設定とキャリアパス戦略 / Research theme setting and career path strategy
- 【4】: 文献の探し方と読み方 / How to find, read, and refer to related literature
- 【5】: 実験デザイン / Experimental Design
- 【6】: 従属変数(1) 行動指標 / Dependent variable(1) Behavior measurement
- 【7】: 従属変数(2) 脳機能計測 / Dependent variable(2) Brain function measurement
- 【8】: 従属変数(3) 眼球運動計測 / Dependent variable(3) Eye movement measurement
- 【9】: 従属変数(4) 生体反応計測 / Dependent variable (4) Biological response measurement
- 【10】: 統計指標 / Statistical index
- 【11】: 論文執筆(1) 論文の全体構成 / Writing paper (1) Overall structure
- 【12】: 論文執筆(2) 論文投稿と査読 / Writing paper (2) Paper submission and peer review
- 【13】: 学会発表 / Conference Presentation
- 【14】: 職業としての基礎心理学者 / Psychonomic scientist as a professional

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習が必要な場合はその都度指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内で指示した提出物:20% 出席および授業への取り組み:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

応用心理学研究法

Research Methods in Applied Psychology
ビッグ・データの心理学

武田 美亜 (TAKEDA MIA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM132
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ビッグ・データの種類(形式, 内容など), 取得方法, 分析方法, 取り扱う際の倫理的配慮を理解し, 実際に扱えるようになることを目指す。

The goal of this course is to understand the types of big data (format, content, etc.), acquisition methods, analysis methods, and ethical considerations when handling them, and to be able to actually handle them.

授業の内容 / Course Contents

心理学の研究でビッグ・データを扱うことが増えてきた。コンピュータ技術の発展により, 多様な形のデータを取得することが可能になり, 分析方法も多様化している。本科目では論文雑誌『Psychological Methods』の特集号「Big data in psychology」に所収された論文を輪読し, ビッグデータを扱った研究法についての理解を深める。

Psychological research increasingly deals with big data. The development of computer technology has made it possible to obtain data in various forms, and the methods of analysis have become more diverse. In this course, we will read through articles from the special issue of the journal "Psychological Methods", which titled "Big data in psychology", to deepen our understanding of research methods that deal with big data.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: イントロダクション, ガイダンス
- [2]: "A practical guide to big data research in psychology" 報告と議論
- [3]: ビッグデータ取扱いの基礎
- [4]: "A primer on theory-driven web scraping: Automatic extraction of big data from the Internet for use in psychological research" 報告と議論
- [5]: ウェブサイトからのデータ取得と利用
- [6]: "Gaining insights from social media language: Methodologies and challenges" 報告と議論
- [7]: ソーシャルメディアからのデータ取得と分析
- [8]: "Tweeting negative emotion: An investigation of Twitter data in the aftermath of violence on college campuses" 報告と議論
- [9]: ビッグ・データを用いた, トラウマ的出来事の影響を受けたコミュニティの調査方法
- [10]: "Comparing vector-based and Bayesian memory models using large-scale datasets: User-generated hashtag and tag prediction on Twitter and Stack Overflow" 報告と議論
- [11]: SNS のビッグ・データを用いた記憶モデルの検討
- [12]: "Theory-guided exploration with structural equation model forests" 報告と議論
- [13]: 構造方程式モデルを用いたビッグ・データの分析
- [14]: 特集号その他の論文の概要, 全体まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表者は担当論文のレジメを作成する。発表者以外も対象論文を読んでおくこと。授業中に解決されなかった疑問等については発表者あるいは各自で調べ、その結果を後日共有する。かかる時間は対象論文の長さや内容に関する事前知識によるが、各回2時間程度はかかると思込まれる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:50% 議論への参加:50%

テキスト / Textbooks

Psychological Methods, vol. 21, No.4 (2016)

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

題材とした雑誌論文にアクセスする方法を確認しておくこと(紙媒体, 電子ジャーナルなど)。PC で実際に R 等の分析ソフトを動かしてみる作業を行う可能性がある。

知覚心理学特殊研究

Advanced Studies in Perceptual Psychology

氏家 悠太(UJIIE YUTA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5220
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

知覚心理学およびその関連領域(認知心理学, 実験心理学, 認知科学, 発達科学等)の最新の研究知見に触れ, 批判的にデータを検証する視点やプレゼンテーション・ディスカッション能力などのスキルを獲得することを目指す。

Through learning recent research in perceptual psychology and related fields (cognitive psychology, experimental psychology, cognitive science, developmental science, etc.), students develop their academic skills such as critical inspection of data, giving presentations, and persuasive discussion.

授業の内容 / Course Contents

最新の研究内容について, プレゼンテーション形式で発表を行い, 履修者全員で議論・討論を行う。扱う内容については, 最近発表された研究論文および自身で行った最近の研究内容あるいは研究計画などが考えられる。最近の研究論文を紹介する場合には, 知覚心理学およびその関連領域(認知心理学, 実験心理学, 神経生理学, 認知神経科学等)の英語論文であることが望ましい。自身の研究内容について発表を行う際には, 学会発表のトレーニングを兼ねる。研究内容の優れた点や問題点などを考えることで, データを論理的・批判的に検証する視点などを養う。

Each student is required to deliver an oral presentation on recent research topics, followed by group discussions and debates among all students. The presentation content may encompass recently published articles or a student's own recent research data or research plan. When students give a presentation about recent research publications, they are encouraged to select English papers, primarily from perceptual psychology and related fields (cognitive psychology, experimental psychology, cognitive science, developmental science, etc.). When students talk about their study work, it will double as training for presenting results at actual research conferences. By considering the advantages and problems evident in their research, students will develop an ability to understand data from a logical and critical perspective.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 研究発表・討論(1)
- 【3】: 研究発表・討論(2)
- 【4】: 研究発表・討論(3)
- 【5】: 研究発表・討論(4)
- 【6】: 研究発表・討論(5)
- 【7】: 研究発表・討論(6)
- 【8】: 研究発表・討論(7)
- 【9】: 研究発表・討論(8)
- 【10】: 研究発表・討論(9)
- 【11】: 研究発表・討論(10)

【12】:研究発表・討論(11)

【13】:研究発表・討論(12)

【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワーポ ^o 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ガイダンス時に準備学習の内容について教示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 出席と討論:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

認知心理学特殊研究

Advanced Studies in Cognitive Psychology

木原 健 (KIHARA KEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM203
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5220
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

生理心理学および精神生理学的手法を用いた認知心理学の研究について、最近の研究内容を理解して検討を加える。
This class will examine recent cognitive-psychological studies with physiological measurements.

授業の内容 / Course Contents

脳波、脳血流、眼球運動などの生理計測を用いた認知心理学的研究に関する最近の専門書から、発表者は自らの興味に従って章を選択し、内容をまとめたスライドで発表する。発表された内容は受講者全員で検討する。発表者は、当日までに発表用のスライドを準備する。発表者以外の受講生も、発表後に十分な討論ができるよう、事前に関連文献などを予習する。発表技法や研究技法に関しては、適宜指導する。

Based on their own interests, students choose a chapter in a recent book introducing cognitive-psychological studies with physiological measurements, such as electroencephalogram, brain blood flow, and eye movements, for presentation. Presented material then be discussed and debated by the whole class.

The presenter(s) prepare a slide for the presentation. Students who are not presenting are also expected to investigate relevant literature in advance and contribute to the discussion. Guidance regarding presentation and research techniques will be provided as necessary.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクションおよび発表内容の決定 / Introduction and determination of presentation contents
- 【2】: スライド発表と討論 (1) / Slide presentation and discussion (1)
- 【3】: スライド発表と討論 (2) / Slide presentation and discussion (2)
- 【4】: スライド発表と討論 (3) / Slide presentation and discussion (3)
- 【5】: スライド発表と討論 (4) / Slide presentation and discussion (4)
- 【6】: スライド発表と討論 (5) / Slide presentation and discussion (5)
- 【7】: スライド発表と討論 (6) / Slide presentation and discussion (6)
- 【8】: スライド発表と討論 (7) / Slide presentation and discussion (7)
- 【9】: スライド発表と討論 (8) / Slide presentation and discussion (8)
- 【10】: スライド発表と討論 (9) / Slide presentation and discussion (9)
- 【11】: スライド発表と討論 (10) / Slide presentation and discussion (10)
- 【12】: スライド発表と討論 (11) / Slide presentation and discussion (11)
- 【13】: スライド発表と討論 (12) / Slide presentation and discussion (12)
- 【14】: スライド発表と討論 (13) / Slide presentation and discussion (13)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習が必要な場合はその都度指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容と発表技量:50% 議論への参加と出席:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本生理心理学会(企画)堀忠雄・尾崎久記(監修)室橋春光・苧阪満里子(編集) 生理心理学と精神生理学 第Ⅲ巻 展開 北大路書房 2018 9784762830198

社会心理学特殊研究

Advanced Studies in Social Psychology

石黒 格 (ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM205
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生の研究関心に合わせた英字文献を講読し、各自の研究の推進に貢献する。

In this course, students will read English articles following their research interests to make progress in their research.

授業の内容 / Course Contents

現代人の社会関係に関わる文献として、2025 年度は The Psychology of Sociability を提案しますが、履修者各自が、自らの研究関心に合わせて文献を持ち寄ることを推奨します。一人で読むのは難解だと感じる文献を、誰かと一緒に読むというかたちで利用してかまいません。

The instructor suggests to read a book titled "The Psychology of Sociability" in this course. However, students will be strongly recommended to suggest other articles that they consider important for their research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンスと担当者決定
- 【2】: Ch. 1 and 2
- 【3】: Ch. 3 and 4
- 【4】: Ch. 5 and 6
- 【5】: Ch. 7 and 8
- 【6】: Ch. 9 and 10
- 【7】: Ch. 11 and 12
- 【8】: Ch. 13 and 14
- 【9】: 学生提案文献
- 【10】: 学生提案文献
- 【11】: 学生提案文献
- 【12】: 学生提案文献
- 【13】: 学生提案文献
- 【14】: 学生提案文献

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献を読み、発表資料を準備する。あるいは、各自で文献の探索と講読を行う。文献を提示するときには、単に1つの文献を見つけて発表するのではなく、複数の文献を読んだ上で、特に面白い、あるいは重要なものを発表するのが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 議論への貢献:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

産業・組織心理学特殊研究

Advanced Studies in Industrial/ Organizational Psychology
PRE-SUASION

小口 孝司(OGUCHI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM206
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

産業・組織心理学に密接に関わる下記のテキストを用いて、pre-suasion について考察を深め、以て各自の研究への応用を図る。さらに、研究に対する批判力と、研究を大局的な視点から評価する力を養う。また、研究についてのディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。

The concept of “pre-suasion” which is closely related to Industrial/Organizational psychology will be examined while referring to the below text. Students will seek applications to their research. They will improve their ability to evaluate research critically and take a global view of it. In addition, students will hone their discussion and presentation skills.

授業の内容 / Course Contents

Robert Cialdini 教授による古典的名著とされる“Influence”が上梓されてから、30年以上が経ている。それは如何に人を動かすかの原理、原則を解説したものである。彼が他人を動かすための前準備のテクニックについて解説したものが、この“Pre-suasion”である。Pre-suasion とは、pre(前)と suasion(勧告・説得)を合わせた Cialdini 教授による造語である。本書を輪読する。その際、担当者は、各章(節)を担当して解説する。さらにその章で紹介されている研究の中で、担当者が最も興味深かったと思う研究論文についても調べ、併せてその概要を紹介する。その後、受講生の間で議論をして理解を深めるとともに、各人の研究テーマとの関連性を考究していく。

More than 30 years have passed since Professor Robert Cialdini published his classic book Influence. In it, he explained the theory and principles at play when convincing or getting a person to do something. Then in his book Pre-suasion, he elucidated the technique involved in preparing a person in advance to persuade more easily. Professor Cialdini coined the term “pre-suasion” by combining “pre” (i.e., in advance) with “-suasion” (from “persuasion”). The chapters of Professor Cialdini’s book will be divided among the registered students. Each student will be responsible for understanding and explaining his/her assigned section. Within that section, the student should select the research that interested him/her the most, find other related articles, and present a summary. Through discussion and debate, the class will further deepen their understanding of the material and examine its relevance to each student’s research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: 担当章(節)の決定
- 【3】: Privileged moments
- 【4】: The importance of attention
- 【5】: What’s focal is causal
- 【6】: Commanders of attention
- 【7】: The primacy of associations
- 【8】: Persuasive geographies

- 【9】: The mechanics of pre-suasion
- 【10】: Six main roads to change
- 【11】: Being together
- 【12】: Acting together
- 【13】: Ethical use
- 【14】: Post-suasion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

下記のテキストを輪読する。その際、担当者を各章(あるいは各節)ごとに決める。担当者は、レジュメを作成して、受講者全員に配布する。レジュメには章の要約とそこに示されている1つの研究の要約も記載すること。レジュメに基づいて発表を行った後、全員で討論を行う。自分の担当章(節)以外の部分にも目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当発表:50% 討論への参加:50%

テキスト / Textbooks

Cialdini, R. Pre-suasion Simons & Schuster 2016 978501109799

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

心理学科を卒業程度の心理学的基礎知識、ならびに統計学の知識を有し、活用していることが求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

応用行動分析学特殊研究

Advanced Studies in Applied Behavior Analysis

発達障害を手がかりとした障害、人権理念および支援制度の理解と心理支援

山崎 晃史 (YAMAZAKI KOUJI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM207
授業形態	オンデマンド(全回オンデマンド)	授業形態(補足事項)	大学の金曜日の授業日に合わせて14回配信する。配信の翌週指定日までにフォームでリアクションを求める。
校地	新座	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

福祉分野に関わる公認心理師の実践として障害(特に発達障害)をもつ児童や人の心理社会的課題を理解する。その支援と方法について保健、医療、福祉、教育の諸制度をふまえながら実践できる力量を身につける。共生する社会の実現を念頭に、多職種連携協働(IPW)による支援のあり方を具体的に理解する。

As practicing of Certified Public Psychologists involved in the field of social welfare, students will gain an understanding of the psychosocial issues surrounding children and adults with disabilities (especially those with developmental disorders). While acquiring a full understanding of the healthcare, medical, welfare, and educational institutions involved, they will gain competence in support procedures and in the actual support of such people. Always bearing in mind the end goal of coexistence within society, they will also come to understand in detail how support is provided through interprofessional working (IPW).

授業の内容 / Course Contents

リアクションや質問に応答しながら講義を進める。

まず、1)障害を理解する諸視点を学び、2)ノーマライゼーションやインクルージョンといった人権理念の展開と現状を取り上げる。そして、3)ケアマネジメントや多職種連携協働(IPW)の手法を学び、4)制度や社会資源の全容を把握しながら、5)発達障害を手がかりにライフサイクルに沿った心理支援の実際に触れる。また、6)発達障害領域の心理支援のトピックスを取り上げる。

なお本授業では、福祉分野に関わる公認心理師のあり方を具体的に考察していく。

The lecture will proceed by responding to reactions and questions.

After first (1) considering a variety of perspectives on the understanding of disease, we will (2) examine “normalization” and “inclusion” as human rights, as well as their expansion and current status. We will then (3) cover techniques for care management and interprofessional working (IPW), (4) grasp the “big picture” of societal resources and institutions, and (5) touch upon the realities of providing psychological support at key points during the life cycles of the developmentally disabled. Finally, we will (6) deal with some topics in the area of psychological support to the developmentally disabled.

Moreover, this class will consider the actual duties of certified public psychologists who work in the field of welfare.

授業計画 / Course Schedule

【1】:【障害をもつ児者の支援の核にあるもの】

滝乃川学園創始者石井亮一の生涯を紹介し支援を支える価値観を考える。

授業期間中に課す調べ学習について説明する。

【2】:【障害観の変容】

ノーマライゼーションおよびインクルージョンが障害領域の中心理念となったこと、障害の捉え方が社会モデルを取り入れたもの(国際生活機能分類など)になったことを理解する。合理的配慮の考え方についても触れる。

【3】:【障害福祉における「生活のしづらさ」という視点】

障害福祉領域における心理支援を生活臨床の一環と捉え、「生活や学びのしづらさ」に応じていく実際を事例に基づき理解する。心理支援とソーシャルワークがそれぞれ独自性を保ちながらも融合する実態を確認する。

【4】:【連携とは何か】

障害福祉は連携と協働によって成り立つこと、それは役割分担をし、他機関にリファーすること以上の重要なテーマ(=支援が行き届かない領域を無くすこと)を抱えていることを理解する。関連してケアマネジメントおよび専門職連携協働の考え方に触れる。

【5】:【障害福祉の制度】

幸せな生活を支えるしくみとしての障害福祉は、さまざまな場面を想定した多様なサービスから成り立っていることを理解する。

【6】:【障害の原因理解をめぐる議論】

発達障害や精神障害の多くが脳の機能障害とされているそのことをあらためて考える。人との関係性を含めた環境要因の重要性と障害理解におけるその位置づけを理解する。

【7】:【中間まとめ】

リアクションや質問に応じてここまでの授業を補足するとともに、必要に応じて障害福祉を巡る時事的な話題に触れる。

【8】:【初期支援における心理支援】

乳幼児期の支援の全体像と、公認心理師の役割について理解する。

【9】:【インクルーシブ保育】

インクルーシブな保育の実際を視聴覚教材で確認しながら、育ち合う保育の意義を理解する。

【10】:【障害児教育の歴史に学ぶ】

イタール、セガン、モンテッソーリなどの先人が切り開いた感覚教育、自発性の教育の姿から、児童期の支援に必要な視点を理解する。

【11】:【発達支援の諸方法の活用】

認知発達治療、応用行動分析、構造化、ペアレントトレーニングなどのいわゆる「療育」を公認心理師はどのように用いるべきなのか、臨床の場を想定しながら考える。

【12】:【インクルーシブ教育】

インクルーシブ教育の理念、実際、課題を理解する。インクルーシブ教育の実際を記録した番組動画を参照する。

【13】:【成人期の支援】

障害を持つ方々の生活とその支援の実際を取り上げる。就労支援の実際についても触れる。

【14】:【さまざまな課題と本講義のまとめ】

成人期の支援について補足し、障害領域を巡るさまざまな課題を取り上げ、講義全体を総括する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容に対応したテキスト箇所をよく読み込むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業各回リアクション:40% 調べ学習報告:30% レポート:30%

テキスト / Textbooks

大石幸二監修・山崎晃史編著 公認心理師・臨床心理士のための発達障害論 学苑社 2019 9784761408046

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

発達障害の診断と支援について基礎的なことがらを理解していること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

指定の Google クラスルームに授業動画や資料を掲載する予定。

その他 / Others

公認心理師を目指している院生向けに内容を構成します。コミュニティや社会のあり方を問うソーシャル・アクション的な臨床の視点を提供します。公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として医療、福祉のなかで業務を行ってきた経験から話をします。

発達心理学特殊研究

Advanced Studies in Developmental Psychology

白井 述 (SHIRAI NOBU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM209
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

発達心理学と関連する様々な研究トピックスについて能動的に学ぶことで、ヒトの心の発達に関する発展的知識を身につける。

Students are expected to actively learn about various research topics in developmental psychology and to acquire advanced knowledge about the development of the human mind.

授業の内容 / Course Contents

毎回の授業の発表担当者を決めて、割り当て回のテーマに関する発表をしてもらう。担当者の発表内容について履修者全員で議論を行う。

In every-week class, several presenters will be pre-selected from students. The presenters prepare a presentation about assigned research topics regarding developmental psychology. The other students must participate in discussion after the presentations to promote learning of the research topics shown in the presentations.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 学習方法のガイダンス・各授業回の発表担当者の割り当て
- 【2】: 乳児期 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【3】: 乳児期 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【4】: 幼児期から児童期 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【5】: 幼児期から児童期 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【6】: 成人期以降から老年期 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【7】: 成人期以降から老年期 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【8】: 発達と脳 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【9】: 発達と脳 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【10】: 非定形な発達 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【11】: 非定形な発達 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【12】: 発達と教育 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【13】: 発達と教育 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当者は十分な準備をして発表に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表担当会の発表内容:50% 毎回の授業での議論への貢献度:50%

テキスト / Textbooks

特に無し。必要があれば授業内で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

特に無し。必要があれば授業内で適宜紹介する。

心理統計法特殊研究

Advanced Studies in Statistical Methods for Psychology

川久保 惇(KAWAKUBO ATSUSHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM213
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5220
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

心理学研究において用いられる主要なデータ解析法について、理論的な枠組みを理解する。

自分の研究領域と関心に基づく研究課題(リサーチクエスチョン)に対応したデータ分析の方法を適切に選択できるようになる。

誤用を避け、結果を適切に解釈できるよう分析方法の理論的な理解を深めつつ、具体的な分析手続を習得する。

Students will come to understand the theoretical framework behind the major data analysis methods used in psychology research.

They will then be able to select the most suitable analysis method(s) for their own respective fields and for research questions that interest them.

As they deepen their theoretical understanding of the methods, students will also practice analysis procedures using computer software, both of which will equip them to interpret results properly and avoid misuse.

授業の内容 / Course Contents

代表的なデータ解析法を取り上げ、理論的な考え方、分析手順、ソフトウェアの使い方、分析における留意点について理解を深める。

「心理学研究」、「社会心理学研究」、「パーソナリティ心理学研究」などに掲載されている論文内で使用されている分析についても紹介する。

The course will cover representative data analysis methods to deepen students' understanding of theoretical concepts, analysis procedures, software usage, and points to keep in mind when analyzing data.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 導入

【2】: 統計法の基礎の確認

【3】: 平均値の比較①

t 検定

【4】: 平均値の比較②

分散分析

【5】: χ^2 二乗検定

【6】: 回帰分析

【7】: 階層的重回帰分析と調整分析

【8】: 媒介効果の分析

【9】: 探索的因子分析と尺度構成

【10】: 確認的因子分析

【11】: 共分散構造分析(構造方程式モデリング)の基礎

【12】: 共分散構造分析の応用

【13】: 分析例の紹介

【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の発表:50% 授業内での取り組み:50%

テキスト / Textbooks

授業時にそれぞれのデータ解析法に応じた文献を指示する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

現代心理学特殊研究

Advanced Studies in Contemporary Psychology

花井 友美 (HANAI TOMOMI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM214
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5920
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・観光心理学の分野における主要なトピックを理解する
- ・上記について、理論に基づき説明できる
- ・Understand the main topics in the field of tourist psychology.
- ・Explain the above based on theory.

授業の内容 / Course Contents

観光分野において、社会心理学の知見がどのように活用されているのか、また、今後どのような形で活用が期待できるのかを幅広く講義する。本講義では、具体的な観光の取り組み事例と関連する研究事例をリンクさせながら、より深い理解を促す形で進めていく。

This lecture will provide a broad overview of how social psychology is being used in the field of tourism, and how it can be expected to be used in the future. This lecture will promote a deeper understanding by linking specific tourism initiatives with related research cases.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション:

- ・授業の概要、授業計画、評価基準等を説明する
- ・本授業で扱う主要なトピックについて説明する

【2】: 現代の観光:

- ・観光に関するデータ(主にオープンデータ)を紹介する
- ・さまざまな観光の形態について説明する

【3】: 旅行者と観光動機:

- ・観光動機の構造について説明する
- ・観光動機を扱った研究事例を紹介する

【4】: 旅行の意思決定過程:

- ・旅行時の意思決定過程のモデルについて説明する
- ・旅行時の意思決定過程に関する研究事例を紹介する

【5】: サービス品質と満足度

- ・SERVQUAL モデルについて説明する
- ・SERVQUAL モデルに関する研究事例を紹介する

【6】: 観光と教育

- ・観光教育と教育観光について説明する
- ・修学旅行に関する研究事例を紹介する

【7】: 中間のまとめ:

- ・これまでの内容を概観し、整理した上でこれからの観光研究について考える

【8】: ディスティネーション・イメージ

- ・ディスティネーション・イメージ及びその測定方法について説明する
- ・ディスティネーション・イメージに関する研究事例を紹介する

【9】: SNS とディスティネーション・イメージ

- ・SNS からディスティネーション・イメージを把握する方法について説明する
- ・SNS により生成されるディスティネーション・イメージに関連する事例を紹介する

【10】: バーチャル観光

- ・バーチャル観光の事例を紹介する

【11】: 新技術の受容とバーチャル観光

- ・技術受容モデル (TAM) について説明する
- ・バーチャル観光に関する研究事例を紹介する

【12】: インスタ映えの心理

- ・旅の写真を投稿する心理的背景について説明する
- ・インスタ映えに関する研究事例を紹介する

【13】: 観光 DX

- ・観光 DX の事例を紹介する
- ・観光 DX の進展と課題について説明する

【14】: 総まとめ

- ・講義内容の確認と総括を行う

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義内容に基づくレポート課題(複数回):60%

最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

橋本俊哉 観光行動論(観光学全集) 原書房 2013 4562091916

認知・身体心理学特殊研究

Advanced Studies in Cognitive and Embodied Psychology

温 文(WEN WEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM216
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・認知・身体心理学の関連領域の最新の研究知見に触れ、先行研究を批判的な視点から検証し、クリティカルシンキング・プレゼンテーション・ディスカッション能力を鍛える。
- ・認知心理学、認知神経科学、実験心理学等幅広く文献調査する能力、文献調査の結果を批判的にまとめる能力等、研究者にとって必要な能力を身につける。
- ・レプリケーション研究の意義と方法を理解し、既存研究の結果や過程の信頼性を検証する方法、ジャーナルやプレプリントに掲載する方法を把握する。

Students will learn the latest research findings through literature research and will learn to present and discuss these findings with a critical view. Students will also acquire the skills of collecting and reviewing literature from cognitive psychology, cognitive neuroscience, experimental psychology and other relevant fields. At last, students will acquire knowledge and skills regarding replication studies, including methods and publications.

授業の内容 / Course Contents

- ・最近の研究論文についてプレゼンテーション形式で発表し、批判的な観点から討論を行う。
- ・自分自身が興味を持つテーマに関する文献調査を行い、文献調査の結果に関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。
- ・履修生全体でレプリケーション研究の計画を立て、一つレプリケーション研究を分担して行い、ジャーナルまたはプレプリントに掲載する一連の作業を行う。

Students will give presentations regarding recently published papers. Students will also be required to conduct literature review and give a presentation of the review. Discussions will be conducted after each presentation. Finally, all students will plan of a replication study together and conduct the study through the term and attempt to publish the results on pre-registered journals or preprint sites.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 研究発表・討論
- 【3】: 研究発表・討論
- 【4】: 研究発表・討論
- 【5】: 研究発表・討論
- 【6】: 研究発表・討論
- 【7】: 研究発表・討論
- 【8】: 研究発表・討論
- 【9】: 研究発表・討論
- 【10】: 研究発表・討論

【11】: 研究発表・討論

【12】: 研究発表・討論

【13】: 研究発表・討論

【14】: 研究発表・討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表論文や文献調査の論文を事前によく読んでくること。またレプリケーション研究をするための実験と解析を授業時間外に行う必要がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への取り組み:30% 発表による評価:40% 討論による評価:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

知覚心理学特殊演習

Advanced Seminar on Perceptual Psychology

氏家 悠太(UJIIE YUTA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM301
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

知覚心理学およびその関連領域(認知心理学, 実験心理学, 認知科学, 発達科学等)の最新の研究知見に触れ, 各自の研究スキルの発展および研究成果の公表を目指す。

Through learning recent research findings in perceptual psychology and related fields (cognitive psychology, experimental psychology, cognitive science, developmental science, etc.), this class will promote the development of participants' research skills and enable them to publish their research findings.

授業の内容 / Course Contents

知覚心理学およびその関連領域(認知心理学, 実験心理学, 認知科学, 発達科学等)に関する自身の研究内容について, 最新の知見と絡めてプレゼンテーション形式で発表を行う。そして, 履修者全員で研究内容の改善点や発展案について議論・討論を行う。これらを通じて, 研究成果が国内外の学会だけではなく国際査読誌で公表されるよう, 研究内容の深化を行う。

履修者自身の研究データをもとに授業を進める。そのため, 知覚心理学およびその関連領域の研究を遂行している学生の履修を推奨する。

Each student will present their research and engage in discussions related to the latest findings in perceptual psychology and associated fields, such as cognitive psychology, experimental psychology, cognitive science, and developmental science. Following each presentation, all students will collectively discuss and debate the content, offering suggestions for improvements. Through these activities, students deepen their research and prepare for publishing their research findings at domestic and international conferences and in refereed international journals.

The class will be based on the participants' own research results. Therefore, students who are conducting research in perceptual psychology or a related field may register for this class.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス
- [2]: 研究発表・討論(1)
- [3]: 研究発表・討論(2)
- [4]: 研究発表・討論(3)
- [5]: 研究発表・討論(4)
- [6]: 研究発表・討論(5)
- [7]: 研究発表・討論(6)
- [8]: 研究発表・討論(7)
- [9]: 研究発表・討論(8)
- [10]: 研究発表・討論(9)
- [11]: 研究発表・討論(10)

【12】: 研究発表・討論(11)

【13】: 研究発表・討論(12)

【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自身の研究内容に関連する英語文献を可能な限り多く調べること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 出席・討論:40%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

認知心理学特殊演習

Advanced Seminar on Cognitive Psychology

都築 誉史 (TSUZUKI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM303
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

人間の高次認知過程や情報行動に関する履修者ごとのテーマについて、研究発表とカンファレンスを行い、実証的研究を遂行する知識と技能を習得する。

In this course, students (1) make presentations and hold conferences on subjects related to higher cognitive processes and information behavior and (2) acquire the knowledge and skills to perform empirical research.

授業の内容 / Course Contents

発表者は、高次認知過程(記憶, 知識, 言語理解, 問題解決, 推論, 意思決定など)や情報行動に関する最近の英文学術雑誌論文を広く展望し、批判的な検討を加えて研究テーマを設定し、実験方法も含めたレポート発表を行う。このレポート発表について、全員で討論する。発表技法, 研究法(実験手法やデータ解析), 論文執筆などについても適宜指導を行う。

研究カンファレンスを実施し、履修者各自の研究と、担当者が中心となって進めている研究の進捗状況について、意見交換や情報交換を積極的に行う。

授業の内容や進め方については、初めに面談を行い、受講者の専門分野や学習希望内容を十分配慮する。

In this course, students broadly review recent English academic journal articles on higher cognitive processes (e.g., memory, knowledge, language understanding, problem solving, reasoning, decision making) and information behavior and then formally present them to the other students. Critical examination of the research theme should be included, and a report including the experimental method is submitted. All students discuss this report. The instructor also provides guidance on presentation techniques, research methods (experimental methods and data analysis), and the writing of research papers when necessary.

The students in charge hold research conferences and actively exchange opinions, information, and progress on their research. At the beginning of the course, interviews are held regarding the content and method of the course, during which the students' specialization and the content of their study is carefully considered.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:レポート発表と討論(1)
- 【3】:レポート発表と討論(2)
- 【4】:レポート発表と討論(3)
- 【5】:レポート発表と討論(4)
- 【6】:レポート発表と討論(5)
- 【7】:レポート発表と討論(6)
- 【8】:レポート発表と討論(7)
- 【9】:レポート発表と討論(8)

- 【10】:レポート発表と討論(9)
- 【11】:実験手法とデータ解析(1)
- 【12】:実験手法とデータ解析(2)
- 【13】:実験手法とデータ解析(3)
- 【14】:実験手法とデータ解析(4)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容と発表技量:50% 議論への参加と出席:50%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

<https://www2.rikkyo.ac.jp/~tsuzuki/>

<https://www2.rikkyo.ac.jp/web/tsuzukisemi/>

社会心理学特殊演習

Advanced Seminar on Social Psychology

石黒 格 (ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM305
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会心理学研究に必要とされる知識、技術を習得し、各自の研究の質を高めることを目標とする。

This class aims to improve students' research quality by furnishing the knowledge and techniques required to work in social psychology and quantitative surveys.

授業の内容 / Course Contents

リサーチ・ミーティング形式で行う。毎回、各自が自らの研究計画と進捗状況、遭遇している問題点について発表し、その後、教員を含めた全員で議論を行う。必要に応じて、技術的な説明を行う。

The class will be structured as if it was a research conference. Students will report their current progress and difficulties regarding their research. Based on these, the adviser and students will have a discussion regarding the research. If necessary, the adviser will give technical advice to the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 発表と議論
- 【2】: 発表と議論
- 【3】: 発表と議論
- 【4】: 発表と議論
- 【5】: 発表と議論
- 【6】: 発表と議論
- 【7】: 発表と議論
- 【8】: 発表と議論
- 【9】: 発表と議論
- 【10】: 発表と議論
- 【11】: 発表と議論
- 【12】: 発表と議論
- 【13】: 発表と議論
- 【14】: 発表と議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自が、各自の研究を遂行した上で、自分の担当回にはその成果についてまとめる。また、授業後は議論の内容を研究に反映させる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 議論への貢献:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

産業・組織心理学特殊演習

Advanced Seminar on Industrial/ Organization Psychology
 産業・組織心理学、観光心理学、社会心理学の演習

小口 孝司(OGUCHI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM306
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

産業・組織心理学、観光心理学、社会心理学を行うにあたっての知識、基本的技法を習得するとともに、研究の質を高める方法を具体例を交えながら明らかにしていくことを目標とする。

This class aims to improve research quality by furnishing the knowledge and techniques required to work in industrial and organizational psychology, tourism psychology, and social psychology.

授業の内容 / Course Contents

授業は研究カンファレンスの形式で実施し、履修者各自の研究と、研究室が推進するプロジェクト研究について、進捗状況の報告、意見交換、情報交換、相互アドバイスなどを行う。必要に応じて、必要な技法の習得の実習を行う。

This course is structured as if it were a research conference. Students give progress reports on their research and on projects underway in their respective laboratories. Based on these reports, they exchange opinions and information and provide each other advice to each other. If necessary, opportunities to practice relevant techniques can be arranged.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:研究カンファレンス1
- 【2】:研究カンファレンス2
- 【3】:研究カンファレンス3
- 【4】:研究カンファレンス4
- 【5】:研究カンファレンス5
- 【6】:研究カンファレンス6
- 【7】:研究カンファレンス7
- 【8】:研究カンファレンス8
- 【9】:研究カンファレンス9
- 【10】:研究カンファレンス10
- 【11】:研究カンファレンス11
- 【12】:研究カンファレンス12
- 【13】:研究カンファレンス13
- 【14】:研究カンファレンス14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	
-------------	--

校外実習・フィールドワーク	
---------------	--

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

履修登録の前提として、産業・組織心理学、観光心理学、社会心理学の基礎知識が必須である。履修後はメーリングリスト等で授業に必要な準備の指示を適宜行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 自身の研究の質・量:50% 研究カンファレンスでの積極的発言:50%

テキスト / Textbooks

必要な資料は授業で配布する。

参考文献 / Readings

授業中に随時紹介する。

発達心理学特殊演習

Advanced Seminar on Developmental Psychology

白井 述 (SHIRAI NOBU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM309
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

発達心理学やその関連諸分野の最新の知見に触れる。またそうした知見と自分自身の研究との関係性を整理し、自分の研究目標を学術的な文脈において相対化する。

Students are expected to acquire updated findings in developmental psychology and relevant research areas and to re-estimate one's own research in the context of the previous relevant research.

授業の内容 / Course Contents

毎回の授業に発表者を割り当てる。発表者は自分自身の研究上の関心と関連する先行研究に関するレビューを行い、その内容と自身の研究とを関連付けて発表する。その後、発表者以外の履修者も交えて発表内容についての質疑応答を行う。

In an every-week class, a presenter will be pre-selected from students. The presenters prepare a presentation of a mini-review of a research topic in accordance with her/his research interests. The other students must participate in the discussion after the presentation to promote learning of the research topic shown by the presenter.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 授業のガイダンス・毎回の発表担当者の割当
- 【2】: 担当者による発表とそれに基づく議論
- 【3】: 担当者による発表とそれに基づく議論
- 【4】: 担当者による発表とそれに基づく議論
- 【5】: 担当者による発表とそれに基づく議論
- 【6】: 担当者による発表とそれに基づく議論
- 【7】: 担当者による発表とそれに基づく議論
- 【8】: 担当者による発表とそれに基づく議論
- 【9】: 担当者による発表とそれに基づく議論
- 【10】: 担当者による発表とそれに基づく議論
- 【11】: 担当者による発表とそれに基づく議論
- 【12】: 担当者による発表とそれに基づく議論
- 【13】: 担当者による発表とそれに基づく議論
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当者は十分な発表準備をして担当回に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表担当回における発表の内容:50% 毎回の授業における議論への貢献度:50%

テキスト / Textbooks

特に無し。

参考文献 / Readings

特に無し。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

発表者と聴衆との間の積極的なディスカッションを期待します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

特になし。

現代心理学特殊演習

Advanced Seminar on Contemporary Psychology
心理学専攻(前期課程)における総合演習

石黒 格/温 文/白井 述/小口 孝司/氏家 悠太/都築 誉史 (ISHIGURO ITARU/ WEN WEN/ SHIRAI NOBU/ OGUCHI TAKASHI/ UJIIE YUTA/ TSUZUKI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM311
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5920
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生が自身の研究について発表を行い、他の大学院生や専攻教員からの質問やアドバイスを受けることによって、自身の研究テーマ、方法、分析などの向上を図る。さらに他の大学院生の研究報告を聞き、討論を行うことを通して、心理学研究への多面的な理解を深め、研究能力を伸長させることを目標とする。

Each student will give a presentation on his/her own research. Following each presentation, improvements to the research theme, methods, analysis, etc., will be sought through questions and advice from faculty members and other graduate students. Additionally, as you discuss and question the research reported by other graduate students, you will deepen your understanding of psychology from multiple perspectives and thereby improve your own research competence.

授業の内容 / Course Contents

この授業は心理学専攻所属教員全員による研究指導の場である。基本的には、研究指導教員全員と、大学院博士課程前期課程・後期課程の大学院生全員が、毎回授業に出席する。司会進行や運営は大学院生が行う。大学院生による研究発表に対し、全員で積極的に討論を行い、指導教員・副指導教員以外の研究指導教員からもアドバイス等をもらう。

This class serves as a venue for receiving research guidance from all faculty members of the Graduate Program in Psychology. In principle, all faculty advisors and all doctoral program and master's program students will attend each session. Graduate students will manage and lead the sessions. All attendees will assertively discuss and raise questions about the research presented by graduate students. Although each student's own advisor and sub-advisor will be present, any faculty member may address advice, questions, etc., to any graduate student.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:研究発表と討論(1)
- 【3】:研究発表と討論(2)
- 【4】:研究発表と討論(3)
- 【5】:研究発表と討論(4)
- 【6】:研究発表と討論(5)
- 【7】:研究発表と討論(6)
- 【8】:研究発表と討論(7)
- 【9】:研究発表と討論(8)
- 【10】:研究発表と討論(9)
- 【11】:研究発表と討論(10)

【12】: 研究発表と討論(11)

【13】: 研究発表と討論(12)

【14】: 演習全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®] 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自で自らの研究を遂行し、発表する「タネ」を作成していくこと。その上で、担当回の直前に、そこまでに得た成果をまとめて発表資料を作成する。発表後は、受けたフィードバックについて指導教員とも話し合いながら、研究に反映させていく。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究発表:70% 討論参加:30%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自分の発表だけをして終わるのではなく、他の履修者の発表に対して建設的な提案をする能力。

認知・身体心理学特殊演習

Advanced Seminar on Cognitive and Embodied Psychology

大畑 龍(OHATA RYU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM313
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで6回実施する(3・4・6・7・9・10回)。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

認知心理学・認知神経科学の基礎的知見を学習しながら、最新の研究論文を読み解き、批判的な立場から検証を行える、クリティカルシンキング能力を鍛える。

認知心理学、認知神経科学、実験心理学等幅広く文献調査する能力、文献調査の結果を批判的に考察できるディスカッション能力など、研究を行う大学院生が身に着けるべき基礎的能力を養成する。

・正確で理解しやすい形で自身の研究内容の発表や研究成果の公表ができるプレゼンテーション能力を養う。

Students will train critical thinking skills through analyzing and critically evaluating the latest research articles from a critical perspective while learning the fundamental knowledge of cognitive psychology and cognitive neuroscience.

Students will also improve research skills necessary for graduate-level studies, such as comprehensive literature reviews in cognitive psychology, cognitive neuroscience, and experimental psychology. Finally, students will develop presentation skills to effectively communicate their research and findings in a comprehensible manner.

授業の内容 / Course Contents

・ 指定した認知心理学・認知神経科学の基礎的な知見、および最新研究に関する論文についてプレゼンテーション形式で発表し、批判的な観点から討論を行う。

・ 自分自身が興味を持つテーマに関する文献調査を行い、文献調査の結果に関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。

・ 履修生自身の研究計画、研究進捗について発表し、履修者全体で議論する。必要に応じて教員と個別面談を行う。

Students will give presentations on fundamental knowledge in cognitive psychology and cognitive neuroscience, as well as on recent research articles. Students will also be required to conduct a literature review on a topic of their interest and present their findings. Discussions will be conducted after each presentation. Students will present their own research plans and progress, engaging in group discussions. Individual meetings with the instructor will be arranged if necessary.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: 研究発表・討論

【3】: 研究発表・討論

【4】: 研究発表・討論

【5】: 研究発表・討論

【6】: 研究発表・討論

【7】: 研究発表・討論

- 【8】: 研究発表・討論
- 【9】: 研究発表・討論
- 【10】: 研究発表・討論
- 【11】: 研究発表・討論
- 【12】: 研究発表・討論
- 【13】: 研究発表・討論
- 【14】: 研究発表・討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表論文や文献調査の論文を事前によく読んでくること。またプレゼンテーションを事前によく準備すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への取り組み:30% 発表による評価:40% 討論による評価:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

心理臨床特殊研究1

Advanced Studies in Clinical Psychology 1

薛 海升(XUE HAISHENG)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM401
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5420
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ①研究倫理、質的研究法の基本的な考え方、臨床心理事例研究法など、各手法に関する基礎的な知識を得る。
- ②質的データの収集および分析に取り組み、質的研究法について実践的に理解する。

①Students will obtain basic concepts of qualitative research methods and basic knowledge about each method.

②Students will engage in the collection and analysis of qualitative data and gain a practical understanding of qualitative research methods.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、近年注目を集めている質的研究法について学習し、自らの研究基盤をつくることを目的とする。授業では、講義だけでなく、臨床心理事例研究を含む研究例を読み進めることで理解を深めていく。また、研究倫理を学び、インタビューを実践し、質的データ収集とその分析に取り組み、実践的に学んでいく。

この授業は研究法(つまり、方法)を学ぶ授業であり、方法を実践する自分自身のスタイルを自覚する授業でもある。授業で課される宿題や、研究法の実践、分析プロセスを体験することを通じて、技法の獲得のみならず、自己への覚知を促していきたい。

In this class, students will learn about qualitative research methods, which have been attracting much attention in recent years, with the aim of creating a foundation for their own research. In the class, students will deepen their understanding not only through lectures but also through reading research examples. In addition, students will learn practically by practicing interviews and working on qualitative data collection and its analysis.

This class is a class to learn research methods (i.e., methods) and to become aware of one's own style of practicing methods. Through homework assignments, practice of research methods, and experience in the analysis process, we hope to encourage students not only to acquire techniques but also to become more self-aware.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: オリエンテーション 研究倫理
- [2]: 質的研究とは何か
- [3]: 臨床心理学における質的研究の意義: 事例研究
- [4]: フィールドワーク、観察法の基礎
- [5]: 質的研究を読む 1(議論)
- [6]: インタビュー法の基礎、インタビューガイドの作成 1 問いを立てる
- [7]: インタビューガイドの作成 2 インタビューガイドの精緻化
- [8]: 質的研究を読む 2(議論)
- [9]: インタビューの実施とトランスクリプトの作成
- [10]: 質的研究を読む 3(議論)
- [11]: 質的研究の実習1 データを読み、分析する

- 【12】: 質的分析の実習2モデルをまとめあげる
- 【13】: 成果発表・講評
- 【14】: まとめ: 質的分析の様々な方法、質的研究の質と倫理

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業ではデータ収集、データ分析、発表において参加者個々人が適宜、PCを使用する。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、前授業の学習内容を振り返ってから授業に参加すること。また、研究法に関する資料および研究論文を読み、発表と議論の準備を行う。質的研究の演習はグループで実施するため、必要に応じて授業時間外に話し合いや授業の準備を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席および授業参加度:10% 課題提出:20% 発表:10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 能智正博 臨床心理学を学ぶ6 質的研究法 東京大学出版会 2011 9784130151368
- スタイナー・クヴァール 質的研究のための「インター・ビュー」 新曜社 2016 9784788514751
- 川喜田二郎 発想法ー創造性開発のために 中央公論社 1967 9784121001368
- 無藤隆・南博文・麻生武・やまだようこ・サトウタツヤ(編) 質的心理学ー創造的に活用するコツ 新曜社 2004 9784788509139
- 岩壁茂・杉浦義典(編) 臨床心理学 75(13 巻 3 号)研究の方法を知る 金剛出版 2013
- 丹野義彦(編) 臨床心理学全書 5 臨床心理学研究法 誠信書房 2004 9784414413250

精神医学特殊研究

Advanced Studies in Psychiatry

横田 英博 / 心理(未定) (YOKOTA HIDEHIRO / MITEI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM403
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5520
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

保健医療分野に関わる公認心理師に必要な精神医学・心身医学の基本的な知識を身につける。

Students will master the fundamentals of psychiatry and psychosomatic medicine to the extent required for licensed psychologists in healthcare services.

授業の内容 / Course Contents

主要な精神疾患の病態・症状・治療法等について、医師の視点から講義を行う。また、心療内科医の視点から、心身医学で用いる理論と技法、心身症の評価・治療方法についても講義を行う。

Lectures will be given on pathophysiology, symptoms, and treatment of major psychiatric disorders from the clinicians' point of view. This class will also cover theories and techniques in psychosomatic medicine and how to assess and treat psychosomatic disorders.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション、精神医学総論
- 【2】:気分症
- 【3】:統合失調症
- 【4】:強迫症、不安症
- 【5】:摂食症
- 【6】:自閉スペクトラム症
- 【7】:注意欠如多動症
- 【8】:心的外傷及びおよびストレス因関連症、パーソナリティ症
- 【9】:中間テスト
- 【10】:心身医学とは、心身医学で用いる理論と技法 1
- 【11】:心身医学で用いる理論と技法 2
- 【12】:心身医学で用いる理論と技法 3
- 【13】:心身医学で用いる理論と技法 4
- 【14】:最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内で扱う疾患については適宜説明を加えながら講義を行う。参考文献や初学者向けテキストに目を通し、授業前に用語に馴染むことや授業後に知識の整理を行うことを推奨する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間テスト:40% 授業・討論への参加態度:24% 最終テスト割合::36%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

尾崎紀夫/三村将/水野 雅文/村井俊哉/明智龍男 標準精神医学(第9版) 医学書院 2024 9784260053341

American Psychiatric Association DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル 医学書院 2023 9784260052184

岸本年史/高橋茂樹 New Simple Step 精神科 海馬書房 2020 9784883787173

吉内一浩 医学のあゆみ BOOKS 今日から実践! 日常診療に役立つ行動医学・心身医学アプローチ 医歯薬出版
2018 9784263206829

日本行動医学会 行動医学テキスト(第2版) 中外医学社 2023 9784498048294

日本心療内科学会 心療内科学 朝倉書店 2022 9784254322651

コミュニティ心理学特殊研究

Advanced Studies in Community Psychology

上田 将史 (UEDA MASAFUMI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM404
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5420
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

昨今、社会の複雑化を背景に、クライアントが抱える問題も多様化、複雑化している。また、国の施策も地域包括ケアシステムや多職種連携・協働の推進に向かう中で、人と環境との適合を図るためのアプローチについて理解を深めておくことは、支援にあたる者にとって必須と言えるだろう。これに加え、コミュニティのメンタルヘルスやウェルビーイングの増進に寄与することで、公認心理師や臨床心理士の社会的意義もより高まっていくと思われる。本講義では、コミュニティ心理学の理念や発想に基づくアプローチを学び、福祉・教育・産業・医療など様々な領域での運用方法について理解を深め、上記の力を身につけることを目的とする。

As society has become more complex in recent years, the problems faced by clients have diversified and become more complex as well. Also, as government policy seeks to promote comprehensive, regional care systems and inter-professional cooperation, a deep understanding of approaches to integrating people into their environments will be necessary for those undertaking the task of psychological support. Furthermore, as certified public psychologists and certified clinical psychologists contribute to the promotion of community mental health and wellbeing, their value to society is likely to increase. In this class, students will learn about approaches that are rooted in the philosophy and ideas of community psychology, and they will deepen their understanding of methods applicable in a variety of fields including welfare, education, industry, and medicine. The goal is for students to become competent in all of the above.

授業の内容 / Course Contents

①家族関係等集団の関係性に焦点をあてた心理支援の理論と方法及び②地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について取り上げる。さらに③心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用として、さまざまな介入や多職種協働について学ぶ。活動・実践についての発表・ディスカッション、演習を通してコミュニティ心理学的なアプローチについて理解を深める。

This class will examine ① the theory and methods of psychological support focused on human relationships within groups such as families, and ② the theory and methods of psychological support applicable to regional communities and groups/organizations. Moreover, students will learn about ③ the various interventions and inter-professional cooperation that employ psychological counseling, advice, guidance, etc. to ① and ② above. Students' understanding of Community Psychology-type approaches will be enriched through presentations, discussion, and seminars regarding practical know-how and activities.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: コミュニティ心理学の理念と発想
- 【3】: コミュニティ心理学的アプローチの特徴①
- 【4】: コミュニティ心理学的アプローチの特徴②
- 【5】: 予防的介入・心理教育

- 【6】: 危機理論と危機介入・心理教育
- 【7】: 地域・福祉領域におけるコミュニティ・アプローチ: 発表とディスカッション
- 【8】: 学校・教育領域におけるコミュニティ・アプローチ: 発表とディスカッション
- 【9】: 産業領域におけるコミュニティ・アプローチ: 発表とディスカッション
- 【10】: 医療・保健領域におけるコミュニティ・アプローチ: 発表とディスカッション
- 【11】: コンサルテーション①
- 【12】: コンサルテーション②
- 【13】: サポートネットワーキング
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内で行うワークやディスカッションに主体的に取り組むとともに、コミュニティにおける様々な問題に関心を持ち、関連資源との接点を作り、講義で学んだ観点から考察を深めていくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 授業への取り組みとディスカッションへの参加: 35% 発表準備と内容: 30% 最終レポート割合: 35%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

植村勝彦・高島克子・箕口雅博・原裕視・久田満編 よくわかるコミュニティ心理学[第3版] ミネルヴァ書房 2017 9784623080915

久田満・丹羽郁夫(編) コンサルテーションとコラボレーション (コミュニティ心理学シリーズ 2巻) 金子書房 2022 9784760892785

山本和郎 危機介入とコンサルテーション ミネルヴァ書房 2000 9784623032266

氏原寛・成田善弘編 コミュニティ心理学とコンサルテーション・リエゾン 培風館 2000 9784563056254

金沢吉展編 臨床心理的コミュニティ援助論 誠信書房 2004 9784414413311

山本和郎編 臨床心理学的地域援助の展開 培風館 2001 9784563056490

中島健一編 第17巻 福祉心理学 (公認心理師の基礎と実践) 遠見書房 2018 9784866160672

その他、授業の中で適宜紹介する。

心理療法特殊研究

Advanced Studies in Psychotherapy

西谷 晋二 (NISHITANI SHINJI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM405
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	PSY5420
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	集中講義 授業実施日は以下の通り 8月4日(月)・5日(火)1-5限、6日(水)1-4限 ※教室については授業開始前に Web 掲示板で確認すること		

授業の目標 / Course Objectives

心理支援場面において、子どもに出会うことは少なくないが、その際、セラピストに求められるのは、大人に比べて未成熟な彼らの言語を補うかのようなイメージ表現を読み取ることである。そのため、本授業ではプレイセラピーに必要な基礎知識を学ぶだけでなく、イメージ表現に対するアプローチ方法も習得することを目標とする。

For practitioners working in the field psychological support and therapy, dealing with children is not rare. For children, in comparison to adult clients, the therapist must interpret and employ more visually-oriented types of expression to compensate for the less mature language of children. Therefore, students will not only learn the basic knowledge required to conduct “play therapy,” but will also master approaches to visually-oriented types of communication.

授業の内容 / Course Contents

プレイセラピーの歴史や概論、セラピストとして必要な姿勢などの基礎的知識だけでなく、公認心理師、臨床心理士として日々成長する子どもの心の在りように対応すべく、力動的・認知発達の視点など応用的知識についても講義を行う。

In addition to basic knowledge of play therapy such as its history, an overview of the method, and the posture that the therapist must assume, lectures will also relate the know-how that a certified public psychologist or a clinical psychologist needs to care for children. Since children mature a bit each day, support must be provided from a dynamic, cognitive development perspective.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: オリエンテーション
- [2]: プレイセラピー概論
- [3]: プレイセラピーとユング心理学①
- [4]: プレイセラピーとユング心理学②
- [5]: プレイセラピーとユング心理学③
- [6]: プレイセラピーとユング心理学④
- [7]: プレイセラピーとユング心理学⑤
- [8]: プレイセラピーにおけるイメージ体験①
- [9]: プレイセラピーにおけるイメージ体験②
- [10]: プレイセラピーにおける表現療法
- [11]: ユング心理学と児童期
- [12]: ユング心理学と発達障害①
- [13]: ユング心理学と発達障害②
- [14]: まとめ・レポート提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講師が配布する資料に関して予習・復習を行うことはもちろんのこと、適宜挙げる参考文献についても目を通すこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:60% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

講師が用意・配布する資料を用いる。

参考文献 / Readings

河合隼雄 ユング心理学入門 培風館 1967 4563055115

M. スタイン ユング 心の地図(新装版) 青土社 2019 4791771583

C.G. ユング 分析心理学セミナー1925:ユング心理学のはじまり 創元社 2019 4422117084

その他、授業内で適宜挙げる。

その他 / Others

主に講師による講義形式で授業を進めるが、適宜、検討やワークを行うため、学生には主体的態度で授業に臨むことを求める。

学校心理学特殊研究

Advanced Studies in School Psychology

岩瀧 大樹 (IWATAKI DAIJU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UM406
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY5420
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学校心理学の観点から、知識や理論を理解し、現場で応用可能な技能を獲得する。学校・教育現場で有用な研究的姿勢を身に付ける。

To understand basic knowledge and theories from the perspective of school psychology, and to acquire skills that can be applied in the field. To acquire a research attitude that is useful in schools and educational settings.

授業の内容 / Course Contents

学校心理学に関する知識や理論を理解するために、事前に文献や書籍等を調べて発表する。現場で応用可能な技能を獲得するためにロールプレイを行い議論する。学校・教育現場で有用な研究的姿勢を身に付けるため論文を紹介し講義する。

To understand the basic knowledge and theories of school psychology, students will research literature and books in advance and present their findings. Role-plays will be conducted and discussed in order to acquire skills that can be applied in the field. There will be lectures and papers on how to develop research skills that will be useful in a school environment.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

イントロダクション 学校心理学とは

【2】:チーム学校

【3】:3段階の心理教育的援助サービス

【4】:4種類のヘルパー論, 援助要請

【5】:学校現場に入るまで

【6】:初回面接

【7】:アセスメント

【8】:本人面接

【9】:保護者面接

【10】:コンサルテーション・外部連携

【11】:不登校

【12】:特別支援・発達障害・精神疾患

【13】:ストレス/アンガーマネジメント・SST・アサーショントレーニング

【14】:危機対応

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、事前に内容に関する資料を読んできて、意見や疑問を持つこと。復習として、再度講義で学んだ理論に関する文献や資料を読むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点(リアクションペーパー, 授業態度, 出席):40% 授業内の小テスト1回:20% 最終レポート:20% 授業内に出した課題の提出:20%

テキスト / Textbooks

水野治久・石隈利紀 よくわかる学校心理学 ミネルヴァ書房 2013 9784623063963

山口豊一・松寄 くみ 学校心理学にもどづく教育相談 金子書房 2021 9784760824229

内田 利広・内田 純子 スクールカウンセラーの第一歩:学校現場への入り方から面接実施までの手引き 創元社 2011 9784422115115

半田 一郎 スクールカウンセラーと教師のための「チーム学校」入門 日本評論社 2020 9784535563858

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

積極的な授業態度, 論理的な思考力, ディスカッション力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCを持ってくること

その他 / Others

- PowerPoint を用いた講義を行う。
- 授業内で課外ワークでは事例検討やロールプレイ等を模して行う。

臨床心理学特論1

Advanced Studies in Clinical Psychology 1
 心理面接の基本－姿勢、目標、技法、機序－

山中 淑江(YAMANAKA YOSHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN101
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

複数の心理療法理論に基づく心理面接について、その姿勢、目標、技法、機序などを学び、さまざまな臨床現場における有用性を検討する。また、それらに通底する心理療法の意義、心理療法家としての在りようを学ぶ。

This course will study the attitude, goals, techniques, and mechanisms of psychological interviews based on multiple psychotherapy theories, and examine their usefulness in various clinical settings. It will also teach the underlying meaning of psychotherapy and how to be a psychotherapist.

授業の内容 / Course Contents

テキストを小グループで読み込み、理解した内容を発表する。特に関心のある点、疑問点などについて問題提議を行い、全体で討議する。面接の中でのクライアントとカウンセラーの発言や態度、そこで起こる様々なことがらについて、アセスメント、関係性、相互作用、などの点から検討し、変化の機序を考える。

Students will read the text in small groups and present what they have understood. They will raise issues of particular interest or questions and discuss them as a whole group. They will consider the comments and attitudes of the client and counselor during the interview, as well as the various events that occur there, from the perspectives of assessment, relationships, and interactions, and consider the mechanisms of change.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

ビデオ視聴(グロリアと3人のセラピスト:来談者中心療法)

ディスカッション

【2】:ビデオ視聴(グロリアと3人のセラピスト:来談者中心療法)

ディスカッション

【3】:テキストの購読と発表、ディスカッション

【4】:テキストの購読と発表、ディスカッション

【5】:テキストの購読と発表、ディスカッション

【6】:テキストの購読と発表、ディスカッション

【7】:テキストの購読と発表、ディスカッション

【8】:テキストの購読と発表、ディスカッション

【9】:テキストの購読と発表、ディスカッション

【10】:テキストの購読と発表、ディスカッション

【11】:テキストの購読と発表、ディスカッション

【12】:テキストの購読と発表、ディスカッション

【13】:テキストの購読と発表、ディスカッション

【14】:まとめと質疑応答**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための準備

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 発表:20% ディスカッション:20%

テキスト / Textbooks

C.R.ロジャーズ カウンセリングと心理療法―実践のための新しい概念― 岩崎学術出版 2005 4753305031

山上敏子 行動療法3 岩崎学術出版社 2003 4753303063

津川律子 面接技術としての心理アセスメント 金剛出版 2018 9784772416351

成田善弘 治療関係と面接 金剛出版 2005 4772408800

村瀬嘉代子 統合的心理療法の考え方 金剛出版 2003 4772407928

参考文献 / Readings

臨床心理学特論2

Advanced Studies in Clinical Psychology 2

思春期・青年期の心理臨床

大江 由香/矢部 浩章(OE YUKA/ YABE HIROAKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN102
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

思春期・青年期の心理臨床に必要な、①家族、友人や学校など環境面の理解と対応、②危機的状況への介入、③発達障害を持つクライアントへの対応について、事例検討やグループワークを通じて実践的な理解を深めることを目標とする。

The goal is to deepen practical understanding through case studies and group work on the following points which is essential in adolescent clinical psychology: 1) Understanding and responding to environmental factors such as his/her family, friends, and school; 2) intervention in crisis situations; and 3) responding to clients with developmental disorders.

授業の内容 / Course Contents

思春期・青年期における心理臨床の特徴について、テキストを読み進める中で理解を深め、思春期・青年期のクライアントにおける重要な点や留意点について考える。また、事例を通して、クライアントを取り巻く人間関係や環境への対応、連携や関わりについて考える。特に、思春期・青年期における心理臨床に起こりうる大きな問題としての危機介入、発達障害の問題、そしてカウンセリングへのグループワークの取り入れについても学ぶ。

Through reading the text books, deepen understanding of the characteristics of clinical psychological practice in adolescence and young adulthood, and consider the important points and considerations for adolescent and young adult clients. Also, consider responses to the interpersonal relationships and environment surrounding the client, as well as cooperation and involvement, through case studies. In particular, learn about crisis intervention as major issues that can arise in psychological clinical practice in adolescence and young adulthood, developmental disorders, and the incorporation of group works with counseling.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 概論とグループワーク 1
- 【3】: カウンセリングの基本 1
- 【4】: カウンセリングの基本 2
- 【5】: 事例検討「ある高校生の事例」
- 【6】: カウンセリングの基本 3
- 【7】: カウンセリングの基本 4
- 【8】: 危機介入のアプローチ 1
- 【9】: 危機介入のアプローチ 2
- 【10】: 発達障害のあるケース 1
- 【11】: 発達障害のあるケース 2

【12】:グループワーク2

【13】:事例検討2「グループワークを取り入れた事例」

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

あらかじめ指定した配布資料や参考文献を読み、各パートごとに担当者が要約と考察を発表し、それに基づくディスカッションを小グループで行う。関連する書籍、文献を読み、積極的に授業に参加すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業(ディスカッションやグループワーク)への参加:70% 発表準備と内容:30%

テキスト / Textbooks

河合隼雄 カウンセリングの実際問題 誠信書房 1970 4414401194

購入を推奨

・松本俊彦 著 もしも「死にたい」と言われたら 2015 中外医学社

・高石恭子・岩田淳子 編著 学生相談と発達障害 2012 学苑社

その他の資料は適宜配布する。

参考文献 / Readings

窪内節子 学生の主体性を育む学生相談から切り拓く大学教育実践 学苑社 2015 4761407697

授業内で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特記事項なし

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特記事項なし

その他 / Others

特記事項なし

臨床心理面接特論2

Advanced Studies in Psychotherapy 2

臨床心理面接の体験学習, 家族療法の基礎

山田 哲子(YAMADA TETSUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN104
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学面接の体験学習により、自分自身の感受性、イメージ、応答、苦手なところなどの臨床心理実践に関わる特徴を理解する。また、家族療法の基礎となる考え方を学ぶ。

By experiencing clinical psychology interviews first-hand, students will come to understand the peculiarities of your own receptivity, image, responses, weak points, etc. as they relate to the practice of clinical psychology. Also, students will learn the basic concepts of family therapy.

授業の内容 / Course Contents

いくつかの方法により、部分的に面接を体験し、グループワークなどの方法を用いて体験学習を行う。

自らの応答の特徴を理解する。

他者に対する成長促進的な関わりを学ぶ。

家族療法の基礎となる考え方を学ぶ。

Experience-based learning will be conducted through a variety of methods including group work and experiencing an interview part by part.

You will come to understand the peculiarities of your own responses.

You will also learn how to encourage growth in other people.

Also, you will learn the basic concepts of family therapy.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

【2】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。

【3】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。

【4】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。

【5】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。

【6】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。

【7】:面接場面の一部についてロールプレイを行い、その後、グループワークにより、自分や他者の面接の特徴について理解する。

【8】:家族療法の基礎を学ぶ

- 【9】: 家族療法の基礎を学ぶ
- 【10】: 家族療法の基礎を学ぶ
- 【11】: 家族療法の基礎を学ぶ
- 【12】: 家族療法の基礎を学ぶ
- 【13】: 家族療法の基礎を学ぶ
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の体験学習を振り返り、自己課題を明確にして次の学習の場にのぞむ。また、臨床実践と照らして自分の実践を振り返る。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・体験学習への積極的な参加:60%

最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

臨床心理査定演習2

Advanced Seminar in Personality Assessment 2

人格・行動の理解と臨床心理面接への応用

笠原 千秋/大石 幸二 (KASAHARA CHIAKI/ OISHI KOUJI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN106
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は次の2つである。1つは、臨床心理士ないし公認心理師が行う心理支援活動に必要な心理的アセスメントの目的や意義、方法、倫理、その観点・展開について十分に理解することである。もう1つは、その適切かつ円滑な実施およびフィードバックができ、心理支援を要するクライアントの支援に結びつけることができるようになることである。

This class has two objectives. ① Furnish sufficient understanding of the purpose, meaning, and methods of psychological assessments, the ethics surrounding them, and the further development of the above to function as a certified public psychologist or clinical psychologist. ② Train students to conduct assessments and provide feedback smoothly and appropriately, and to be able to link assessments with the psychological support provided to clients.

授業の内容 / Course Contents

授業の目標を達成するために、臨床心理査定を臨床心理面接につなぐという観点から人格検査や認知機能検査に直接触れながら、適宜事例検討を行いながら臨床心理査定の実践についても学ぶ。

To achieve the objectives of this class, students will learn the practicalities of clinical psychological assessments by examining actual cases while directly experiencing personality inventories and cognitive function tests from the viewpoint of their application in clinical psychological interviews.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 心理検査と人格理論
- 【2】: TEG体験
- 【3】: TEG事例検討
- 【4】: バウム体験
- 【5】: バウム事例検討
- 【6】: 内田クレペリン体験
- 【7】: 内田クレペリン事例検討
- 【8】: MMSEとFAB体験
- 【9】: MMSEとFAB事例検討
- 【10】: PFスタディ体験
- 【11】: PFスタディ事例検討
- 【12】: 行動観察と機能分析(ゲストスピーカーによる発題と理解深化1)
- 【13】: 臨床面接と診断理解(ゲストスピーカーによる発題と理解深化2)
- 【14】: 心理査定と臨床面接

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

心理検査の体験(受検)を行う。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

臨床心理査定を進めるためには、検査実施や所見作成の経験が必要とされる。これは授業時間ばかりでなく、授業時間外の練習と考察が欠かせない。また、そのために自分自身が心理検査を体験することが重要である。その体験にもとづいて、事例の検討を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:30% 発表討論:30% 提出物:40%

テキスト / Textbooks

必要に応じて授業時に紹介を行うことで、自ら学修を深められるようにする。

参考文献 / Readings

大石幸二ほか 標準公認心理師養成テキスト 文光堂 2022 9784830636301

参考文献にて紹介した書籍に加え、必要に応じてその都度紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

心理検査、臨床心理査定、臨床心理面接に関する予備知識を必要とする。心理学関連分野の学部・学科を卒業していない場合には、これらの基礎知識について、事前に学修しておく必要がある。

その他 / Others

臨床心理査定演習2は、臨床心理士資格関連科目である。一方、公認心理師資格関連科目ではない。取り上げる検査内容や事例は、受講者の学修状況等により適宜調整を行う。なお、事例検討の際には、グループ討議と発表を行う。

臨床心理基礎実習1

Basic Clinical Training 1

臨床心理士の基礎的な知識や態度の修得

山田 哲子／中根 千景／松永 美希 (YAMADA TETSUKO/ NAKANE CHIKAGE/ MATSUNAGA MIKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理士として基礎的な倫理および治療構造を理解し、学内実習施設における支援者との関りの基礎を学び、事例検討会や面接の陪席など、支援の現場に触れて支援者としての基本的な知識と態度を身につける。

Understand the fundamental ethics and therapy structure applied by clinical psychologists. Then while experiencing the actual therapy environment at the on-campus training facility, they will participate in case studies, observe client interviews, and acquire the basic knowledge and attitude required of a therapist.

授業の内容 / Course Contents

講義の中で、臨床心理士の歴史と機能を学ぶ。臨床心理士の職責、すなわち、① 臨床心理士の役割 ② 臨床心理士の法的義務及び倫理 ③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④ 情報の適切な取扱い ⑤ 保健医療、福祉、教育その他の分野における臨床心理士の具体的な業務 ⑥ 多職種連携及び地域連携 についての基礎的な学習をする。

また、学内実習施設における電話受付実習を 10 時間行う。学内実習施設における面接の陪席を、事前学習、事後の振り返りを含め、6 時間行う。学内実習施設における事例検討会に 9 時間参加する。

Lectures will examine the history and function of certified clinical psychologists. Students will learn about the basic duties of certified clinical psychologists, in particular, ① their roles, ② their ethical and legal obligations, ③ maintaining the safety of clients in their care, ④ appropriate handling of information, ⑤ specific duties in healthcare, welfare, education, and other fields, and ⑥ cooperation among multiple professions and within communities.

Students will complete the following at the on-campus training facility: 10 hours of practical training in telephone reception; 6 hours observing client interviews and attending briefings and debriefings; 9 hours participating in case studies.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 臨床心理士の歴史と役割
- 【2】: 臨床心理士の法的義務および倫理
- 【3】: 心理に関する支援を要する者等の安全の確保・情報の適切な取扱い
- 【4】: 保険医療、福祉、教育その他の分野における臨床心理士の具体的な業務
- 【5】: 多職種連携および地域連携についての基礎的な学習
- 【6】: 学内実習施設における電話受付実習
- 【7】: 学内実習施設における電話受付実習
- 【8】: 学内実習施設における電話受付実習
- 【9】: 学内実習施設における面接陪席実習
- 【10】: 学内実習施設における面接陪席実習

- 【11】:学内実習施設における事例検討会への参加
- 【12】:学内実習施設における事例検討会への参加
- 【13】:学内実習施設における事例検討会への参加
- 【14】:振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

臨床心理士の職責、すなわち① 臨床心理士の役割 ② 臨床心理士の法的義務及び倫理 ③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④ 情報の適切な取扱い ⑤ 保健医療、福祉、教育その他の分野における臨床心理士の具体的な業務 ⑥ 多職種連携及び地域連携 についての基礎的な学習を予習として行う。面接の陪席をするケースについての予備学習を行う。陪席の事後学習として振り返りと自己評価を行う。事例検討会の後に、振り返る。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への積極的な参加:20% 電話受付実習:20% 事例検討会の振り返り小レポート(毎回):40% 最終レポート割合::20%

講義、実習、面接陪席、事例検討会の全体を通じて、欠席が3分の1以上の場合には評価は不合格とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

臨床心理査定演習1(心理的アセスメントに関する理論と実践)

Seminar in Personality Assessment 1 : Psychological Assessment

心理的アセスメントに関する理論と実践

大江 由香(OE YUKA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN131
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- 臨床心理士ないし公認心理師として必要とされる心理的アセスメントの目的や意義, 方法, 背景理論, 倫理などについて十分に理解する。
 - 心理的アセスメントを適切かつ円滑に実施でき, その結果をクライアントに適切にフィードバックできる。
 - 心理的アセスメントの結果を心理支援を要するクライアントの支援に結び付けることができる。
- Students are to gain sufficient understanding of the purposes, meanings, methods, background theories of psychological assessments as well as the ethics surrounding them, which are required as a certified public psychologist or a clinical psychologist.
 - Students are to learn knowledges and skills to conduct psychological assessments and give feedback of the results to the clients smoothly and appropriately.
 - Students are expected to acquire sufficient knowledges to suggest appropriate psychological support to clients by the use of results of psychological assessments.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理査定演習1は, 臨床心理士資格関連科目かつ公認心理師資格関連科目である。臨床心理査定演習1・2は, いずれも心理的アセスメントに焦点を当てた科目だが, 特に, 臨床心理査定演習1では, 保健医療, 福祉, 教育, 司法・犯罪, 産業・労働領域において実施される心理的アセスメントについて, その種類(面接, 観察, 心理検査)や意義, 背景理論, 実施方法, 解釈方法などを広く学ぶことに重点を置く。また, 心理的アセスメントの結果をその後の相談, 助言, 指導, 支援につなげられるよう, 心理的アセスメントの演習・実習を行い, その実施, 分析, 解釈, 記録, 報告に至るまでの一連の基本的知識を身に付ける。

Seminar in Personality Assessment 1 contains materials required for the certification as a clinical psychologist and certified public psychologist. Seminar in Personality Assessment 1 and 2 both focus on psychological assessments, and Seminar in Personality Assessment 1 particularly makes importance on understanding the types of psychological assessments (interviews, observations, and psychological tests), the meanings, the background theories, and the ways to conduct and interpret them in the fields of healthcare, welfare, education, crime and judicial affairs, and industry and labor-related issues. Series of lectures and practical trainings will be provided regarding implementing psychological assessments, analysing and interpreting the results, and writing records and reports in the aim of referring clients to counseling, advice, guidance, and social supports following the assessments.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション, アセスメントの基礎(意義・倫理・考え方)
- 【2】:心理的アセスメントの段階(初回面接を含む)とアセスメントの種類
- 【3】:知能検査1(WAISとWISCの理論, 実施方法とスコアリング)

- 【4】: 知能検査2 (WAIS と WISC の解釈, 報告)
- 【5】: 知能検査3 (WAIS と WISC の解釈, 報告)
- 【6】: 知能検査4 (ビネー式, K-ABC-II など)
- 【7】: 発達検査 (新版K式, Bayley-III, 遠城寺, 発達障害の評価など)
- 【8】: 症状評価尺度1 (CES-D, BDI-II, MAS, STAI, PANSS, GHQ など)
- 【9】: 症状評価尺度2 (MMSE, HDS-R, 神経心理学検査法など)
- 【10】: パーソナリティ検査1 (理論, 質問紙法 (YG 性格検査, MMPI, TEG など), 作業検査法)
- 【11】: パーソナリティ検査2 (理論, 投影法 (ロールシャッハ, TAT, PF スタディなど), 描画法)
- 【12】: アセスメント計画演習
- 【13】: アセスメント結果の分析・統合演習 (見立て, ケースフォーミュレーション)
- 【14】: アセスメント結果に基づく相談・助言・指導・支援の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習: テキストの授業で扱う部分を読んだ上で授業に参加する。復習: テキストの確認問題に取り組む。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 知能検査の実施: 30% 確認問題の実施・提出: 30% 最終レポート割合: 40%

テキスト / Textbooks

下山晴彦, 宮川純, 松田修, 国里愛彦 公認心理師のための「心理査定」講義 北大路書房 2021 4762831557

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特にありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン

その他 / Others

演習授業であり, 積極的な授業への参加が期待されます。また, 授業スケジュールは演習の進捗状況によって変更する可能性があります。

臨床心理面接特論1(心理支援に関する理論と実践)

Studies in Psychotherapy 1 : Theory & Practice of Psychological Support

松永 美希/田中 佑樹(MATSUNAGA MIKI/ TANAKA YUKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN133
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、さまざまな心理療法の理論と方法について学ぶ。おもに認知行動療法の理論モデルや介入技法の特徴について学ぶ。また同時に、公認心理師と臨床心理士に求められる「かかわり」の基本的態度や留意点についても理解することを目的とする。

This class will deal mainly with cognitive behavioral therapy—especially the characteristics of intervention techniques that employ it as well as a theoretical model. Along with the above, students will also gain an understanding of the basic attitude, manner, and attentiveness expected of certified clinical psychologists as they relate to clients.

授業の内容 / Course Contents

前半は、ロールプレイを通じて、臨床心理士としての「かかわり」の基本的態度を身に着けていく。また力動論やその他の心理療法の理論と方法についても解説する。後半は、認知行動療法の理論や介入技法について、具体的な方法を学んでいく。特に基本的な介入については、事例をもとに具体的な方略を検討し、話し合いを行う予定である。さらに、心理に関する相談、助言、指導等に、力動論、認知行動療法、その他の心理療法をどのように応用していくか、心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整についても解説する。

During the first half, students will come to understand the basic attitude and manner expected of certified clinical psychologists as they relate to clients. During the latter half, students will learn about cognitive behavioral therapy, the theory behind it, and specific intervention techniques that employ it. For basic interventions especially, the strategies used in actual cases will be examined and discussed.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション, 心理療法の基本① 機能分析, 分化強化
- 【2】:心理療法の基本② 面接の基本的態度, 心理療法概論
- 【3】:心理療法の基本③ 学習理論(レスポンドを中心)
- 【4】:心理療法の基本④ 認知理論, 情動処理理論
- 【5】:心理療法の基本⑤ アセスメント
- 【6】:心理療法の基本⑥ ケース・フォーミレーション
- 【7】:認知行動療法の技法① エクスポーチャー, 暴露反応妨害法
- 【8】:認知行動療法の技法② 認知再構成法
- 【9】:認知行動療法の実際① 学校不適応に対する機能分析に基づく支援
- 【10】:認知行動療法の技法③ 行動活性化療法
- 【11】:認知行動療法の実際② 気分障害に対する行動活性化療法を用いた支援
- 【12】:認知行動療法の技法④ アクセプタンス&コミットメント・セラピー(ACT)
- 【13】:認知行動療法の実際③ 身体症状を伴う問題に対する ACT を用いた支援
- 【14】:エビデンス・ベースト・プラクティスの展開, まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、学術雑誌や書籍をレジュメにまとめることもある。また、それらを講義内に発表し、ディスカッションを行う場合もある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と課題への取り組み:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

山上敏子 方法としての行動療法 金剛出版

鈴木伸一、神村栄一 実践家のための認知行動療法テクニックガイド 北大路書房

ランメロ, J 他 臨床行動分析のABC 日本評論社

下山晴彦・神村栄一 改訂版 認知行動療法 放送大学教育振興会 9784595321818

三田村仰 はじめてまなぶ行動療法 金剛出版 9784722415729

その他は講義内に指示する。

修士論文指導演習1

Supervisory Seminar for Master's Thesis 1
臨床心理学研究

林 もも子 (HAYASHI MOMOKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN211
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP6110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学的に意義のある研究を行う能力を身に着ける。自分の問題関心を深め、学界に貢献するような研究を行う研究者としての基礎的な力をつける。

Participants will gain competence in conducting research that has value in the field of clinical psychology. The aims of the class are to deepen participants' interest in unanswered questions and to foster the basic skills required to conduct research that makes contributions to the field.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学の実践や応用に貢献するような問題関心を研究テーマとして深める。各自の研究テーマに基づき、先行研究を調べ、オリジナリティのある研究を行う。研究計画や資料の収集および論文執筆における倫理的配慮についてアドバイスを。研究の実施についてアドバイスする。

This class will cultivate interest in research themes that contribute to the practice of, and practical applications in, the field of clinical psychology. Each participant, based on his/her own chosen research theme, will survey the existing literature and then conduct original research that builds on previous results. Advice regarding research planning, collecting source material, and ethical considerations encountered when preparing research articles will be provided. Guidance for conducting the research will be provided as well.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 修士論文研究指導 1
- 【2】: 修士論文研究指導 2
- 【3】: 修士論文研究指導 3
- 【4】: 修士論文研究指導 4
- 【5】: 修士論文研究指導 5
- 【6】: 修士論文研究指導 6
- 【7】: 修士論文研究指導 7
- 【8】: 修士論文研究指導 8
- 【9】: 修士論文研究指導 9
- 【10】: 修士論文研究指導 10
- 【11】: 修士論文研究指導 11
- 【12】: 修士論文研究指導 12

【13】: 修士論文研究指導 13

【14】: 修士論文研究指導 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自分自身の問題関心を広げる。研究テーマに関する国内外の先行研究を読み、オリジナリティがあり、学界に貢献することができる研究となるようにする。実現可能性のある研究計画を練り、予備調査などを行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 先行研究のレビュー:30% 研究計画:50% 議論への積極的参加:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

修士論文指導演習1

Supervisory Seminar for Master's Thesis 1
臨床心理学研究

松永 美希 (MATSUNAGA MIKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN213
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP6110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学的に意義のある研究を行う能力を身に着ける。自分の問題関心を深め、学界に貢献するような研究を行う研究者としての基礎的な力をつける。

Participants will gain competence in conducting research that has value in the field of clinical psychology. The aims of the class are to deepen participants' interest in unanswered questions and to foster the basic skills required to conduct research that makes contributions to the field.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学の実践や応用に貢献するような問題関心を研究テーマとして深める。各自の研究テーマに基づき、先行研究を調べ、オリジナリティのある研究を行う。研究計画や資料の収集および論文執筆における倫理的配慮についてアドバイスを。研究の実施についてアドバイスする。

This class will cultivate interest in research themes that contribute to the practice of, and practical applications in, the field of clinical psychology. Each participant, based on his/her own chosen research theme, will survey the existing literature and then conduct original research that builds on previous results. Advice regarding research planning, collecting source material, and ethical considerations encountered when preparing research articles will be provided. Guidance for conducting the research will be provided as well.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 修士論文研究指導 1
- 【2】: 修士論文研究指導 2
- 【3】: 修士論文研究指導 3
- 【4】: 修士論文研究指導 4
- 【5】: 修士論文研究指導 5
- 【6】: 修士論文研究指導 6
- 【7】: 修士論文研究指導 7
- 【8】: 修士論文研究指導 8
- 【9】: 修士論文研究指導 9
- 【10】: 修士論文研究指導 10
- 【11】: 修士論文研究指導 11
- 【12】: 修士論文研究指導 12

【13】: 修士論文研究指導 13

【14】: 修士論文研究指導 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自分自身の問題関心を広げる。研究テーマに関する国内外の先行研究を読み、オリジナリティがあり、学界に貢献することができる研究となるようにする。実現可能性のある研究計画を練り、予備調査などを行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 先行研究のレビュー:30% 研究計画:50% 議論への積極的参加:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

修士論文指導演習2

Supervisory Seminar for Master's Thesis 2
臨床心理学研究

林 もも子 (HAYASHI MOMOKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN221
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP6110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学的に意義のある修士論文を執筆し、それを発表することにより、臨床心理学の研究者としての基礎的な力をつける。

Participants will master the basic skill set required of a clinical psychology researcher by writing and presenting a master's dissertation that makes a contributes to the field.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学領域の研究を実施し、データを取る過程で、倫理的配慮についてアドバイスする。データの統計的または質的研究方法による分析についてアドバイスする。結果に基づき、臨床心理学的な考察を進めるにあたり、論文の客観性、論理性などについてアドバイスする。臨床心理学の実践現場や研究の協力者に対する研究成果のフィードバックについてアドバイスする。修士論文の結果の発表の資料や発表の仕方などについてアドバイスする。

As each student conducts research in the field of clinical psychology, advice regarding the following issues will be provided: ethical considerations encountered during the data collection process; statistical analysis of data as well as analysis methods employed in qualitative research; the objectivity and logic of the dissertation (incorporating the student's results) as a contribution to discourse in clinical psychology; feedback to participants and collaborators at the sites of clinical practice regarding research results; how to prepare and present material based on one's master's dissertation research results.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 修士論文研究指導 1
- 【2】: 修士論文研究指導 2
- 【3】: 修士論文研究指導 3
- 【4】: 修士論文研究指導 4
- 【5】: 修士論文研究指導 5
- 【6】: 修士論文研究指導 6
- 【7】: 修士論文研究指導 7
- 【8】: 修士論文研究指導 8
- 【9】: 修士論文研究指導 9
- 【10】: 修士論文研究指導 10
- 【11】: 修士論文研究指導 11

【12】:修士論文研究指導 12

【13】:修士論文研究指導 13

【14】:修士論文研究指導 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

研究計画に沿って研究調査または実験を進める。データの分析をする。結果を考察して論文を執筆する。修士論文の発表の資料を作成し、プレゼンテーションの準備をする。論文執筆後、臨床現場や研究協力者に対してフィードバックをする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

修士論文指導演習2

Supervisory Seminar for Master's Thesis 2
臨床心理学研究

松永 美希 (MATSUNAGA MIKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN223
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP6110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学的に意義のある修士論文を執筆し、それを発表することにより、臨床心理学の研究者としての基礎的な力をつける。

Participants will master the basic skill set required of a clinical psychology researcher by writing and presenting a master's dissertation that makes a contributes to the field.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学領域の研究を実施し、データを取る過程で、倫理的配慮についてアドバイスする。データの統計的または質的研究方法による分析についてアドバイスする。結果に基づき、臨床心理学的な考察を進めるにあたり、論文の客観性、論理性などについてアドバイスする。臨床心理学の実践現場や研究の協力者に対する研究成果のフィードバックについてアドバイスする。修士論文の結果の発表の資料や発表の仕方などについてアドバイスする。

As each student conducts research in the field of clinical psychology, advice regarding the following issues will be provided: ethical considerations encountered during the data collection process; statistical analysis of data as well as analysis methods employed in qualitative research; the objectivity and logic of the dissertation (incorporating the student's results) as a contribution to discourse in clinical psychology; feedback to participants and collaborators at the sites of clinical practice regarding research results; how to prepare and present material based on one's master's dissertation research results.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 修士論文研究指導 1
- 【2】: 修士論文研究指導 2
- 【3】: 修士論文研究指導 3
- 【4】: 修士論文研究指導 4
- 【5】: 修士論文研究指導 5
- 【6】: 修士論文研究指導 6
- 【7】: 修士論文研究指導 7
- 【8】: 修士論文研究指導 8
- 【9】: 修士論文研究指導 9
- 【10】: 修士論文研究指導 10
- 【11】: 修士論文研究指導 11

【12】:修士論文研究指導 12

【13】:修士論文研究指導 13

【14】:修士論文研究指導 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

研究計画に沿って研究調査または実験を進める。データの分析をする。結果を考察して論文を執筆する。修士論文の発表の資料を作成し、プレゼンテーションの準備をする。論文執筆後、臨床現場や研究協力者に対してフィードバックをする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

臨床心理学研究法特論

Advanced Studies in Clinical Research

薛 海升(XUE HAISHENG)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN301
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5120
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ①研究倫理、質的研究法の基本的な考え方、臨床心理事例研究法など、各手法に関する基礎的な知識を得る。
- ②質的データの収集および分析に取り組み、質的研究法について実践的に理解する。

- ①Students will obtain basic concepts of qualitative research methods and basic knowledge about each method.
- ②Students will engage in the collection and analysis of qualitative data and gain a practical understanding of qualitative research methods.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、近年注目を集めている質的研究法について学習し、自らの研究基盤をつくることを目的とする。授業では、講義だけでなく、臨床心理事例研究を含む研究例を読み進めることで理解を深めていく。また、研究倫理を学び、インタビューを実践し、質的データ収集とその分析に取り組み、実践的に学んでいく。

この授業は研究法(つまり、方法)を学ぶ授業であり、方法を実践する自分自身のスタイルを自覚する授業でもある。授業で課される宿題や、研究法の実践、分析プロセスを体験することを通じて、技法の獲得のみならず、自己への覚知を促していきたい。

In this class, students will learn about qualitative research methods, which have been attracting much attention in recent years, with the aim of creating a foundation for their own research. In the class, students will deepen their understanding not only through lectures but also through reading research examples. In addition, students will learn practically by practicing interviews and working on qualitative data collection and its analysis.

This class is a class to learn research methods (i.e., methods) and to become aware of one's own style of practicing methods. Through homework assignments, practice of research methods, and experience in the analysis process, we hope to encourage students not only to acquire techniques but also to become more self-aware.

授業計画 / Course Schedule

- [1]:オリエンテーション 研究倫理
- [2]:質的研究とは何か
- [3]:臨床心理学における質的研究の意義:事例研究
- [4]:フィールドワーク、観察法の基礎
- [5]:質的研究を読む 1(議論)
- [6]:インタビュー法の基礎、インタビューガイドの作成 1 問いを立てる
- [7]:インタビューガイドの作成 2 インタビューガイドの精緻化
- [8]:質的研究を読む 2(議論)
- [9]:インタビューの実施とトランスクリプトの作成
- [10]:質的研究を読む 3(議論)
- [11]:質的研究の実習1データを読み、分析する

- 【12】: 質的分析の実習2モデルをまとめあげる
- 【13】: 成果発表・講評
- 【14】: まとめ: 質的分析の様々な方法、質的研究の質と倫理

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業ではデータ収集、データ分析、発表において参加者個々人が適宜、PCを使用する。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、前授業の学習内容を振り返ってから授業に参加すること。また、研究法に関する資料および研究論文を読み、発表と議論の準備を行う。質的研究の演習はグループで実施するため、必要に応じて授業時間外に話し合いや授業の準備を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席および授業参加度:10% 課題提出:20% 発表:10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 能智正博 臨床心理学を学ぶ6 質的研究法 東京大学出版会 2011 9784130151368
- スタイナー・クヴァール 質的研究のための「インター・ビュー」 新曜社 2016 9784788514751
- 川喜田二郎 発想法ー創造性開発のために 中央公論社 1967 9784121001368
- 無藤隆・南博文・麻生武・やまだようこ・サトウタツヤ(編) 質的心理学ー創造的に活用するコツ 新曜社 2004 9784788509139
- 岩壁茂・杉浦義典(編) 臨床心理学 75(13 巻 3 号)研究の方法を知る 金剛出版 2013
- 丹野義彦(編) 臨床心理学全書 5 臨床心理学研究法 誠信書房 2004 9784414413250

心理統計法特論1

Advanced Studies in Statistical Methods for Psychology 1

川久保 惇(KAWAKUBO ATSUSHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN302
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5220
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

心理学研究において用いられる主要なデータ解析法について、理論的な枠組みを理解する。

自分の研究領域と関心に基づく研究課題(リサーチクエスト)に対応したデータ分析の方法を適切に選択できるようになる。

誤用を避け、結果を適切に解釈できるよう分析方法の理論的な理解を深めつつ、具体的な分析手続を習得する。

Students will come to understand the theoretical framework behind the major data analysis methods used in psychology research.

They will then be able to select the most suitable analysis method(s) for their own respective fields and for research questions that interest them.

As they deepen their theoretical understanding of the methods, students will also practice analysis procedures using computer software, both of which will equip them to interpret results properly and avoid misuse.

授業の内容 / Course Contents

代表的なデータ解析法を取り上げ、理論的な考え方、分析手順、ソフトウェアの使い方、分析における留意点について理解を深める。

「心理学研究」、「社会心理学研究」、「パーソナリティ心理学研究」などに掲載されている論文内で使用されている分析についても紹介する。

The course will cover representative data analysis methods to deepen students' understanding of theoretical concepts, analysis procedures, software usage, and points to keep in mind when analyzing data.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 導入

【2】: 統計法の基礎の確認

【3】: 平均値の比較①

t 検定

【4】: 平均値の比較②

分散分析

【5】: χ^2 二乗検定

【6】: 回帰分析

【7】: 階層的重回帰分析と調整分析

【8】: 媒介効果の分析

【9】: 探索的因子分析と尺度構成

【10】: 確認的因子分析

【11】: 共分散構造分析(構造方程式モデリング)の基礎

【12】: 共分散構造分析の応用

【13】: 分析例の紹介

【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の発表:50% 授業内での取り組み:50%

テキスト / Textbooks

授業時にそれぞれのデータ解析法に応じた文献を指示する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

認知心理学特論

Advanced Studies in Cognitive Psychology

木原 健 (KIHARA KEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN307
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

生理心理学および精神生理学的手法を用いた認知心理学の研究について、最近の研究内容を理解して検討を加える。
 This class will examine recent cognitive-psychological studies with physiological measurements.

授業の内容 / Course Contents

脳波、脳血流、眼球運動などの生理計測を用いた認知心理学的研究に関する最近の専門書から、発表者は自らの興味に従って章を選択し、内容をまとめたスライドで発表する。発表された内容は受講者全員で検討する。発表者は、当日までに発表用のスライドを準備する。発表者以外の受講生も、発表後に十分な討論ができるよう、事前に関連文献などを予習する。発表技法や研究技法に関しては、適宜指導する。

Based on their own interests, students choose a chapter in a recent book introducing cognitive-psychological studies with physiological measurements, such as electroencephalogram, brain blood flow, and eye movements, for presentation. Presented material then be discussed and debated by the whole class.

The presenter(s) prepare a slide for the presentation. Students who are not presenting are also expected to investigate relevant literature in advance and contribute to the discussion. Guidance regarding presentation and research techniques will be provided as necessary.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクションおよび発表内容の決定 / Introduction and determination of presentation contents
- 【2】: スライド発表と討論 (1) / Slide presentation and discussion (1)
- 【3】: スライド発表と討論 (2) / Slide presentation and discussion (2)
- 【4】: スライド発表と討論 (3) / Slide presentation and discussion (3)
- 【5】: スライド発表と討論 (4) / Slide presentation and discussion (4)
- 【6】: スライド発表と討論 (5) / Slide presentation and discussion (5)
- 【7】: スライド発表と討論 (6) / Slide presentation and discussion (6)
- 【8】: スライド発表と討論 (7) / Slide presentation and discussion (7)
- 【9】: スライド発表と討論 (8) / Slide presentation and discussion (8)
- 【10】: スライド発表と討論 (9) / Slide presentation and discussion (9)
- 【11】: スライド発表と討論 (10) / Slide presentation and discussion (10)
- 【12】: スライド発表と討論 (11) / Slide presentation and discussion (11)
- 【13】: スライド発表と討論 (12) / Slide presentation and discussion (12)
- 【14】: スライド発表と討論 (13) / Slide presentation and discussion (13)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習が必要な場合はその都度指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容と発表技量:50% 議論への参加と出席:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本生理心理学会(企画)堀忠雄・尾崎久記(監修)室橋春光・苧阪満里子(編集) 生理心理学と精神生理学 第Ⅲ巻 展開 北大路書房 2018 9784762830198

社会心理学特論

Advanced Studies in Social Psychology

石黒 格 (ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN308
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5420
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生の研究関心に合わせた英字文献を講読し、各自の研究の推進に貢献する。

In this course, students will read English articles following their research interests to make progress in their research.

授業の内容 / Course Contents

現代人の社会関係に関わる文献として、2025 年度は The Psychology of Sociability を提案しますが、履修者各自が、自らの研究関心に合わせて文献を持ち寄ることを推奨します。一人で読むのは難解だと感じる文献を、誰かと一緒に読むというかたちで利用してかまいません。

The instructor suggests to read a book titled "The Psychology of Sociability" in this course. However, students will be strongly recommended to suggest other articles that they consider important for their research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンスと担当者決定
- 【2】: Ch. 1 and 2
- 【3】: Ch. 3 and 4
- 【4】: Ch. 5 and 6
- 【5】: Ch. 7 and 8
- 【6】: Ch. 9 and 10
- 【7】: Ch. 11 and 12
- 【8】: Ch. 13 and 14
- 【9】: 学生提案文献
- 【10】: 学生提案文献
- 【11】: 学生提案文献
- 【12】: 学生提案文献
- 【13】: 学生提案文献
- 【14】: 学生提案文献

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献を読み、発表資料を準備する。あるいは、各自で文献の探索と講読を行う。文献を提示するときには、単に1つの文献を見つけて発表するのではなく、複数の文献を読んだ上で、特に面白い、あるいは重要なものを発表するのが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 議論への貢献:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

組織心理学特論

Advanced Studies in Organizational Psychology
PRE-SUASION

小口 孝司(OGUCHI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN309
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5420
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

産業・組織心理学に密接に関わる下記のテキストを用いて、pre-suasion について考察を深め、以て各自の研究への応用を図る。さらに、研究に対する批判力と、研究を大局的な視点から評価する力を養う。また、研究についてのディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。

The concept of “pre-suasion” which is closely related to Industrial/Organizational psychology will be examined while referring to the below text. Students will seek applications to their research. They will improve their ability to evaluate research critically and take a global view of it. In addition, students will hone their discussion and presentation skills.

授業の内容 / Course Contents

Robert Cialdini 教授による古典的名著とされる“Influence”が上梓されてから、30年以上が経ている。それは如何に人を動かすかの原理、原則を解説したものである。彼が他人を動かすための前準備のテクニックについて解説したものが、この“Pre-suasion”である。Pre-suasion とは、pre(前)と suasion(勧告・説得)を合わせた Cialdini 教授による造語である。本書を輪読する。その際、担当者は、各章(節)を担当して解説する。さらにその章で紹介されている研究の中で、担当者が最も興味深かったと思う研究論文についても調べ、併せてその概要を紹介する。その後、受講生の間で議論をして理解を深めるとともに、各人の研究テーマとの関連性を考究していく。

More than 30 years have passed since Professor Robert Cialdini published his classic book Influence. In it, he explained the theory and principles at play when convincing or getting a person to do something. Then in his book Pre-suasion, he elucidated the technique involved in preparing a person in advance to persuade more easily. Professor Cialdini coined the term “pre-suasion” by combining “pre” (i.e., in advance) with “-suasion” (from “persuasion”). The chapters of Professor Cialdini’s book will be divided among the registered students. Each student will be responsible for understanding and explaining his/her assigned section. Within that section, the student should select the research that interested him/her the most, find other related articles, and present a summary. Through discussion and debate, the class will further deepen their understanding of the material and examine its relevance to each student’s research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: 担当章(節)の決定
- 【3】: Privileged moments
- 【4】: The importance of attention
- 【5】: What’s focal is causal
- 【6】: Commanders of attention
- 【7】: The primacy of associations
- 【8】: Persuasive geographies

- 【9】: The mechanics of pre-suasion
- 【10】: Six main roads to change
- 【11】: Being together
- 【12】: Acting together
- 【13】: Ethical use
- 【14】: Post-suasion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

下記のテキストを輪読する。その際、担当者を各章(あるいは各節)ごとに決める。担当者は、レジュメを作成して、受講者全員に配布する。レジュメには章の要約とそこに示されている1つの研究の要約も記載すること。レジュメに基づいて発表を行った後、全員で討論を行う。自分の担当章(節)以外の部分にも目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当発表:50% 討論への参加:50%

テキスト / Textbooks

Cialdini, R. Pre-suasion Simons & Schuster 2016 978501109799

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

心理学科を卒業程度の心理学的基礎知識、ならびに統計学の知識を有し、活用していることが求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

臨床心理学特殊研究2

Advanced Studies in Counseling 2
投影法心理検査の臨床的活用方法を学ぶ

糸井 岳史 (ITOI TAKESHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN316
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

心理アセスメントにおける投影法検査の使い方を学ぶこと。

・Learn the usage methods of projective tests in psychological assessments.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、心理アセスメントにおいて、投影法検査(ロールシャッハ・テスト、描画検査、など)をどのように活用するのかについて学びます。

特に、投影法心理検査の、施行法、採点法、解釈法、について学びます。

・Class contents: In this course, students will learn how to use projective psychological tests (Rorschach test, drawing test, etc.) in psychological assessments. Especially this course will focus on how to implement, score, and interpret projective psychological tests.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 公認心理師、臨床心理士の実践における心理アセスメントの意義
- 【2】: 心理的アセスメントに関する理論と方法
- 【3】: 描画検査演習 1
- 【4】: 描画検査演習 2
- 【5】: ロールシャッハ・テスト講義 1
- 【6】: ロールシャッハ・テスト講義 2
- 【7】: ロールシャッハ・テスト講義 3
- 【8】: ロールシャッハ・テスト講義 4
- 【9】: ロールシャッハ・テスト演習 1
- 【10】: ロールシャッハ・テスト演習 2
- 【11】: ロールシャッハ・テスト演習 3
- 【12】: ロールシャッハ・テスト演習 4
- 【13】: ロールシャッハ・テスト演習 5
- 【14】: 心理に関する相談、助言、指導等への応用

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・講義内で関心を抱いた内容について、講義で紹介した書籍や論文を読まれることをお勧めしたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:60%

最終レポート割合 ::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

臨床心理学特殊研究3

Advanced Studies in Counseling 3

西谷 晋二 (NISHITANI SHINJI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN317
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	集中講義 授業実施日は以下の通り 8月4日(月)・5日(火)1-5限、6日(水)1-4限 ※教室については授業開始前に Web 掲示板で確認すること		

授業の目標 / Course Objectives

心理支援場面において、子どもに出会うことは少なくないが、その際、セラピストに求められるのは、大人に比べて未成熟な彼らの言語を補うかのようなイメージ表現を読み取ることである。そのため、本授業ではプレイセラピーに必要な基礎知識を学ぶだけでなく、イメージ表現に対するアプローチ方法も習得することを目標とする。

For practitioners working in the field psychological support and therapy, dealing with children is not rare. For children, in comparison to adult clients, the therapist must interpret and employ more visually-oriented types of expression to compensate for the less mature language of children. Therefore, students will not only learn the basic knowledge required to conduct “play therapy,” but will also master approaches to visually-oriented types of communication.

授業の内容 / Course Contents

プレイセラピーの歴史や概論、セラピストとして必要な姿勢などの基礎的知識だけでなく、公認心理師、臨床心理士として日々成長する子どもの心の在りように対応すべく、力動的・認知発達の視点など応用的知識についても講義を行う。

In addition to basic knowledge of play therapy such as its history, an overview of the method, and the posture that the therapist must assume, lectures will also relate the know-how that a certified public psychologist or a clinical psychologist needs to care for children. Since children mature a bit each day, support must be provided from a dynamic, cognitive development perspective.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: オリエンテーション
- [2]: プレイセラピー概論
- [3]: プレイセラピーとユング心理学①
- [4]: プレイセラピーとユング心理学②
- [5]: プレイセラピーとユング心理学③
- [6]: プレイセラピーとユング心理学④
- [7]: プレイセラピーとユング心理学⑤
- [8]: プレイセラピーにおけるイメージ体験①
- [9]: プレイセラピーにおけるイメージ体験②
- [10]: プレイセラピーにおける表現療法
- [11]: ユング心理学と児童期
- [12]: ユング心理学と発達障害①
- [13]: ユング心理学と発達障害②

【14】:まとめ・レポート提出**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講師が配布する資料に関して予習・復習を行うことはもちろんのこと、適宜挙げる参考文献についても目を通すこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

講師が用意・配布する資料を用いる。

参考文献 / Readings

河合隼雄 ユング心理学入門 培風館 1967 4563055115

M. スタイン ユング 心の地図(新装版) 青土社 2019 4791771583

C.G. ユング 分析心理学セミナー1925:ユング心理学のはじまり 創元社 2019 4422117084

その他、授業内で適宜挙げる。

その他 / Others

主に講師による講義形式で授業を進めるが、適宜、検討やワークを行うため、学生には主体的態度で授業に臨むことを求める。

精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)

Advanced Studies in Psychiatry : Medical & Health Area

横田 英博/樋田 紫子(YOKOTA HIDEHIRO/ HIDA YUKARIKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN321
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5520
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

保健医療分野に関わる公認心理師に必要な精神医学・心身医学の基本的な知識を身につける。

Students will master the fundamentals of psychiatry and psychosomatic medicine to the extent required for licensed psychologists in healthcare services.

授業の内容 / Course Contents

主要な精神疾患の病態・症状・治療法等について、医師の視点から講義を行う。また、心療内科医の視点から、心身医学で用いる理論と技法、心身症の評価・治療方法についても講義を行う。

Lectures will be given on pathophysiology, symptoms, and treatment of major psychiatric disorders from the clinicians' point of view. This class will also cover theories and techniques in psychosomatic medicine and how to assess and treat psychosomatic disorders.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション、精神医学総論
- 【2】:気分症
- 【3】:統合失調症
- 【4】:強迫症、不安症
- 【5】:摂食症
- 【6】:自閉スペクトラム症
- 【7】:注意欠如多動症
- 【8】:心的外傷及びおよびストレス因関連症、パーソナリティ症
- 【9】:中間テスト
- 【10】:心身医学とは、心身医学で用いる理論と技法 1
- 【11】:心身医学で用いる理論と技法 2
- 【12】:心身医学で用いる理論と技法 3
- 【13】:心身医学で用いる理論と技法 4
- 【14】:最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内で扱う疾患については適宜説明を加えながら講義を行う。参考文献や初学者向けテキストに目を通し、授業前に用語に馴染むことや授業後に知識の整理を行うことを推奨する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間テスト:40% 授業・討論への参加態度:24% 最終テスト割合::36%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

尾崎紀夫/三村将/水野 雅文/村井俊哉/明智龍男 標準精神医学(第9版) 医学書院 2024 9784260053341

American Psychiatric Association DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル 医学書院 2023 9784260052184

岸本年史/高橋茂樹 New Simple Step 精神科 海馬書房 2020 9784883787173

吉内一浩 医学のあゆみ BOOKS 今日から実践! 日常診療に役立つ行動医学・心身医学アプローチ 医歯薬出版
2018 9784263206829

日本行動医学会 行動医学テキスト(第2版) 中外医学社 2023 9784498048294

日本心療内科学会 心療内科学 朝倉書店 2022 9784254322651

障害児・者心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)

Studies in Psychology of Persons with Disabilities : Social Welfare Area

発達障害を手がかりとした障害, 人権理念および支援制度の理解と心理支援

山崎 晃史(YAMAZAKI KOUJI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN323
授業形態	オンデマンド(全回オンデマンド)	授業形態(補足事項)	大学の金曜日の授業日に合わせて14回配信する。配信の翌週指定日までにフォームでリアクションを求める。
校地	新座	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	CLP5520
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

福祉分野に関わる公認心理師の実践として障害(特に発達障害)をもつ児童や人の心理社会的課題を理解する。その支援と方法について保健, 医療, 福祉, 教育の諸制度をふまえながら実践できる力量を身につける。共生する社会の実現を念頭に, 多職種連携協働(IPW)による支援のあり方を具体的に理解する。

As practicing of Certified Public Psychologists involved in the field of social welfare, students will gain an understanding of the psychosocial issues surrounding children and adults with disabilities (especially those with developmental disorders). While acquiring a full understanding of the healthcare, medical, welfare, and educational institutions involved, they will gain competence in support procedures and in the actual support of such people. Always bearing in mind the end goal of coexistence within society, they will also come to understand in detail how support is provided through interprofessional working (IPW).

授業の内容 / Course Contents

リアクションや質問に応答しながら講義を進める。

まず, 1)障害を理解する諸視点を学び, 2)ノーマライゼーションやインクルージョンといった人権理念の展開と現状を取り上げる。そして, 3)ケアマネジメントや多職種連携協働(IPW)の手法を学び, 4)制度や社会資源の全容を把握しながら, 5)発達障害を手がかりにライフサイクルに沿った心理支援の実際に触れる。また, 6)発達障害領域の心理支援のトピックスを取り上げる。

なお本授業では, 福祉分野に関わる公認心理師のあり方を具体的に考察していく。

The lecture will proceed by responding to reactions and questions.

After first (1) considering a variety of perspectives on the understanding of disease, we will (2) examine “normalization” and “inclusion” as human rights, as well as their expansion and current status. We will then (3) cover techniques for care management and interprofessional working (IPW), (4) grasp the “big picture” of societal resources and institutions, and (5) touch upon the realities of providing psychological support at key points during the life cycles of the developmentally disabled. Finally, we will (6) deal with some topics in the area of psychological support to the developmentally disabled.

Moreover, this class will consider the actual duties of certified public psychologists who work in the field of welfare.

授業計画 / Course Schedule

【1】:【障害をもつ児者の支援の核にあるもの】

滝乃川学園創始者石井亮一の生涯を紹介し支援を支える価値観を考える。

授業期間中に課す調べ学習について説明する。

【2】:【障害観の変容】

ノーマライゼーションおよびインクルージョンが障害領域の中心理念となったこと、障害の捉え方が社会モデルを取り入れたもの(国際生活機能分類など)になったことを理解する。合理的配慮の考え方についても触れる。

【3】:【障害福祉における「生活のしづらさ」という視点】

障害福祉領域における心理支援を生活臨床の一環と捉え、「生活や学びのしづらさ」に応じていく実際を事例に基づき理解する。心理支援とソーシャルワークがそれぞれ独自性を保ちながらも融合する実態を確認する。

【4】:【連携とは何か】

障害福祉は連携と協働によって成り立つこと、それは役割分担をし、他機関にリファーすること以上の重要なテーマ(=支援が行き届かない領域を無くすこと)を抱えていることを理解する。関連してケアマネジメントおよび専門職連携協働の考え方に触れる。

【5】:【障害福祉の制度】

幸せな生活を支えるしくみとしての障害福祉は、さまざまな場面を想定した多様なサービスから成り立っていることを理解する。

【6】:【障害の原因理解をめぐる議論】

発達障害や精神障害の多くが脳の機能障害とされているそのことをあらためて考える。人との関係性を含めた環境要因の重要性と障害理解におけるその位置づけを理解する。

【7】:【中間まとめ】

リアクションや質問に応じてここまでの授業を補足するとともに、必要に応じて障害福祉を巡る時事的な話題に触れる。

【8】:【初期支援における心理支援】

乳幼児期の支援の全体像と、公認心理師の役割について理解する。

【9】:【インクルーシブ保育】

インクルーシブな保育の実際を視聴覚教材で確認しながら、育ち合う保育の意義を理解する。

【10】:【障害児教育の歴史に学ぶ】

イタール、セガン、モンテッソーリなどの先人が切り開いた感覚教育、自発性の教育の姿から、児童期の支援に必要な視点を理解する。

【11】:【発達支援の諸方法の活用】

認知発達治療、応用行動分析、構造化、ペアレントトレーニングなどのいわゆる「療育」を公認心理師はどのように用いるべきなのか、臨床の場を想定しながら考える。

【12】:【インクルーシブ教育】

インクルーシブ教育の理念、実際、課題を理解する。インクルーシブ教育の実際を記録した番組動画を参照する。

【13】:【成人期の支援】

障害を持つ方々の生活とその支援の実際を取り上げる。就労支援の実際についても触れる。

【14】:【さまざまな課題と本講義のまとめ】

成人期の支援について補足し、障害領域を巡るさまざまな課題を取り上げ、講義全体を総括する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容に対応したテキスト箇所をよく読み込むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業各回リアクション:40% 調べ学習報告:30% レポート:30%

テキスト / Textbooks

大石幸二監修・山崎晃史編著 公認心理師・臨床心理士のための発達障害論 学苑社 2019 9784761408046

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

発達障害の診断と支援について基礎的なことがらを理解していること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

指定の Google クラウドに授業動画や資料を掲載する予定。

その他 / Others

公認心理師を目指している院生向けに内容を構成します。コミュニティや社会のあり方を問うソーシャル・アクション的な臨床の視点を提供します。公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として医療、福祉のなかで業務を行ってきた経験から話をします。

発達心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)

Advanced Studies in Developmental Psychology : Social Welfare Area

白井 述 (SHIRAI NOBU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN324
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

発達心理学と関連する様々な研究トピックスについて能動的に学ぶことで、ヒトの心の発達に関する発展的知識を身につける。

Students are expected to actively learn about various research topics in developmental psychology and to acquire advanced knowledge about the development of the human mind.

授業の内容 / Course Contents

毎回の授業の発表担当者を決めて、割り当て回のテーマに関する発表をしてもらう。担当者の発表内容について履修者全員で議論を行う。

In every-week class, several presenters will be pre-selected from students. The presenters prepare a presentation about assigned research topics regarding developmental psychology. The other students must participate in discussion after the presentations to promote learning of the research topics shown in the presentations.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 学習方法のガイダンス・各授業回の発表担当者の割り当て
- 【2】: 乳児期 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【3】: 乳児期 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【4】: 幼児期から児童期 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【5】: 幼児期から児童期 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【6】: 成人期以降から老年期 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【7】: 成人期以降から老年期 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【8】: 発達と脳 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【9】: 発達と脳 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【10】: 非定形な発達 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【11】: 非定形な発達 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【12】: 発達と教育 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【13】: 発達と教育 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当者は十分な準備をして発表に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表担当会の発表内容:50% 毎回の授業での議論への貢献度:50%

テキスト / Textbooks

特に無し。必要があれば授業内で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

特に無し。必要があれば授業内で適宜紹介する。

臨床心理学特殊研究5(教育分野に関する理論と支援の展開)

Advanced Studies in Counseling 5 in Educational Area

岩瀧 大樹 (IWATAKI DAIJU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN325
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学校心理学の観点から、知識や理論を理解し、現場で応用可能な技能を獲得する。学校・教育現場で有用な研究的姿勢を身に付ける。

To understand basic knowledge and theories from the perspective of school psychology, and to acquire skills that can be applied in the field. To acquire a research attitude that is useful in schools and educational settings.

授業の内容 / Course Contents

学校心理学に関する知識や理論を理解するために、事前に文献や書籍等を調べて発表する。現場で応用可能な技能を獲得するためにロールプレイを行い議論する。学校・教育現場で有用な研究的姿勢を身に付けるため論文を紹介し講義する。

To understand the basic knowledge and theories of school psychology, students will research literature and books in advance and present their findings. Role-plays will be conducted and discussed in order to acquire skills that can be applied in the field. There will be lectures and papers on how to develop research skills that will be useful in a school environment.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

イントロダクション 学校心理学とは

【2】:チーム学校

【3】:3段階の心理教育的援助サービス

【4】:4種類のヘルパー論, 援助要請

【5】:学校現場に入るまで

【6】:初回面接

【7】:アセスメント

【8】:本人面接

【9】:保護者面接

【10】:コンサルテーション・外部連携

【11】:不登校

【12】:特別支援・発達障害・精神疾患

【13】:ストレス/アンガーマネジメント・SST・アサーショントレーニング

【14】:危機対応

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、事前に内容に関する資料を読んできて、意見や疑問を持つこと。復習として、再度講義で学んだ理論に関する文献や資料を読むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点(リアクションペーパー, 授業態度, 出席):40% 授業内の小テスト1回:20% 最終レポート:20% 授業内に出した課題の提出:20%

テキスト / Textbooks

水野治久・石隈利紀 よくわかる学校心理学 ミネルヴァ書房 2013 9784623063963

山口豊一・松寄 くみ 学校心理学にもどづく教育相談 金子書房 2021 9784760824229

内田 利広・内田 純子 スクールカウンセラーの第一歩:学校現場への入り方から面接実施までの手引き 創元社 2011 9784422115115

半田 一郎 スクールカウンセラーと教師のための「チーム学校」入門 日本評論社 2020 9784535563858

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

積極的な授業態度, 論理的な思考力, ディスカッション力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC を持ってくること

その他 / Others

- PowerPoint を用いた講義を行う。
- 授業内で課外ワークでは事例検討やロールプレイ等を模して行う。

社会病理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)

Advanced Studies in Social Pathology : Forensics & Criminology Area

相良 翔(SAGARA SHO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN326
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	各回の内容に合わせたグループディスカッションを行います。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5520
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師および臨床心理士が司法・犯罪分野において必要な理論および支援方法について、専門的に学習していく。

Students will acquire professional knowledge of advanced theories and support methods in the fields of criminal justice and criminology.

授業の内容 / Course Contents

犯罪・非行の発生要因や司法・犯罪分野における支援に関する基礎文献を輪読し、その内容に対するディスカッションなどを通じて学ぶ。

After studying foundational literature on psychological and sociological approaches in criminal justice and criminology, students will deepen their understanding through discussions and other interactive methods.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
- 【3】: 犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
- 【4】: 犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
- 【5】: 犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
- 【6】: 犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
- 【7】: 犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
- 【8】: 犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
- 【9】: 犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
- 【10】: 犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
- 【11】: 犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
- 【12】: 犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
- 【13】: 犯罪・非行の発生要因および司法・犯罪分野における支援に関する文献の検討
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	
-------------	--

校外実習・フィールドワーク	
---------------	--

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

前半は教科書指定した文献を、その後は公認心理師養成に合わせて執筆された文献を輪読します。そのため、各回の事前学習として、指定範囲を熟読してください(各回 2 時間程度)。授業後は内容を振り返り、課題文献を再読するなどを踏まえて、リフレクションを記入してください(各回 2 時間程度)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加に向けての準備状況・授業への参加態度・ディスカッションへの参加:60% 最終
レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

ティム・ニューバーン 『犯罪の科学』 ニュートンプレス 2022 9784315525366

参考文献 / Readings

法と心理学会 『入門 司法・犯罪心理学—理論と現場を学ぶ』 有斐閣 2022 9784641174740

岡本英生, 松原英世, 岡邊健編著 『犯罪学リテラシー』 法律文化社 2017 9784589038616

その他、適宜指示をする。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開に関して、その概要について把握していると学習がしやすいと思われます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS を利用して、学習を進めていきます。

その他 / Others

私は司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開について、主に社会学や社会福祉の立場から検討を進めてきました。その経験に基づきながら講義を行い、みなさんにとって有益になる時間にできれば幸いです。

Reserchmap HP

<https://researchmap.jp/sho-sagara>

本務校 HP

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=205saga>

産業・労働分野に関する理論と支援の展開

Support Theory & Applications in Industry & Work Area

産業・労働分野で求められる公認心理師の基礎知識

緒方 一子(OGATA ICHIKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN327
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5520
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

産業・労働分野に関わる公認心理師の実践について理論と支援の展開を理解することを目標とする。

産業領域で活動する心の専門家としてメンタルヘルスの諸問題を始め、心理臨床に関する包括的な知識を習得し実践に活かせるようにする。また、キャリア発達の視点から働く人の心の問題を理解し、現実的な問題に対応できるような柔軟性も養いたい。

The purpose of this class is to understand the theories put into practice by certified public psychologists in the industry and work area and how to develop support.

This class will provide students with a comprehensive range of clinical psychology knowledge, beginning with the variety of mental health problems encountered by psychologists who specialize in helping people engaged in industry, and will enable them to put it into practice. Students will come to understand the problems that can occur in the minds of working people focused on career advancement, thereby nurturing their flexibility in handling real-life issues.

授業の内容 / Course Contents

産業・労働分野における公認心理師の心理支援の特徴は実践的内容の多様性にある。そのため授業内容は以下の通り多方面から学ぶことにする。

テキスト、参考資料を活用した授業を踏まえて、事前学習、グループ・ディスカッション、ロールプレイ、キャリア・インタビューなど演習を多く取り入れる。

学外での授業として企業を訪れて働く人に触れて、職種独特の問題やストレス、人間関係、キャリア問題などについて検討し、その対応や対策について討議を行う。

さらに、その企業に対して公認心理師として提案できるメンタルヘルス・プログラムを作成しコンペを行う。

The characteristics of the psychological support provided by certified public psychologists in the industry and work areas entails diverse practices. Therefore, this class includes many learning methods, as follows.

- A text and reference materials will be studied in classes that will then provide a base from which students prepare for a variety of activities in seminars. These will include group discussion, role playing, career interviews, and more.

- Some class sessions will be spent making off-campus visits to corporations getting first hand contact with working people. Students will examine what kind of stress is inherent to that particular job, as well as human relations and problems with career advancement and will then discuss and debate about how to deal with these issues and implement countermeasures.

- Students will then make a mental health plan that a certified public psychologist could propose to the visited workplace which will be presented to the class in a competition.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

授業の進め方、産業・労働分野の全体像について把握できるように講義をする。この授業への希望や期待することについて共有し臨床実践についてイメージを描く。

【2】: 職場のメンタルヘルス

産業心理臨床実践において心の専門家が会おう法律や指針(ハラスメントによる精神疾患の発症、それらに伴う労災申請と民事訴訟の事例)について学び企業・組織への影響についても理解する。

【3】: 職場のメンタルヘルス

働く人と関係の深い精神疾患とメンタルヘルス不調(うつ病、アルコール依存症、適応障害、睡眠障害等)に対する対応。ストレスチェックについて学ぶ。

【4】: 心理職の活動の現状

職場の対人支援の諸業務(企業内相談室の実際)について理解する。

【5】: 産業・労働分野における実践 I

体験を通して働く人の諸問題を理解する(学外授業)。

【6】: 多職種連携

働く人の心理支援の多様性と事業所内外からの支援の必要性和産業・労働分野から期待される公認心理師の役割とあり方について討議する。

【7】: 働くということ

労働の苦しみと喜び(課題の発表 Part I)。

【8】: 働くということ

労働の苦しみと喜び(課題の発表 Part II)。

【9】: 働く人のキャリア・デザイン

自分らしいキャリア・デザインとは(キャリア・コラージュを体験)

【10】: キャリア・カウンセリング(キャリア・インタビュー Part I)

事前に提示する課題を踏まえてキャリア・インタビューを実施し発表する。

【11】: キャリア・カウンセリング(キャリア・インタビュー Part II)

事前に提示する課題を踏まえてキャリア・インタビューを実施し発表する。

【12】: 産業・労働分野における実践 II

外部講師による授業(失業の心理)

【13】: メンタルヘルス・ケアプランの提案 (Part I)

EAP 会社に勤務する公認心理師として、契約企業に対して効果・効率の良い心理支援プランを作成して提案する。

【14】: メンタルヘルス・ケアプランの提案 (Part II)

EAP 会社に勤務する公認心理師として、契約企業に対して効果・効率の良い心理支援プランを作成して提案する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ①「仕事人が人を作る」を購読(購入困難な場合には事前にコピーを配布)し担当パートについてレポートを作成する。
- ②キャリア・インタビューは協力してくれる身近な働く人(可能な限り家族)を確保し依頼する。
- ③事前課題を参考に1時間のキャリア・インタビューをしてレポートを作成する。
- ④メンタルヘルスプランの発表はパワーポイントを使用して行う。約 10 分の提案するプランを作成する。
- ⑤授業ではグループやメンバーからのソーシャルな学びを重視しているため積極的な参加を期待している。
- ⑥学外授業を 1 回実施する。詳細はオリエンテーションで示す。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 「仕事人が人を作る」の事前学習と発表:20% キャリア・インタビューの実施と発表:25% メンタルヘルスプランの企画とプレゼンテーション:25% 授業への能動的行動とアクティブな学び及び討議などへの参加:30%

テキスト / Textbooks

小関 智弘 仕事人が人をつくる 岩波書店 4004307503

参考文献 / Readings

金井 篤子 産業心理臨床 ナカニシヤ書店 2016

木村 周・下村 英雄 キャリアコンサルティング理論と実際 専門家としてのアイデンティティを求めて 第 6 訂版 一般

コミュニティ・アプローチ特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)

Studies in Community Psychology for Family, Group, & Community

上田 将史(UEDA MASAFUMI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN329
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

昨今、社会の複雑化を背景に、クライアントが抱える問題も多様化、複雑化している。また、国の施策も地域包括ケアシステムや多職種連携・協働の推進に向かう中で、人と環境との適合を図るためのアプローチについて理解を深めておくことは、支援にあたる者にとって必須と言えるだろう。これに加え、コミュニティのメンタルヘルスやウェルビーイングの増進に寄与することで、公認心理師や臨床心理士の社会的意義もより高まっていくと思われる。本講義では、コミュニティ心理学の理念や発想に基づくアプローチを学び、福祉・教育・産業・医療など様々な領域での運用方法について理解を深め、上記の力を身につけることを目的とする。

As society has become more complex in recent years, the problems faced by clients have diversified and become more complex as well. Also, as government policy seeks to promote comprehensive, regional care systems and inter-professional cooperation, a deep understanding of approaches to integrating people into their environments will be necessary for those undertaking the task of psychological support. Furthermore, as certified public psychologists and certified clinical psychologists contribute to the promotion of community mental health and wellbeing, their value to society is likely to increase. In this class, students will learn about approaches that are rooted in the philosophy and ideas of community psychology, and they will deepen their understanding of methods applicable in a variety of fields including welfare, education, industry, and medicine. The goal is for students to become competent in all of the above.

授業の内容 / Course Contents

①家族関係等集団の関係性に焦点をあてた心理支援の理論と方法及び②地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について取り上げる。さらに③心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用として、さまざまな介入や多職種協働について学ぶ。活動・実践についての発表・ディスカッション、演習を通してコミュニティ心理学的なアプローチについて理解を深める。

This class will examine ① the theory and methods of psychological support focused on human relationships within groups such as families, and ② the theory and methods of psychological support applicable to regional communities and groups/organizations. Moreover, students will learn about ③ the various interventions and inter-professional cooperation that employ psychological counseling, advice, guidance, etc. to ① and ② above. Students' understanding of Community Psychology-type approaches will be enriched through presentations, discussion, and seminars regarding practical know-how and activities.

授業計画 / Course Schedule

[1]: イントロダクション

[2]: コミュニティ心理学の理念と発想

[3]: コミュニティ心理学的アプローチの特徴①

- 【4】:コミュニティ心理学的アプローチの特徴②
- 【5】:予防的介入・心理教育
- 【6】:危機理論と危機介入・心理教育
- 【7】:地域・福祉領域におけるコミュニティ・アプローチ:発表とディスカッション
- 【8】:学校・教育領域におけるコミュニティ・アプローチ:発表とディスカッション
- 【9】:産業領域におけるコミュニティ・アプローチ:発表とディスカッション
- 【10】:医療・保健領域におけるコミュニティ・アプローチ:発表とディスカッション
- 【11】:コンサルテーション①
- 【12】:コンサルテーション②
- 【13】:サポートネットワークング
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内で行うワークやディスカッションに主体的に取り組むとともに、コミュニティにおける様々な問題に関心を持ち、関連資源との接点を作り、講義で学んだ観点から考察を深めていくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組みとディスカッションへの参加:35% 発表準備と内容:30% 最終レポート割合::35%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

植村勝彦・高島克子・箕口雅博・原裕視・久田満編 よくわかるコミュニティ心理学[第3版] ミネルヴァ書房 2017 9784623080915

久田満・丹羽郁夫(編) コンサルテーションとコラボレーション (コミュニティ心理学シリーズ 2巻) 金子書房 2022 9784760892785

山本和郎 危機介入とコンサルテーション ミネルヴァ書房 2000 9784623032266

氏原寛・成田善弘編 コミュニティ心理学とコンサルテーション・リエゾン 培風館 2000 9784563056254

金沢吉展編 臨床心理的コミュニティ援助論 誠信書房 2004 9784414413311

山本和郎編 臨床心理学的地域援助の展開 培風館 2001 9784563056490

中島健一編 第17巻 福祉心理学 (公認心理師の基礎と実践) 遠見書房 2018 9784866160672

その他、授業の中で適宜紹介する。

心の健康教育に関する理論と実践

Theory & Practice for Mental Health Education

田中 佑樹(TANAKA YUKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN330
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	集中講義 授業実施日は以下の通り 9月20日(土)3-4限、10月4日(土)・10月18日(土)・11月22日(土)・12月13日(土)3-5限 ※教室については授業開始前に Web 掲示板で確認すること		

授業の目標 / Course Objectives

本科目においては、心の健康教育に関する理論と実践について学び、心理職としてさまざまな場面や対象に対して心の健康教育を実施できるようになることを目指す。なお、公認心理師の受験資格に必要な科目である。

The aims of this class are that students learn about the theory and practice of mental health education and become competent in implementing it as a psychologist for a variety of purposes and situations. This class is a prerequisite for certification as a certified public psychologist.

授業の内容 / Course Contents

本科目においては、まず、ストレスマネジメントや心理教育、その他の健康教育を実践するにあたって必要となる基礎理論を解説する。また、理論だけではなく、ストレスマネジメントや心理教育、その他の健康教育の実践例を紹介し、実践上のポイントなどを解説する。最後に、小グループに分かれて、実際に、いくつかの対象を想定した健康教育プログラムを作成し、それを実施してもらう。

This class will, first of all, explain the fundamental theories that are required to implement stress management programs, psychology education, and other health education. In addition, actual examples of stress management, psychoeducation, and other health education will be introduced, and vital points of their implementation will be explained. Finally, the class will be divided into small groups, and each group will be given a set of assumptions from which to design and implement a health education program.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション 公認心理師による心の健康教育とは
- 【2】:心の健康教育に関する理論① 認知行動療法型ストレスマネジメントの理論と技法
- 【3】:心の健康教育の実践例① 学校におけるストレスマネジメント教育
- 【4】:心の健康教育に関する理論② グループプロセス(集団認知行動療法)の活用
- 【5】:心の健康教育の実践例② アディクションに対する支援
- 【6】:心の健康教育に関する理論③ プログラム評価の方法
- 【7】:心の健康教育の実践例③ 自殺予防教育
- 【8】:小グループによる健康教育プログラムの作成
- 【9】:小グループによる健康教育プログラムの実施①
- 【10】:小グループによる健康教育プログラムの実施②
- 【11】:フィードバック①
- 【12】:小グループによる健康教育プログラムの実施③

【13】:小グループによる健康教育プログラムの実施④

【14】:フィードバック②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

1人につき2回のグループ発表(健康教育プログラムの実施を含む)を予定している。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に配布する授業資料についての予習を求める(文献や論文をまとめたレジюме作成を含む)。また、後半の小グループでの健康教育プログラムの作成と実施にあたっては、授業時間外に検討、準備を進めることを求める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加と課題への取り組み:40% 課題の発表:40% 最終レポート割合::20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

嶋田洋徳・鈴木伸一(編) 学校、職場、地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル 北大路書房 2004
9784762824081

ピーター・J・ビーリング他 集団認知行動療法の理論と実践 金子書房 2018 9784760826674

樋口進・松下幸生・古野悟志 ギャンブル障害 STEP-G 回復支援マニュアル 法研 2021 9784865138221

久田満・飯田敏晴(編) コミュニティ心理学シリーズ 第1巻 心の健康教育 金子書房 2021 9784760892778

川野健治・勝又陽太郎(編) 学校における自殺予防教育プログラム GRIP:5時間の授業で支えあえるクラスをめざす
新曜社 2018 9784788515963

その他は授業内で指示する。

心理実践実習1(基礎)

Practicum in Psychology 1

公認心理師受験資格の必要科目である心理実践実習の一部

松永 美希/田中 志帆/大橋 智/加藤 典子(MATSUNAGA MIKI/ TANAKA SHIHO/ OHASHI TOMO/ KATO NORIKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN331
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師としての心理実践の実習の基礎を身につける。公認心理師の支援の現場の見学を通じて、(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識の修得 (1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援 等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を知的および体験的に習得する。また、学内実習におけるケース担当を通じて、心理検査、心理面接の知識および技能を習得する。

Students will master the fundamental, practical know-how required of certified public psychologists. Through visits to the actual workplace of a certified public psychologist, students will come to understand the following both intellectually and experientially: (A) knowledge and know-how regarding clients, etc., in particular (1) communication, (2) psychological examinations, (3) psychological interviews, (4) support for communities, etc.; (B) how to understand clients, grasp their needs, and create support plans; (C) team approaches to client support; (D) cooperation among multiple professions and within communities; and (E) the professional ethics and legal obligations of certified public psychologists. By taking charge of cases during on-campus practical training, students will acquire the knowledge and skills required to conduct psychological examinations and interviews.

授業の内容 / Course Contents

公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識の修得 (1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について、現場を見学し、実習指導者 又は実習担当教員による指導を受ける。実習施設の分野は、主要5分野のうち、福祉分野、教育分野、産業分野、司法分野に関する学外施設(「公認心理師法施行 規則第三条第三項の規定に基づき文部科学大臣及び厚生労働大臣が別に定める施設」(平成29年文部科学省・厚生労働省告示第5号))のうち、1分野以上。1分野につき、事前学習1時間、見学実習3時間、事後学習1時間、全体報告会1時間。

また、学内実習施設である立教大学心理教育相談所での電話受付実習、心理検査、心理面接などの実習の時間数も実習時間としてカウントする。担当ケース1ケースにつき、実践の実施、記録、振り返り、スーパービジョン(個人またはグループ)を含み、1セッションにつき4時間、10セッション以上を行う。

After understanding the fundamental knowledge and skills that are essential for certified public psychologists, students will visit the actual workplace of a therapist and will receive guidance from the responsible instructor or faculty member in the following areas:

(A) knowledge and know-how regarding clients, etc., in particular (1) communication, (2) psychological examinations, (3) psychological interviews, (4) support for communities, etc.; (B) understanding clients, grasping their needs, and creating support plans; (C) team approaches to client support; (D) cooperation among multiple professions and within communities; and (E) the professional ethics and legal obligations of certified public psychologists. Among the five major fields of practical training, students must complete off-campus training in one or more of the following fields at an eligible institution or institutions: welfare, education, industry, justice.

Note: Eligible institutions are determined separately by the Minister of Education, Culture, Sports, Science & Technology and the Minister of Health, Labour & Welfare based on the Enforcement Regulations Article 3 (paragraph 3) of the Certified Psychological Therapist Act (2017, Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology / Ministry of Health, Labour & Welfare Notice No. 5) For one field, 1 hour of pre-training, 3 hours of workplace practical training, and 1 hour of follow-up training are required.

Practical training in psychological examinations and interviews is conducted on-campus at Rikkyo University, at the Psychological Counseling Center, for the case(s) being managed by each student. For each case, ten sessions are required. Each session lasts for 4 hours and includes practice, record keeping, debriefing, and supervision (individual or group).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 公認心理師となるための実習の意義について
- 【2】: 事前学習①、学内施設における担当ケース指導
- 【3】: 事前学習②、学内施設における担当ケース指導
- 【4】: 事前学習③、学内施設における担当ケース指導
- 【5】: 見学実習①
- 【6】: 見学実習②
- 【7】: 見学実習③
- 【8】: 事後学習①、学内施設における担当ケース指導
- 【9】: 事後学習②、学内施設における担当ケース指導
- 【10】: 事後学習③、学内施設における担当ケース指導
- 【11】: 全体報告会①、学内施設における担当ケース指導
- 【12】: 全体報告会②、学内施設における担当ケース指導
- 【13】: 全体報告会③、学内施設における担当ケース指導
- 【14】: 振り返りとまとめ、現場実習ガイダンス

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

公認心理師の職責、すなわち① 公認心理師の役割 ② 公認心理師の法的義務及び倫理 ③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④ 情報の適切な取扱い ⑤ 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 ⑥ 多職種連携及び地域連携 についての基礎的な学習を予習として行う。見学実習に行く分野についての予備学習を行う。担当ケースについての予備学習を行う。見学実習の事後学習として振り返りと自己評価を行う。担当ケースについての振り返りを行い、指導を受けた上で改めて振り返りを行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前学習の課題と発表:20% 見学実習、実習日誌:30% 事後学習の課題と発表:20% 全体報告会の発表:20% 最終レポート割合::10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

心理実践実習3

Practicum in Psychology 3

公認心理師となるために必要な科目である心理実践実習の一部である

松永 美希 / 大石 幸二 / 田中 志帆 (MATSUNAGA MIKI / OISHI KOUJI / TANAKA SHIHO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN332
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師となるために必要な心理実践の実習を行う。

This class provides the practical training that is required before one can become a certified public psychologist.

授業の内容 / Course Contents

大学段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、次の(ア)から(オ)までに掲げる事項について、現場において心理に関する支援を要する者等に対して支援を実践しながら、実習指導者又は実習担当教員による指導を受ける。

①実習施設の分野については主要5分野に関する学外施設(具体的な施設については「公認心理師法施行規則第三条第三項の規定に基づき文部科学大臣及び厚生労働大臣が別に定める施設」(平成 29 年文部科学省・厚生労働省告示第5号)のとおり。)のうち、2分野の施設において現場実習を行う。ただし、医療機関は必須とする。

(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得

(1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援等

(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成

(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

(エ) 多職種連携及び地域連携

(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

学外機関における実習は、一分野につき、一回 8 時間、23 週、二分野で 368 時間とする。

②現場実習における担当ケースに関する実習の時間は一分野につき、85 時間、二分野で 190 時間とする。

③実習担当教員が、実習生の実習状況について把握し、①の(ア)から(オ)までに掲げる事項について基本的な水準の修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行う。

また、学内実習においてケースを担当し、心理検査、心理面接の知識と技能をする。担当時間は 80 時間とする。

This class will build upon the fundamental understanding, knowledge, and skills required of a certified public psychologist that were acquired at the university level. Students will receive feedback from an instructor or faculty member as they apply their skills to provide actual psychological support to clients as detailed in (A) through (E) below.

Practical training at off-campus institutions must be completed in two of the five major fields. Note: Eligible institutions are determined separately by the Minister of Education, Culture, Sports, Science & Technology and the Minister of Health, Labour & Welfare based on the Enforcement Regulations Article 3 (paragraph 3) of the Certified Psychological Therapist Act (2017, Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology / Ministry of Health, Labour & Welfare Notice No. 5) Practical training must be carried out at a medical institution. (A) master the following knowledge and skills as they relate to providing psychological support to a client: (1) communication, (2) psychological examinations, (3) psychological interviews, and (4) community support; (B) understand clients, grasp their needs, and

produce psychological therapy plans for them; (C) practice a team approach to each client and his/her psychological therapy; (D) cooperate with people in a variety of occupations and communities; (E) understand the ethical and legal obligations of certified public psychologists.

Practical training at an external institution requires 23 weeks per specialty (8 hours per session), or a total of 368 hours for two specialties.

② Practical training in managing cases requires 85 hours per specialty, i.e., 190 hours for two specialties. ③ The faculty member in charge of practical training will monitor the training status of each trainee, and will maintain close contact with both the trainee and instructors to make certain that each trainee achieves the objectives listed in ① (A) through (E).

By taking charge of cases during on-campus practical training, students will acquire the knowledge and skills required to conduct psychological examinations and interviews. Each student must spend 80 hours in charge of a case or cases.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 公認心理師となるための実習の意義について
- 【2】: 現場実習
- 【3】: 現場実習
- 【4】: 現場実習
- 【5】: 現場実習
- 【6】: 現場実習
- 【7】: 現場実習
- 【8】: 現場実習
- 【9】: 現場実習
- 【10】: 現場実習
- 【11】: 現場実習
- 【12】: 現場実習
- 【13】: 現場実習
- 【14】: 振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

公認心理師の職責、すなわち① 公認心理師の役割 ② 公認心理師の法的義務及び倫理 ③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④ 情報の適切な取扱い ⑤ 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 ⑥ 多職種連携及び地域連携 についての基礎的な学習を予習として行う。現場実習に行く分野についての予備学習を行う。現場実習では、実習後に毎回実習日誌を下記、振り返りを行う(実習日誌を作成する時間や振り返りは、実習時間に含まれる)。一分野が終わった時には、実習報告会で振り返りをまとめて報告し、自己評価を行う。面接の陪席の際には、ケースについての予備学習を行う。陪席の事後学習として振り返りと自己評価を行う。事例検討会では、毎回の出席、および振り返りのレポートを書く。ケースを担当する際は、予備学習を行う。担当ケースは毎回振り返りを行い、指導を受けた上で改めて振り返りを行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 現場実習:80% 実習日誌の提出、実習報告会:20%

(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 (1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。以上の(ア)から(オ)の基準を満たせないと判断された場合には、単位修得を不可とする。また全体を通じて欠席が3分の1以上の場合には単位修得を不可とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

心理実践実習4

Practicum in Psychology 4

公認心理師となるために必要な科目である心理実践実習の一部

山田 哲子/田中 志帆/大江 由香(YAMADA TETSUKO/ TANAKA SHIHO/ OE YUKA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN333
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5620
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師となるために必要な心理実践の実習を行う。主には学外の公認心理師の支援の現場での実習(以下、現場実習)を通じて、(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識の修得(コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等)、(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(エ)多職種連携及び地域連携、(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を体験的に習得する。

This class provides the practical training that is required before one can become a certified public psychologist. Primarily through off-campus practical training in the actual workplace of a certified public psychologist (hereafter, “workplace practical training”), students will receive experience-based training in the following:

(A) knowledge and know-how regarding clients, etc. (communication, psychological examinations, psychological interviews, support for communities, etc.); (B) understanding clients, grasping their needs, and creating support plans; (C) team approaches to client support; (D) cooperation among multiple professions and within communities; and (E) the professional ethics and legal obligations of certified public psychologists.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、学外実習施設における現場実習から構成される。

現場実習では、公認心理師に必要な基礎的な知識・技能の理解の上に、主に次の5点について、実習指導者と実習担当教員から指導を受ける。

(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識の修得(コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等)

(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成

(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

(エ)多職種連携及び地域連携

(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務

実習施設は、主要5分野のうち、保健医療分野もしくは福祉分野、教育分野に関する学外施設のうち、1分野以上とする。そのうち、保健医療分野(医療機関)については、本授業(心理実践実習4)もしくは心理実践実習3において必ず実習することとする。1分野につき、事前学習1時間、現場での実習時間184時間以上、事後学習1時間とする。なお、現場実習時間のうち、ケースの担当を95時間以上とする。

事前授業では、これまでの講義での学習をもとに、当該分野における公認心理師の役割と業務内容、他職種との連携、関連法規や制度などについて概要を振り返る。また事後授業では、現場実習で学んだことをもとに、当該分野における公認心理師の心理的支援についてディスカッションをおこなう。

This class is composed of workplace practical training held at off-campus training institutions.

During workplace practical training, after understanding the fundamental knowledge and skills that are essential for certified public psychologists, students will receive practical guidance from the responsible instructor or faculty member primarily in the following five areas:

- (A) knowledge and know-how regarding clients, etc. (communication, psychological examinations, psychological interviews, support for communities, etc.);
- (B) understanding clients, grasping their needs, and creating support plans;
- (C) team approaches to client support;
- (D) cooperation among multiple professions and within communities;
- (E) the professional ethics and legal obligations of certified public psychologists.

Among the five major fields of practical training, students must complete off-campus training in one or more of the following fields at an eligible institution or institutions: health & medicine, welfare, or education. Practical training in the health & medicine field (at a medical institution) must be included either in this class (Practicum in Psychology 4) or in Practicum in Psychology 3. For each field, 1 hour of pre-training, at least 184 hours of practical training in the workplace, and 1 hour of follow-up training are required. Moreover, at least 95 hours of the workplace practical training must be devoted to case-related duties.

The pre-training session will build upon material learned in previous classes by reiterating the following with regard to the selected field of practical training: the role and duties of certified public psychologists; cooperation with other professionals; and relevant laws, regulations, institutions, etc. The follow-up session will build upon expertise gained during the off-campus practical training. Trainees will discuss the psychological support provided by certified public psychologists in the selected field of practical training.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 現場事前授業
- 【2】: 現場実習
- 【3】: 現場実習
- 【4】: 現場実習
- 【5】: 現場実習
- 【6】: 現場実習
- 【7】: 現場実習
- 【8】: 現場実習
- 【9】: 現場実習
- 【10】: 現場実習
- 【11】: 現場実習
- 【12】: 現場実習
- 【13】: 現場実習
- 【14】: 現場実習事後授業・振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

公認心理師の職責、すなわち①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③心理に関する支援を要する者等の安全の確保、④情報の適切な取扱い、⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、⑥多職種連携及び地域連携 についての基礎的な学習を予習として行う。現場実習に行く分野についての予備学習を行う。担当ケースについての予備学習を行う。現場実習後はその都度、実習日誌への記載を行い、振り返りと自己評価を行う。担当ケースについて、実習指導者および担当教員より指導を受けた上で改めて振り返りを行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 現場実習:50% 実習日誌を用いた実習記録と報告会:20% 実習振り返り:30%

全体を通じて欠席が3分の1以上の場合には単位修得を不可とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜指示する。

臨床心理実習1(心理実践実習2)

Clinical Training 1 : Practicum in Psychology 2

公認心理師となるために必要な科目である心理実践実習の一部であり、臨床心理士となるために必要な科目である臨床心理実習

大石 幸二/田中 志帆/大江 由香/湯野 貴子(OISHI KOUJI/ TANAKA SHIHO/ OE YUKA/ YUNO TAKAKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN334
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5120
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理士、公認心理師となるために必要な心理実践の実習を行う。また、学内実習におけるケース担当を通じて、心理検査、心理面接の知識および技能を習得する。

This class provides the practical training that is required before one can become a certified public psychologist. By taking charge of cases during on-campus practical training, students will acquire the knowledge and skills required to conduct psychological examinations and interviews.

授業の内容 / Course Contents

大学段階で学習した臨床心理士、公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、次の(ア)から(オ)までに掲げる事項について、現場において心理に関する支援を要する者等に対して支援を実践しながら、実習指導者又は実習担当教員による指導を受ける。

① 実習施設の分野については主要5分野に関する学外施設(具体的な施設については「公認心理師法施行規則第三条第三項の規定に基づき文部科学大臣及び厚生労働大臣が別に定める施設」(平成 29 年文部科学省・厚生労働省告示第5号)のとおり。)のうち、2分野の施設において現場実習を行う。ただし、医療機関は必須とする。

(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得

(1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援等

(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成

(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

(エ) 多職種連携及び地域連携

(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

学外機関における実習は、一分野につき、一回 8 時間、23 週、二分野で 368 時間とする。

② 現場実習における担当ケースに関する実習の時間は一分野につき、85 時間、二分野で 190 時間とする。③ 実習担当教員が、実習生の実習状況について把握し、①の(ア)から(オ)までに掲げる事項について基本的な水準の修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行う。

学内実習施設における電話受付実習を 10 時間行う。学内実習施設における面接の陪席を、事前学習、事後の振り返りを含め、3 時間行う。学内実習施設における事例検討会に 9 時間参加する。

また、学内実習においてケースを担当し、心理検査、心理面接の知識と技能をする。担当時間は 80 時間とする。

This class will build upon the fundamental understanding, knowledge, and skills required of a certified public psychologist that were acquired at the university level. Students will receive feedback from an instructor or faculty member as they apply their skills to provide actual psychological support to clients as detailed in (A) through (E) below. Practical training at off-campus institutions must be completed in two of the five major fields. Note: Eligible institutions

are determined separately by the Minister of Education, Culture, Sports, Science & Technology and the Minister of Health, Labour & Welfare based on the Enforcement Regulations Article 3 (paragraph 3) of the certified public psychologist Act (2017, Ministry of Education, Culture, Sports, Science & Technology / Ministry of Health, Labour & Welfare Notice No. 5) Practical training must be carried out at a medical institution. (A) master the following knowledge and skills as they relate to providing psychological support to a client: (1) communication, (2) psychological examinations, (3) psychological interviews, and (4) community support; (B) understand clients, grasp their needs, and produce psychological therapy plans for them; (C) practice a team approach to each client and his/her psychological therapy; (D) cooperate with people in a variety of occupations and communities; (E) understand the ethical and legal obligations of certified public psychologists.

Practical training at an external institution requires 23 weeks per specialty (8 hours per session), or a total of 368 hours for two specialties.

② Practical training in managing cases requires 85 hours per specialty, i.e., 190 hours for two specialties. ③ The faculty member in charge of practical training will monitor the training status of each trainee, and will maintain close contact with both the trainee and instructors to make certain that each trainee achieves the objectives listed in ① (A) through (E).

Students will complete the following at the on-campus training facility: 10 hours of practical training in telephone reception; 3 hours observing client interviews and attending briefings and debriefings; 9 hours participating in case studies.

By taking charge of cases during on-campus practical training, students will acquire the knowledge and skills required to conduct psychological examinations and interviews. Each student must spend 80 hours in charge of a case or cases.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 公認心理師となるための実習の意義について
- 【2】: 学内実習施設における電話受付実習
- 【3】: 学内実習施設における面接陪席実習
- 【4】: 現場実習
- 【5】: 現場実習
- 【6】: 現場実習
- 【7】: 現場実習
- 【8】: 現場実習
- 【9】: 現場実習
- 【10】: 学内施設における担当ケース指導
- 【11】: 学内施設における担当ケース指導
- 【12】: 学内施設における担当ケース指導
- 【13】: 学内施設における担当ケース指導
- 【14】: 振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

公認心理師の職責、すなわち① 公認心理師の役割 ② 公認心理師の法的義務及び倫理 ③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④ 情報の適切な取扱い ⑤ 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務 ⑥ 多職種連携及び地域連携についての基礎的な学習を予習として行う。現場実習に行く分野についての予備学習を行う。現場実習では毎回振り返りを行う。一分野が終わった時には、実習報告会で振り返りをまとめて報告し、自己評価を行う。面接の陪席をするケースについての予備学習を行う。陪席の事後学習として振り返りと自己評価を行う。事例検討会の後に、毎回、発表事例について振り返り、レポートにまとめる。担当ケースについての予備学習を行う。担当ケースについての振り返りを行い、指導を受けた上で改めて振り返りを行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 電話受付実習:10% 現場実習:50% 事例検討会の振り返り(毎回):40%

(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 (1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理及

び法的義務への理解。以上の(ア)から(オ)の基準を満たせないと判断された場合には、単位修得を不可とする。また全体を通じて欠席が3分の1以上の場合には単位修得を不可とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

臨床心理実習2

Clinical Training 2

臨床心理士養成のための学内実習

山田 哲子/大江 由香/湯野 貴子(YAMADA TETSUKO/ OE YUKA/ YUNO TAKAKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN335
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5120
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理士としての技能を体験学習により身につける。学内実習におけるケース担当を通じて、心理検査、心理面接の知識および技能を習得する。

Through experience-based learning, students will master the skills employed by certified clinical psychologists. By taking charge of cases during on-campus practical training, students will acquire the knowledge and skills required to conduct psychological examinations and interviews.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理士として面接の技能を体験的に身につけるため、春学期に引き続き、学内実習施設における電話受付実習や面接の陪席や事例検討会への参加により、支援者としての基本的な知識と技能を身につける。学内実習施設においてケース担当を通じて、心理検査、心理面接の知識および技能を習得する。ケース担当においては個人スーパービジョン、グループスーパービジョン、事例検討会などの場において、面接者としての特徴を理解し、臨床心理士としての技能を向上させる。

Continuing from the spring semester, the interviewing skills required of a certified clinical psychologist will be honed through experience-based training in telephone reception, observation of client interviews, and participation in case studies, all of which will be held at the on-campus training facility. By taking charge of cases during on-campus practical training, a student will acquire the knowledge and skills required to conduct psychological examinations and interviews. Through individual supervision, group supervision, case study sessions, etc., the case manager will come to understand the traits required of an interviewer as well as improve his/her skills as a clinical psychologist.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 自己課題の確認
- 【2】: 学内実習施設における電話受付実習
- 【3】: 学内実習施設における電話受付実習
- 【4】: 学内実習施設における電話受付実習
- 【5】: 学内施設における担当ケース指導
- 【6】: 学内施設における担当ケース指導
- 【7】: 学内施設における担当ケース指導
- 【8】: 学内施設における担当ケース指導
- 【9】: 学内施設における担当ケース指導
- 【10】: 学内施設における担当ケース指導
- 【11】: 学内実習施設における事例検討会への参加
- 【12】: 学内実習施設における事例検討会への参加

【13】: 学内実習施設における事例検討会への参加

【14】: 振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

面接の陪席をするケースについての予備学習を行う。陪席の事後学習として振り返りと自己評価を行う。

担当ケースについての予備学習を行う。担当ケースについての振り返りを行い、指導を受けた上で改めて振り返りを行う。

事例検討会の後に、毎回、発表事例について振り返り、レポートにまとめる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 事例検討会の振り返りレポート(毎回): 40% 学内実習: 60%

実習、ケース担当、事例検討会の全体を通じて、欠席が3分の1以上の場合には評価は不合格とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

臨床心理基礎実習2

Basic Clinical Training 2

臨床心理士養成のための学内実習

松永 美希/山中 淑江/加藤 典子 (MATSUNAGA MIKI/ YAMANAKA YOSHIE/ KATO NORIKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UN336
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	1	科目ナンバリング	CLP5120
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理士としての技能を体験学習により身につける。

Through experience-based learning, students will master the skills employed by certified clinical psychologists.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理士として面接の技能を体験的に身につけるため、演習によりロールプレイを行い、面接者としての特徴を理解し、面接の基礎的な訓練を行う。実際の臨床心理面接の試行的な体験を回数限定で行い、逐語録を毎回グループスーパービジョンにより検討して指導を受け、面接の流れや見立てなどの基本的な臨床心理面接の技能を身につける。春学期に引き続き、学内実習施設における電話受付実習や面接の陪席や事例検討会への参加により、支援者としての基本的な知識と技能を身につける。

The interviewing skills required of a certified clinical psychologist will be mastered through experience-based training. Seminars will include role-playing that enables students to practice the fundamentals of conducting interviews as well as understand the traits required of an interviewer. Each student will have a limited number of opportunities to conduct realistic clinical psychology interviews on a trial-and-error basis. Through a group supervision system, each transcript/recording will be analyzed, and feedback will be provided, enabling students to master the basic skills required to perform clinical psychology interviews such as interview flow and diagnosis. Continuing from the spring semester, students will further master the basic knowledge and skills required of a therapist through practical training in telephone reception, observation of client interviews, and participation in case studies, all of which will be held at the on-campus training facility.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 自己課題の確認
- 【2】: ロールプレイ演習
- 【3】: ロールプレイ演習
- 【4】: ロールプレイ演習
- 【5】: 学内実習施設における電話受付実習
- 【6】: 学内実習施設における電話受付実習
- 【7】: 学内実習施設における電話受付実習
- 【8】: 学内実習施設における面接陪席実習
- 【9】: 学内実習施設における面接陪席実習
- 【10】: 学内実習施設における面接陪席実習
- 【11】: 学内実習施設における事例検討会への参加
- 【12】: 学内実習施設における事例検討会への参加

【13】:学内実習施設における事例検討会への参加

【14】:振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ロールプレイの振り返りを行う。ロールプレイ実施後に逐語録をおこすと同時に振り返りを行い、スーパービジョン後に再度振り返る。

面接の陪席をするケースについての予備学習を行う。陪席の事後学習として振り返りと自己評価を行う。

事例検討会の後にも、発表事例を振り返り、レポートにまとめる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 体験学習:20% 電話受付実習:20% 事例検討会の振り返りレポート(毎回):40% 最終レポート割合::20%

講義、実習、事例検討会の全体を通じて、欠席が3分の1以上の場合には評価は不合格とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜講義内で指示する。

その他 / Others

臨床心理実習1・2(通常 M2で履修する、臨床心理士の受験資格に必要な科目。)を履修するにあたっては、本科目を事前に履修することを強く勧める。

映像身体学原論

Principles of Body Expression and Cinematic Arts

大山 載吉(OHYAMA NORIYOSHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP151
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5310
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「映像身体学」の基本的発想を理解し、それを各自の研究や制作に自在に応用できるようになる為の準備をする。
 This course aims to enable students to understand the fundamental ideas of “Expression Studies.” It prepares them to apply the ideas at will in their individual research and productions.

授業の内容 / Course Contents

人間の身体と行動の在り方がどのようなものか、そして知覚の本質がどこにあるのか、それが世界との間にいかなる関係を形成するのかを考えます。さらに<機械による知覚>にほかならない写真、映画などの映像が、いかにして身体による知覚＝行動に接続し、思考の方法や感覚の表現になるのかを原理的に解き明かしていきます。

This course considers what the human body and what human behavior actually are, where the essence of perception lies, and how these form one’s relationship with the world. Moreover, the course elucidates theoretically how visual formats such as photographs and movies (which are nothing other than “machine-mediated perception”) connect with a person’s perception = behavior and become expressions of feelings and ways of thinking.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:物質と身体の違い
- 【2】:様々な知覚の段階
- 【3】:脳と知覚
- 【4】:記憶と知覚
- 【5】:機械による知覚としての写真
- 【6】:光の圧縮と切断としての写真
- 【7】:写真と絵画との間の本性の差異
- 【8】:映画の出現
- 【9】:写真と映画との間の本性の差異
- 【10】:<運動>(映画カメラによる知覚)
- 【11】:運動と個体
- 【12】:記憶/過去と映画との関係
- 【13】:機械映像と潜在的なもの
- 【14】:「映像身体学」とは何か

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用

校外実習・フィールドワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

アンリ・ベルクソン『物質と記憶』など指定されたテキストを読むこと(各回2時間程度)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 数回のリアクションペーパーと授業に取り組む姿勢:70% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

上記の授業計画は予定であり変更の可能性はある。

映像身体学研究法

Methodology of Body Expression and Cinematic Arts
映像身体学の哲学

江川 隆男 (EGAWA TAKAO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP152
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、それぞれの院生が自らの研究領域のもとで、映像身体学についての基本概念の形成を目指し、またそこからこの学の原理を見出すことを目標とする。

This course aims to enable students, based on their individual research domain, to seek the form of its basic concepts and thereby discover its principles.

授業の内容 / Course Contents

ここでは、映像身体学の基本概念——表現、解釈、感覚、構成、対象性、批判、創造、分析、総合、等々——についていくつかのテキストや資料を用いて、授業を進めていきたい。受講者は、授業内でのテーマについての自分の考えや意見、問題や質問を提起できるようつねに意識して積極的に参加してもらいたい。また論文の書き方についての指導も含めて授業を展開する予定である。

This course uses a number of texts or other materials associated with the basic concepts of Body Expression and Cinematic Arts (e.g., expression, interpretation, sensation, construction, objectivity, criticism, creation, analysis, synthesis). Students are expected to participate actively while consciously generating their own ideas, opinions, problems, and questions regarding course themes. Moreover, the course offers guidance on writing papers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 映像身体学の基本概念についての考察(1)
- 【3】: 基本概念についての考察(2)
- 【4】: 基本概念についての考察(3)
- 【5】: 基本概念の批判的考察(1)
- 【6】: 基本概念の批判的考察(2)
- 【7】: 基本概念の批判的考察(3)
- 【8】: 分析と総合について(1)
- 【9】: 分析と総合について(2)
- 【10】: 批判と創造について(1)
- 【11】: 批判と創造について(2)
- 【12】: 表現と表象について(1)
- 【13】: 表現と表象について(2)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

テキストや資料を配布する。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

詳しくは授業時に指示するが、この科目の予習・復習にはそれぞれ2時間程度が必要となります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

適宜、コピーを配布する。

参考文献 / Readings

修士論文指導演習1

Supervisory Seminar for Master's Thesis1

宮本 裕子(MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC6310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習2」(秋学期)と併せて、修士論文執筆の指導を行う。

Combined with “Supervisory Seminar on Master's Thesis 2” (fall semester), this class will provide guidance to students as they write their master's theses.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、それぞれの指導教員が、研究計画の設定、研究の遂行、資料の収集や分析、論文の執筆を指導する。論文に代えて修了制作を選択した学生には、制作計画の設定、制作、および副論文執筆の指導を行う。

A faculty member appropriate for each student's research theme will provide guidance with regard to establishing a research plan, executing it, gathering and analyzing material, and writing the thesis. For students who have chosen to complete a production instead of writing a thesis, guidance will be provided with regard to establishing a production plan, completing the production, and writing a supplementary thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 修士論文の指導
- 【2】: 修士論文の指導
- 【3】: 修士論文の指導
- 【4】: 修士論文の指導
- 【5】: 修士論文の指導
- 【6】: 修士論文の指導
- 【7】: 修士論文の指導
- 【8】: 修士論文の指導
- 【9】: 修士論文の指導
- 【10】: 修士論文の指導
- 【11】: 修士論文の指導
- 【12】: 修士論文の指導
- 【13】: 修士論文の指導
- 【14】: 修士論文の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="checkbox"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="checkbox"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="checkbox"/>

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用

校外実習・フィールドワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に、履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%

修士論文自体の評価とは独立に評価する。

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で紹介する。

修士論文指導演習1

Supervisory Seminar for Master's Thesis1

加藤 千恵 (KATO CHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP204
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC6310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習2」(秋学期)と併せて、修士論文執筆の指導を行う。

Combined with “Supervisory Seminar on Master's Thesis 2” (fall semester), this class will provide guidance to students as they write their master's theses.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、それぞれの指導教員が、研究計画の設定、研究の遂行、資料の収集や分析、論文の執筆を指導する。論文に代えて修了制作を選択した学生には、制作計画の設定、制作、および副論文執筆の指導を行う。

A faculty member appropriate for each student's research theme will provide guidance with regard to establishing a research plan, executing it, gathering and analyzing material, and writing the thesis. For students who have chosen to complete a production instead of writing a thesis, guidance will be provided with regard to establishing a production plan, completing the production, and writing a supplementary thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 修士論文の指導
- 【2】: 修士論文の指導
- 【3】: 修士論文の指導
- 【4】: 修士論文の指導
- 【5】: 修士論文の指導
- 【6】: 修士論文の指導
- 【7】: 修士論文の指導
- 【8】: 修士論文の指導
- 【9】: 修士論文の指導
- 【10】: 修士論文の指導
- 【11】: 修士論文の指導
- 【12】: 修士論文の指導
- 【13】: 修士論文の指導
- 【14】: 修士論文の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="checkbox"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用

校外実習・フィールドワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に、履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%

修士論文自体の評価とは独立に評価する。

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で紹介する。

修士論文指導演習2

Supervisory Seminar for Master's Thesis2

宮本 裕子(MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP211
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC6310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習1」(春学期)と併せて、修士論文執筆の指導を行う。

Combined with “Supervisory Seminar on Master's Thesis 1” (spring semester), this class will provide guidance to students as they write their master's theses.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、それぞれの指導教員が、研究計画の設定、研究の遂行、資料の収集や分析、論文の執筆を指導する。論文に代えて修了制作を選択した学生には、制作計画の設定、制作、および副論文執筆の指導を行う。

A faculty member appropriate for each student's research theme will provide guidance with regard to establishing a research plan, executing it, gathering and analyzing material, and writing the thesis. For students who have chosen to complete a production instead of writing a thesis, guidance will be provided with regard to establishing a production plan, completing the production, and writing a supplementary thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 修士論文の指導
- 【2】: 修士論文の指導
- 【3】: 修士論文の指導
- 【4】: 修士論文の指導
- 【5】: 修士論文の指導
- 【6】: 修士論文の指導
- 【7】: 修士論文の指導
- 【8】: 修士論文の指導
- 【9】: 修士論文の指導
- 【10】: 修士論文の指導
- 【11】: 修士論文の指導
- 【12】: 修士論文の指導
- 【13】: 修士論文の指導
- 【14】: 修士論文の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="checkbox"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="checkbox"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="checkbox"/>

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用

校外実習・フィールドワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に、履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%

修士論文自体の評価とは独立に評価する。

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で紹介する。

修士論文指導演習2

Supervisory Seminar for Master's Thesis2

加藤 千恵 (KATO CHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP214
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC6310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「修士論文指導演習1」(春学期)と併せて、修士論文執筆の指導を行う。

Combined with “Supervisory Seminar on Master's Thesis 1” (spring semester), this class will provide guidance to students as they write their master's theses.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマに基づき、それぞれの指導教員が、研究計画の設定、研究の遂行、資料の収集や分析、論文の執筆を指導する。論文に代えて修了制作を選択した学生には、制作計画の設定、制作、および副論文執筆の指導を行う。

A faculty member appropriate for each student's research theme will provide guidance with regard to establishing a research plan, executing it, gathering and analyzing material, and writing the thesis. For students who have chosen to complete a production instead of writing a thesis, guidance will be provided with regard to establishing a production plan, completing the production, and writing a supplementary thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 修士論文の指導
- 【2】: 修士論文の指導
- 【3】: 修士論文の指導
- 【4】: 修士論文の指導
- 【5】: 修士論文の指導
- 【6】: 修士論文の指導
- 【7】: 修士論文の指導
- 【8】: 修士論文の指導
- 【9】: 修士論文の指導
- 【10】: 修士論文の指導
- 【11】: 修士論文の指導
- 【12】: 修士論文の指導
- 【13】: 修士論文の指導
- 【14】: 修士論文の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用

校外実習・フィールドワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に、履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%

修士論文自体の評価とは独立に評価する。

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

研究指導の中で紹介する。

映像身体学特殊研究1

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 1
哲学と映像身体学

江川 隆男 (EGAWA TAKAO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP351
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、映像身体論にとってもっとも重要な思考を展開したジル・ドゥルーズの哲学について、その基本的な理解が得られることを目標とする。

The purpose of this course is to provide students with basic understanding of the philosophy of Gilles Deleuze, who developed the most important ideas in the fields of Body Expression and Cinematic Arts.

授業の内容 / Course Contents

ここでは、ジル・ドゥルーズの哲学の本質を形成しているいくつかの概念についての本格的な理解をも目指したいと思っています。この哲学は、まさに新たな概念(別の考え方)の形成にあり、それだけでなく新たな情動(別の感じ方)と知覚(別の見方)にまで届くようなものです。基本的にはテキストや資料を用いた講義形式で授業を進めていきます。受講者は、こうした事柄についての内容と表現とを、つねに各自のテーマや課題に即して意識できるよう心掛けてください。

This course aims to help students achieve full understanding of concepts that comprise the essence of Gilles Deleuze's philosophy, which concerns the very formation of new ideas (other ways of thinking) as well as novel affects (other ways of feeling) and novel sensations (other ways of seeing). The course is conducted primarily in a lecture format based on a text and other materials. Students should be ever conscious of how the presented material and expressions fit into their individual themes and open questions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 芸術と哲学の諸問題
- 【3】: 経験とは何か(1)
- 【4】: 経験とは何か(2)
- 【5】: 共通感覚について(1)
- 【6】: 共通感覚について(2)
- 【7】: 自由意志から自由活動へ(1)
- 【8】: 自由意志から自由活動へ(2)
- 【9】: まとめ
- 【10】: 哲学、芸術、科学について(1)
- 【11】: 哲学、芸術、科学について(2)
- 【12】: 超越論的経験論について(1)
- 【13】: 超越論的経験論について(2)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

テキストや資料を配布する。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

詳しくは授業時に指示するが、この科目の予習・復習にはそれぞれ2時間程度が必要となります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への取り組み:60%

最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

映像身体学特殊研究2

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 2

21世紀のメディア論

滝浪 佑紀 (TAKINAMI YUKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP352
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

とりわけ視覚メディアを中心として、近年のメディア論からいくつかの重要なテキストを読む。こうした最新のメディア論の研究を深く理解し、映画やテレビ、インターネットなどのメディアの分析をおこなうための方法論を獲得することを目指す。The course will consider some important texts in the field of media theory, particularly focusing on visual media. Through deeply understanding these recent media theory, we try to acquire the methods to analyze media, including cinema, television, and internet.

授業の内容 / Course Contents

Steven Shaviro, Thomas Lamarre, Lev Manovich などのメディア論を精読する。またこうしたメディア論で論じられている作品や現象についても考察する。授業内でのディスカッションも重視し、最新の研究成果について理解を深める。The course will consider books and articles dealing with media written by critics, including Steven Shaviro, Thomas Lamarre, and Lev Manovich . We will also examine the works and phenomena discussed in these books and articles. In this course, the discussion is important, through which the students will deepen the understanding on recent media theory.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読 1
- 【3】: 文献講読 2
- 【4】: 文献講読 3
- 【5】: 文献講読 4
- 【6】: 文献講読 5
- 【7】: 文献講読 6
- 【8】: 文献講読 7
- 【9】: 文献講読 8
- 【10】: 文献講読 9
- 【11】: 文献講読 10
- 【12】: 文献講読 11
- 【13】: 文献講読 12
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として授業内で提示された文献をあらかじめ読解すること(各回2時間)。復習として授業内での文献講読を踏まえ、提示された参考資料などをもとに、文献に関する理解をさらに深めること(各回2時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:40% 授業への取り組み:20% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に指示する。

映像身体学特殊研究3

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 3

政治哲学

ヘルダーリンとブレヒト

田崎 英明(TAZAKI HIDEAKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP353
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. 自分が普段読み慣れている言語以外の言語で哲学や美学の文献を読みこなせるようになる。
2. 現代の批評理論の概要を理解し、自分自身でも具体的に作品を理論的に批評できるようになる。
3. 現代の政治運動/政治思想/政治哲学において問われていたことが何であるのかを理解し、その現代的な意義を論じることができるようになる。

The purposes of this course are for students to: (1) become accustomed to reading philosophy and aesthetics literature in a language other than that they typically use;

(2) after understanding the gist of modern critical theory, learn how to write concrete, theory-based critiques of art works; and

(3) understand why certain concerns and themes arose within modern political movements, political thought, and political philosophies, thereby gaining the ability to debate their contemporary meaning.

授業の内容 / Course Contents

ヘルダーリンとブレヒトに関する著作を複数の言語で読み、議論していく。

The purpose of this course is to read the papers on the theatrical works of Hölderlin-Brecht in multiple languages and then discuss and debate them.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: ブレヒトについて
- 【3】: ベンヤミンとブレヒト 1
- 【4】: ベンヤミンとブレヒト 2
- 【5】: ラクー＝ラバルトによるヘルダーリン 1
- 【6】: ラクー＝ラバルトによるヘルダーリン 2
- 【7】: ブレヒト『アンティゴネー』1
- 【8】: ブレヒト『アンティゴネー』2
- 【9】: ブレヒト『アンティゴネー』3
- 【10】: レーマンとブレヒト 1
- 【11】: レーマンとブレヒト 2
- 【12】: ブレヒト教育劇 1
- 【13】: ブレヒト教育劇 2
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(ハワホ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS にアップした教材の事前学習 2 時間、復習 2 時間。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

Canvas LMS にアップする。

参考文献 / Readings

映像身体学特殊研究4

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 4

宮本 裕子(MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP354
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

映像に関する理論的な文章を自身で読み解けるようになる。映像に関する理論的な理解、とりわけ「クィア・シネマ」という考え方への理解を深める。

In this course, students will learn to independently analyze theoretical texts on moving images. Students will also deepen their theoretical understanding of moving images, particularly in "queer cinema" as a theoretical frame work.

授業の内容 / Course Contents

同性愛やトランスジェンダーのあからさまな表象がハリウッドで禁止されていた時代、当事者は、異性愛が描かれた映画の中に「クィア」なものを読む実践を行ってきた。その後、性的マイノリティの蔑称であった「クィア」の語を冠した「クィア・シネマ」は、ゲイ解放運動と HIV/AIDS パンデミックを背景に、当事者による当事者の表象として出現した。この授業では、「クィア」と映画の関係とその歴史を、文献講読を通じて学ぶ。

During the era when explicit representations of homosexuality and transgender identities were prohibited in Hollywood, individuals engaged in the practice of "queer reading" within films that depicted heterosexuality. The term "queer cinema," which originally derived from a discriminatory term for sexual minorities, later emerged as a form of representation created by and for the queer community, shaped by the context of the gay liberation movement and the HIV/AIDS pandemic. This course explores the relationship between "queer" and cinema, as well as its historical development, through the reading and analysis of relevant texts and films.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読
- 【3】: 文献講読
- 【4】: 文献講読
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読
- 【8】: 文献講読
- 【9】: 文献講読
- 【10】: 文献講読
- 【11】: 文献講読
- 【12】: 文献講読
- 【13】: 学生発表
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習、授業の復習、発表準備、課題映像の視聴など。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

映像身体学特殊研究5

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 5

『老子』を読む

加藤 千恵 (KATO CHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP355
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

『老子』の代表的な章を講読し、理解を深める。

Students read and promote their understanding of the representative chapters from Tao Te Ching.

授業の内容 / Course Contents

『老子』は、著者も成立年代もはっきりしない、たった五千字という短い文章なのに、中国古典のなかで最も多くの注釈書が作られてきた名著であり、戦術家、為政者、庶民、不死を目指す者、だれが覗いても、その人に応じて進むべき道を映し出してくれる鏡のようなところのある、じつに不思議な書である。この『老子』のなかから代表的な章を選んで講読し、「水のごとく、「雌」のごとく、「嬰兒」のごとくあれ、というその内容から、中国人がいかに関心や歴史、そして身体をとらえようとしていたのかを、他の思想と比較しながら考察する。

授業は担当者の報告と全員の意見交換によって進めてゆく。担当者は担当箇所を精読して、必要に応じて調べ、授業時に口頭で解説する。

Tao Te Ching is a text of only 5,000 characters, with its authorship and date of composition debated, but it is the most commented masterpiece of Chinese literature, a mysterious work that reflects, like a mirror, a path which any person, be it a warrior, a politician, a commoner, anyone aiming to achieve immortality, should follow. Students read the representative chapters from Tao Te Ching, and learn how Chinese people perceived the world, history and body through the contents of "like water, like females, like babies", while also comparing it to other ideas.

The class consists of the report from the person in charge of the day and whole class exchange opinions. The person in charge carefully reads their part, does research if needed, and gives an oral explanation in class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 『老子』講読 道とは
- 【3】: 『老子』講読 最高の善は水のように
- 【4】: 『老子』講読 玄牝一根源のメス
- 【5】: 『老子』講読 無用の用
- 【6】: 『老子』講読 嬰兒への復帰
- 【7】: 『老子』講読 美や善は絶対か
- 【8】: 『老子』講読 学を絶てば憂い無し
- 【9】: 『老子』講読 無為の政治
- 【10】: 『老子』講読 大器晩成
- 【11】: 『老子』講読 理想郷とは
- 【12】: 『老子』講読 足るを知る

【13】:『老子』講読 柔弱は剛強に勝つ

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回指定した章を精読してくる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容および授業参加への積極的な態度:70% 授業最終日に提出する小レポート:30%

テキスト / Textbooks

金谷治 『老子』 講談社 1997 4061592785

参考文献 / Readings

初回に紹介する。

映像身体学特殊研究6

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 6

写真の本質を紐解く

日高 優 (HIDAKA YU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP356
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、機械の知覚としての写真の原理を映像身体学の観点から理解すること、並びに、現代において写真を見ることの意義を再認することを目標とする。

The aim of this course is to enable students to develop an understanding of the principles of photography as a form of mechanical perception from the perspective of body expression and cinematic arts and reengage with the meaning behind viewing photographs in the contemporary world.

授業の内容 / Course Contents

機械映像についての学びは、映像身体学科の学びの核のひとつを成す。まずは、映像身体学の基礎をおさえたいうえで、機械映像として人類史上、初めて出現した写真の原理を確認する。さらに写真術登場初期のインパクトを確認しつつ、写真の本質について明らかにしていく。その後は、文献講読と自由発表とで授業展開をする。本授業では、写真の本質についての的確な知識をもって考察を深めていけるよう、適宜ディスカッションをおこなうことに加えて、各自が撮影した写真の講評をおこなう機会を設ける。文献は、写真の本質を考察したことで知られる、ニューヨーク近代美術館の写真ディレクターを長らく務めたジョン・シャーカフスキーが企画した写真展「Photographers' Eye」(1966)のテキスト等を読む予定。

The study of mechanical images forms one of the core elements of learning in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. First, the course will cover the fundamentals of body expression and cinematic arts and subsequently examine the principles of photography, the first form of mechanical image that humanity developed. We will also study the impact of photographic techniques in the early stages of photography's development and clarify its essence. Students will subsequently read texts and give in-class presentations in a seminar format. In order for students to deepen their understanding of the essence of photography through the attainment of accurate knowledge, they will not only have opportunities to carry out discussions as necessary but also critique the photographs taken by their classmates. The literature for this course will include the text for The Photographer's Eye (1966), an exhibition organized by photography historian John Szarkowski, who was the director of photography at the Museum of Modern Art, New York for many years.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション——映像身体学における写真
- 【2】: 映像身体学の基礎と写真の原理
- 【3】: 映像身体学の基礎と写真の原理
- 【4】: 映像身体学の基礎と写真出現のインパクト
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読

- 【8】: 文献講読
- 【9】: 文献講読
- 【10】: 写真作品講評会
- 【11】: 自由発表
- 【12】: 自由発表
- 【13】: 自由発表
- 【14】: まとめ——写真を通して考える映像身体学の意義

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、履修登録完了後に授業内で、もしくは「CanvasLMS」上で履修者に対して行う。指定されたテキストを事前・事後で熟読することや関連写真集、作品の鑑賞など、各回の予習・復習には各々2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:30% 口頭発表:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

映像身体学特殊研究7

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 7

江口 正登 (EGUCHI MASATO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP357
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

パフォーマンス研究の基礎的な概念や理論的枠組を理解する。

The goal of this course is to acquire an understanding of the basic concepts and theoretical frameworks of performance studies.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、パフォーマンス研究の基本文献を講読し、パフォーマンス研究の基礎的な概念や理論的枠組の理解を目指す。またサブテーマとして、パフォーマンスとデジタル技術の関係ということも意識しながら進める。

毎回の授業では、担当者が講読範囲をレジュメにまとめて発表し、必要に応じて教員が補足を行った上で、クラス全体で議論を行う。後半の授業では、前半の授業内容も踏まえた上で、受講者各自の関心に基づいての自由発表も行う。講読文献に関しては、リチャード・シェクナーやヴィクター・ターナー、アーヴィング・ゴフマンらのものを予定しているが、受講者の関心も考慮して決定する。

In this course, we will explore foundational texts in performance studies, aiming to understand the basic concepts and theoretical frameworks of the field. We will also address the relationship between performance and digital technology as a sub-theme.

In each session, one or more designated students will present a summary of the assigned readings, followed by additional information from the instructor as needed, and a class-wide discussion. In the second half of the course, students will deliver presentations based on their own interests, building on the content covered in the first half. Readings will include works by Richard Schechner, Victor Turner, Erving Goffman, and others. However, the final selection of texts will also reflect the specific interests of the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 文献講読
- 【3】: 文献講読
- 【4】: 文献講読
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読
- 【8】: 文献講読
- 【9】: 文献講読
- 【10】: 自由発表
- 【11】: 自由発表
- 【12】: 自由発表

【13】: 自由発表

【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献を読んでき(映像などを見てくる)こと、発表の準備、関連事項の調査。また上演や展示の観覧を課すこともあります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% 授業への取り組み:30% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

プリントもしくはPDFによる資料を配布します。

参考文献 / Readings

高橋雄一郎、鈴木健編 パフォーマンス研究のキーワード:批判的カルチュラル・スタディーズ入門 世界思想社 2011 9784790715085

Richard Schechner Performance Studies: An Introduction Routledge 2020 9781138284562

Kelina Gotman (ed.) Theories of Performance: Critical and Primary Sources Bloomsbury 2022 9781350118096

Michael Mangan The Drama, Theatre and Performance Companion Palgrave Macmillan 2013 9780230551657

ほか、授業時に適宜紹介します。

その他 / Others

授業計画は大まかな予定。受講者の人数や関心も考慮して調整する可能性があります。

制作志望の学生の参加も大いに歓迎します。

映像身体学特殊演習2

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 2

スタンリー・カヴェルの映画論

滝浪 佑紀 (TAKINAMI YUKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP362
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

2024 年度秋学期は映画の本質について十分に論じた哲学者スタンリー・カヴェルの著作を映画やメディアという論点に注目して論じたが、この授業では、カヴェルの哲学をとりわけ映画に注目して考える。映画やメディアにかんして重要な思索をおこなったカヴェルの著作をつうじて、映画の経験について考えることがこの授業の目的である。

Continuing to the seminar in 2024 Autumn on philosopher Stanley Cavell on cinema and media, this course will examine Cavell's works, focusing on cinema. Through the works by Cavell, the important thought on cinema and media, this course will try to consider the experience of media.

授業の内容 / Course Contents

イントロダクションののち、The World Viewed, Pursuits of Happiness, Cavell on Film を中心とした映画作品論を読解する。さらに Cavell について他の研究者が書いた論文も読む。

After an introduction to the works of Cavell, we will consider some chapters from The World Viewed, Pursuits of Happiness, and Cavell on Film. The course will also consider some articles on Cavell by other scholars.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読 1
- 【3】: 文献講読 2
- 【4】: 文献講読 3
- 【5】: 文献講読 4
- 【6】: 文献講読 5
- 【7】: 文献講読 6
- 【8】: 文献講読 7
- 【9】: 文献講読 8
- 【10】: 文献講読 9
- 【11】: 文献講読 10
- 【12】: 文献講読 11
- 【13】: 文献講読 12
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
----	-----------------------	---------------	--------------------------	---------------	--------------------------

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として授業内で提示された文献をあらかじめ読解すること(各回2時間)。復習として授業内での文献講読を踏まえ、提示された参考資料などをもとに、文献に関する理解をさらに深めること(各回2時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:40% 授業への取り組み:20% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

映像身体学特殊演習3

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 3

ジジエク以後の現代思想をマッピングする Mapping the Contemporary Thought after Zizek

田崎 英明 (TAZAKI HIDEAKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP363
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1990 年代以降の現代思想の流れを理解し、自分の研究をその中に位置づけられるようになる。

Through the mapping the contemporary thought since 1990's, successfully finished this course, you'll be able to elucidate the context of your research program.

授業の内容 / Course Contents

90 年代以降の現代思想の流れを当時の社会情勢の中に位置づけ、理解していく。教員の講義と参加者の議論によって進める。

Through the lectures given by the teacher and discussions by the participants, the relationship between political conjuncture and theories will be understood.

授業計画 / Course Schedule

【1】:80 年代から 90 年代へ ジジエク登場の背景

ソ連および東欧社会主義諸国の解体→冷戦の終わり→湾岸戦争

90 年代の「民族」紛争

インターナショナルイズムの衰退

「人道的介入」という危機

【2】:さまざまな体制転換と移行正義の問題

【3】:アーレント復興とラディカル・デモクラシー

生産様式/社会編成体か言説編成体か エルネスト・ラクラウ

【4】:構築主義?

本質主義をめぐって

スピヴァックとバトラー

【5】:スピヴァックとバトラー(続き)

【6】:歴史修正主義 revisionism/否定主義 négationisme の問題

ランシエール

【7】:歴史修正主義 revisionism/否定主義 négationisme の問題

ランシエール

(続き)

【8】:実在論復興

アラン・バディウと思弁的実在論

【9】:実在論復興

アラン・バディウと思弁的実在論

(続き)

【10】:ジェンダー論とセクシュアリティ論 フェミニズムとクィア理論

【11】:ジェンダー論とセクシュアリティ論 フェミニズムとクィア理論

(続き)

【12】:ジェンダー/セクシュアリティに関する「バックラッシュ」と気候危機の否認

今日におけるファシズムをどう捉えるべきか

ウィリアム・コノリー、エンツォ・トラヴェルソ、アルベルト・トスカーノ

【13】:ジェンダー/セクシュアリティに関する「バックラッシュ」と気候危機の否認

今日におけるファシズムをどう捉えるべきか

ウィリアム・コノリー、エンツォ・トラヴェルソ、アルベルト・トスカーノ

(続き)

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教材の事前学習 2 時間、復習 2 時間。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回のリアクション・ペーパー:50% 授業への取り組み:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

映像身体学特殊演習4

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 4

宮本 裕子(MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP364
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

映像に関する理論的な文章を自身で読み解けるようになる。映像に関する理論的な理解、とりわけアニメーションという視聴覚-文化的な形態への理論的な理解を深める。

In this course, students will learn to independently analyze theoretical texts on moving images. Students will also deepen their theoretical understanding of moving images, particularly in animation as a form of audiovisual-culture.

授業の内容 / Course Contents

今日、「アニメーション」は、非「実写」映像一般を指す傾向にあるが、この語自体は、特定の映像芸術とその評価の歴史の中で、今日的な意味として一般化したものである。この授業では、文献を講読を通して、「実写」映像の対となる映像領域と考えられてきた歴史と、その領域的な区分が曖昧になっている現状の双方から、「アニメーション」を検討する。同時に、人種やジェンダー、セクシュアリティ、身体的逸脱といった問題を含む、社会・文化的、政治的な焦点からアニメーションを分析する方法についても検討する。

Today, "animation" tends to refer broadly to non-"live-action" moving images. However, the term itself has been historically shaped and generalized within the context of specific cinematic arts and their critical reception. Through readings and discussions, this course examines "animation" both its historical context as a counterpart to "live-action" film and the current blurring of this distinction. Additionally, the course explores approaches to analyzing animation through social, cultural, and political lenses, including issues of race, gender, sexuality, and bodily deviation.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読
- 【3】: 文献講読
- 【4】: 文献講読
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読
- 【8】: 文献講読
- 【9】: 文献講読
- 【10】: 文献講読
- 【11】: 文献講読
- 【12】: 文献講読
- 【13】: 学生発表
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®] 等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習、授業の復習、発表準備、課題映像の視聴など。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

映像身体学特殊演習5

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 5

古代中国医学にみる生命と身体

嵯峨野 智夏 (SAGANO TOMOKA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP365
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

古代中国の医学文献の中で、生命現象がどのように表現されたか、それらが伝統的な身体観にどのような影響を与えたか、史料にもとづき理解を深める。

The course will deepen understanding of how life phenomena were expressed in ancient Chinese medical literature and how they influenced the traditional view of the body, based on historical materials.

授業の内容 / Course Contents

中国医学経典『黄帝内経 素問・靈枢』を選読し、現代語訳・解説文の作成を通してテキストを理解する。授業の進行は、原文・書き下し文・用語を講師が解説し、各篇の担当者が現代語訳と内容の解説を授業時に発表する形式を主とする。また、伝統医学理論と伝統的な身体観との関わりについて、史料や現代の文献を読み、ディスカッションを通して考察を深め、解説文の作成に反映させる。

Students will read selected passages of the Chinese medical scripture “Huangdi Neijing” and compose modern translations and commentaries in order to understand the text. The lecturer will provide commentary on the original texts, transcriptions, and terminology, and the person in charge of each section will present a modern translation and commentary of the contents in class. In addition, the relationship between traditional medical theory and traditional views of the body will be examined through reading and discussion of historical and contemporary literature and reflected in the preparation of the commentary.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション・『黄帝内経』書誌解説・参考文献紹介
- 【2】:生命はどのように生じるか 一『靈枢』本神①
- 【3】:生命はどのように生じるか 一『靈枢』本神②
- 【4】:はたらく五臓六腑 一『素問』靈蘭秘典論①
- 【5】:はたらく五臓六腑 一『素問』靈蘭秘典論②
- 【6】:中間発表・フィードバック
- 【7】:脈動する身体 一『靈枢』營衛生会①
- 【8】:脈動する身体 一『靈枢』營衛生会②
- 【9】:命の有限性 一『素問』上古天真論①
- 【10】:命の有限性 一『素問』上古天真論②
- 【11】:中間発表・フィードバック
- 【12】:完成発表・総合討論
- 【13】:完成発表・総合討論
- 【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配布プリントの予習・復習、ディスカッション準備(各回1時間程度)。

発表課題作成(15時間程度)。

参考文献・授業時に紹介する文献を読む(30時間程度)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:50% 発表課題:50%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

金谷治 『中国思想を考える』 中央公論新社 1993 4121011201

坂井建雄 『図説 医学の歴史』 医学書院 2019 9784260034364

小曾戸洋 『新版 漢方の歴史』 大修館書店 2014 9784469233162

石田秀実 『中国医学思想史』 東京大学出版会 1992 4130130374

山田慶兒 『中国医学はいかにつづられたか』 岩波書店 1999 4004305993

映像身体学特殊演習6

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 6

写真の本質への理解を深める

日高 優 (HIDAKA YU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP366
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、写真分野におけるいくつかの必読文献を読み、学生が写真映像への理解を深めるのを促す。この授業では、とりわけ機械の知覚としての写真の多彩な表現を映像身体学の観点から理解すること、並びに、現代において写真をみることの意義を再認することを目標とする。

In this course, students will read several essential texts on photography to deepen the understanding of photographic images. The primary focus is on understanding the myriad forms of expression in photography as a means of mechanical perception from the standpoint of body expression and cinematic arts and reengaging with the meaning of viewing photographs in the contemporary world.

授業の内容 / Course Contents

機械映像についての学びは、映像身体学専攻の学びの核のひとつを成す。まずは、映像身体学の基礎をおさえたうえで関連文献を読み、さらに写真映像を分析することによって写真の本質への理解を深める。関連文献では、写真の本質を探究した写真のパイオニアたちや新鋭たち、アルフレッド・スティーグリッツやアレック・ソスらの写真家や現代アーティストが書いたものなどをとりあげる予定。言葉により写真へアプローチすることを学ぶ方法を獲得するのに資するために、本授業の後半では、学生各人が写真集及び作品を選んで批評し、プレゼンテーションする実践的訓練をおこなう。

The study of mechanical images forms one of the core elements in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. After first studying the foundation of body expression and cinematic arts and reading related texts, students will deepen their understanding of the essence of photography through an analysis of photographic images. The course will focus on texts by photography pioneers who explored the essence of photography as well as young and talented photographers, including works by Alfred Stieglitz, Alec Soth, and contemporary artists. Furthermore, to ensure that students hone methods of learning approaches to photography through words, the course will have the students select and critique a collection of photographs or a photographic work and present their assessments in the second half of the class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション——映像身体学と写真
- 【2】: 文献講読
- 【3】: 文献講読
- 【4】: 文献講読
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読
- 【8】: 写真作品批評の方法を学ぶ1

- 【9】: 写真作品批評の方法を学ぶ2
- 【10】: 学生によるプレゼンテーション
- 【11】: 学生によるプレゼンテーション
- 【12】: 学生によるプレゼンテーション
- 【13】: 学生によるプレゼンテーション
- 【14】: まとめ——写真という対象に向かって書くということ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、履修登録完了後に授業内で、もしくは「CanvasLMS」上で履修者に対して行う。指定されたテキストを事前・事後で熟読することや関連写真集、作品の鑑賞など、各回の予習・復習には各々2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:30% 口頭発表:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

身体論ワークショップ1

Workshop on Embodied Art 1

砂連尾 理 (JAREO OSAMU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP401
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ダンスを含む様々なジャンルのアート表現だけでなく政治・文化など、社会全般の流れを意識しながら、今日の舞台に於ける表現及びダンスの可能性について考察する。また特別な訓練を経た特権的な身体表現としてだけでなく、ヒエラルキーを排した身体によって開かれていくダンスや表現の可能性を模索しながら、いわゆるデモクラシーの身体によっても再現可能なシステム、コレオグラフについて研究する。

We will think not only about the various genres of artistic expression such as dance, but will also be conscious of politics, culture, and the entire current of society as we consider possibilities for contemporary theatrical expression and dance. We will not limit ourselves to expression that is possible only through exceptionally trained “privileged” bodies. Rather, we will seek possibilities for dance and other types of expression that become possible when the body is freed from hierarchical limitations, and as we do so, we will research reproducible systems and choreographers that are possible as a result of what is called democracy.

授業の内容 / Course Contents

授業の前半は西洋のダンスコンテクスト、主にポストモダンダンス以降の研究と身体訓練を往復しながら身体表現を探る。毎回テーマに沿ったクリエーションをグループワーク中心に行い、そこで生まれた表現についてディスカッションとリクリエーションを重ね、ダンスとは何か、そしてダンスはいつ生まれるのかについて考察を深める。後半は前半の授業から見えてきたテーマ、コンセプトをもとに作品制作を進める。尚、授業計画は授業を進めていく中で授業内容や発表形態が変更されることがある。

We will investigate physical expression both through dance exercises as well as through research into the Western dance context, especially that of post-modern dance. During each class, students will work mainly in groups on a creation with an assigned theme. They will then discuss the resulting expressions, recreate them repeatedly, and consider deeply what dance is and when it comes into existence. During the second half of the class, students will work on an actual production based on the theme and concepts fleshed out during the first half. Moreover, as the class progresses, changes may be made to the class contents and presentation format.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ポストモダンダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
- 【2】: ポストモダンダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
- 【3】: コンテンポラリーダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
- 【4】: コンテンポラリーダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
- 【5】: ノンダンス、コンセプチュアルなダンスを研究、コミュニティーダンス、武道、民俗芸能、老いの身体について考察する。
- 【6】: 発表に向けたテーマ設定、コンセプトをディスカッションする。
- 【7】: 発表に向けたテーマ設定、コンセプトをディスカッション及びリサーチ。

- 【8】: 発表に向けた制作。
- 【9】: 発表に向けた制作。
- 【10】: 発表に向けた制作。
- 【11】: 発表に向けたワーク・イン・プロGRESS。
- 【12】: 発表に向けた制作。
- 【13】: 発表に向けた制作。
- 【14】: 上演及び合評。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自主的に身体トレーニングに取り組んでもらいたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:70% 成果発表:30%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

その他 / Others

HP: <https://www.jareo-osamu.com/>

身体論ワークショップ2

Workshop on Embodied Art 2

砂連尾 理 (JAREO OSAMU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP402
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

政治、文化など、社会全般の出来事と身体がどのように関わっているのかをダンス・身体表現、映像表現から考察していく。それと並行して、様々な身体技法、また作品制作を通して身体で思考するとはどういうことなのかを身体を動かしながら考え、その可能性について研究する。

This course will examine how the body relates to events taking place in society, including politics and culture, from the standpoint of dance, body expression, and cinematic expression. As they engage with these inquiries, students will carry out research by creating a work that involves moving their bodies to understand what thinking through the body signifies and the possibilities that it entails.

授業の内容 / Course Contents

モダンダンス、ヨガ、気功、合気道など東西の様々な身体技法から簡単に行えるトレーニングを毎回行い、身体への眼差し、その感性を高める。主にポストモダンダンス以降の作品を映像などで研究しながら、コレオグラフィの多様さについて学ぶ。最終的にはそれぞれの研究テーマを身体表現、或いはワークショップという形態で発表。

尚、授業計画は授業を進めていく中で変更されることがある。

Students will heighten their sensitivity and awareness of their bodies in each class through simple exercises that involve a variety of body movements from both the East and West, including modern dance, yoga, chi kung, and aikido.

Students will conduct research by engaging with videos and other works, mainly from the period since the emergence of post-modern dance, and study the diversity of choreography. At the end of the course, each student will present their research theme through the form of body expression or a workshop.

Please note that class plans are subject to change during the course.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ポストモダンダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
- 【2】: ポストモダンダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
- 【3】: コンテンポラリーダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
- 【4】: コンテンポラリーダンスの作家からダンスの方法論を研究する。
- 【5】: ノンダンス、コンセプチュアルなダンスを研究、コミュニティーダンス、武道、民俗芸能、老いの身体について考察する。
- 【6】: 発表に向けたテーマ設定、コンセプトをディスカッションする。
- 【7】: 発表に向けたテーマ設定、コンセプトをディスカッション及びリサーチ。
- 【8】: 発表に向けた制作。
- 【9】: 発表に向けた制作。
- 【10】: 発表に向けた制作。
- 【11】: 発表に向けたワーク・イン・プロGRESS。

【12】: 発表に向けた制作。

【13】: 発表に向けた制作。

【14】: 上演及び合評。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

舞台、展覧会、映画には可能な限り足を運び、様々なアート作品に触れ、表現研究をしてもらいたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業時の積極性:50% 発表に至る取り組み及び内容:50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

その他 / Others

HP: <https://www.jareo-osamu.com/>

身体論ワークショップ3

Workshop on Embodied Art 3

羽鳥 嘉郎 (HATORI YOSHIRO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP403
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

発話や身体のバリエーションを生み出すインストラクションを制作する。

We will create instructions that bring about variations in vocal and physical expression.

授業の内容 / Course Contents

演技メソッドや戯曲のト書き、または習慣に従った振る舞いにとどまらない、特定の質をもった言動を生成するためのインストラクション(指示)を制作する。インストラクションに従う者・それを鑑賞する者に、認知の変容あるいは更新をうながすことを旨とし、芸術表現としてのジャンル(パフォーマンス/演劇/ダンス)に限定されないアプローチを学ぶ。サウンドスケープの課題集や舞踏譜も適宜参照する。2023 年度は黒沢清「CURE」シナリオを上記の観点から検討した。

We will produce instructions (directions) that lead to the creation of sounds and behavior with specific qualities that are not limited to customary behavior, a performance method, or theatrical direction. Students will learn an approach that is not limited to genres of artistic expression (performance / drama / dance) by creating instructions that stimulate transformation or renewal of awareness in those who follow them as well as in observers. Students may freely refer to soundscape collections and existing choreography.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: ワークショップ 1
- 【3】: ワークショップ 2
- 【4】: ワークショップ 3
- 【5】: ワークショップ 4
- 【6】: リハーサル 1
- 【7】: リハーサル 2
- 【8】: リハーサル 3
- 【9】: リハーサル 4
- 【10】: リハーサル 5
- 【11】: リハーサル 6
- 【12】: リハーサル 7
- 【13】: 発表
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	----------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時の取り組み:50% 課題発表:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Hans Ulrich Obrist Do It: The Compendium Independent Curators 2013

R.マリー・シェーフアー サウンド・エデュケーション 春秋社 1998

大野一雄 大野一雄舞踏譜—御殿、空を飛ぶ。思潮社 1998

身体論ワークショップ4

Workshop on Embodied Art 4

羽鳥 嘉郎 (HATORI YOSHIRO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP404
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

発話や身体のバリエーションを生み出すインストラクションを制作する。

We will create instructions that bring about variations in vocal and physical expression.

授業の内容 / Course Contents

演技メソッドや戯曲のト書き、または習慣に従った振る舞いにとどまらない、特定の質をもった言動を生成するためのインストラクション(指示)を制作する。インストラクションに従う者・それを鑑賞する者に、認知の変容あるいは更新をうながすことを旨とするが、特定の芸術ジャンルに落とし込む方法(そしてその際に伴うべき批評性)についても議論し実践する。サウンドスケープの課題集や舞踏譜も適宜参照する。2023年度は黒沢清「CURE」シナリオを上記の観点から検討した。

We will produce instructions (directions) that lead to the creation of sounds and behavior with specific qualities that are not limited to customary behavior, a performance method, or theatrical direction. While still aiming to stimulate transformation or renewal of awareness in the those who follow the instructions or observe, students will discuss how to translate the instructions into a particular artistic genre (and how to critique it) and then practice doing so. Students may freely refer to soundscape collections and existing choreography.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: ワークショップ 1
- 【3】: ワークショップ 2
- 【4】: ワークショップ 3
- 【5】: ワークショップ 4
- 【6】: リハーサル 1
- 【7】: リハーサル 2
- 【8】: リハーサル 3
- 【9】: リハーサル 4
- 【10】: リハーサル 5
- 【11】: リハーサル 6
- 【12】: リハーサル 7
- 【13】: 発表
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	----------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時の取り組み:50% 課題発表:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Hans Ulrich Obrist Do It: The Compendium Independent Curators 2013

R.マリー・シェーフアー サウンド・エデュケーション 春秋社 1998

大野一雄 大野一雄舞踏譜—御殿、空を飛ぶ。思潮社 1998

身体論ワークショップ5

Workshop on Embodied Art 5

松田 正隆 (MATSUDA MASATAKA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP405
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

空間と時間の観点から演劇の身体のことを考える。

The purpose of this course is to think about theater according to the theme of space and time.

授業の内容 / Course Contents

場所と時間をテーマに、演劇の上演作品を作ること。

The purpose of this course is for students to create theater performances with the themes of place and time.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 戯曲の選定。
- 【2】: 戯曲を読む。
- 【3】: リハーサル。
- 【4】: リハーサル。
- 【5】: リハーサル。
- 【6】: リハーサル。
- 【7】: リハーサル。
- 【8】: リハーサル。
- 【9】: リハーサル。
- 【10】: リハーサル。
- 【11】: リハーサル。
- 【12】: リハーサル。
- 【13】: 上演。
- 【14】: 合評。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="checkbox"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

別途、授業時に提示するが、授業時以外にもリハーサルが必要となる場合がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時の取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

身体論ワークショップ6

Workshop on Embodied Art 6

松田 正隆 (MATSUDA MASATAKA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP406
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

空間と時間の観点から演劇の身体のことを考える。

The purpose of this course is to think about theater according to the theme of space and time.

授業の内容 / Course Contents

受講者が演出をして、場所と時間をテーマにして演劇の作品を創作すること。

The purpose of this course is for students to create and direct theatrical works on the themes of place and time.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:話し合い。上演作品の主題の検討。
- 【2】:リハーサル。
- 【3】:リハーサル。
- 【4】:リハーサル。
- 【5】:リハーサル。
- 【6】:リハーサル。
- 【7】:リハーサル。
- 【8】:リハーサル。
- 【9】:リハーサル。
- 【10】:リハーサル。
- 【11】:リハーサル。
- 【12】:リハーサル。
- 【13】:上演。
- 【14】:合評。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に指示する。上演に際しては授業時以外にもリハーサルが必要となる場合がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時の取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

映像論ワークショップ1

Workshop on Video and Cinema 1

映像制作研究

樋本 淳 (HIMOTO JUN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP421
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5120
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

完成・上映を目的とした映像作品を制作しながら、その制作過程を理解することを目的とします。

「映像論ワークショップ1」では、特にプリプロダクションの方法論を研究します。

The aim of this workshop is to have each student create, complete, and screen a moving-image work for the understanding of its production process. Workshop Video and Cinema 1 will focus on some pre-production methodologies.

授業の内容 / Course Contents

劇映画、ドキュメンタリー、アートや音楽とのコラボレーション等、個々の学生が制作したい映像作品に合わせて、参考となる文献・映像作品等を提示しながら研究。

不特定多数への公開を前提として、特にプリプロダクション(企画・構想・シナリオ・ロケハン等)に重点を置いて、映像作品の制作を行います。

Each student will receive relevant reference materials on literature and moving-image works to carry out their research in accordance with the moving-image works they wish to create, be it a fictional film, documentary, or collaboration with art and music.

Particularly focusing on the pre-production processes (such as planning, making a scheme, screenwriting, and location scouting), students will create a moving-image work under the premise that it will be shown to the general public.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: プリプロダクション
- 【3】: プリプロダクション
- 【4】: プリプロダクション
- 【5】: プリプロダクション
- 【6】: プリプロダクション
- 【7】: プリプロダクション
- 【8】: プリプロダクション
- 【9】: プリプロダクション
- 【10】: プリプロダクション
- 【11】: プリプロダクション
- 【12】: プリプロダクション
- 【13】: プリプロダクション
- 【14】: プリプロダクション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に臨む姿勢:100%

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

映像作品も含め、適宜、紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

講師との対話、学生同士の共同作業等が重要な要素となるため、対面での授業参加が必須条件となります。

映像論ワークショップ2

Workshop on Video and Cinema 2

映像制作研究

樋本 淳 (HIMOTO JUN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP422
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5120
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

完成・上映を目的とした映像作品を制作しながら、その制作過程を理解することを目的とします。

「映像論ワークショップ2」では、特に撮影とポストプロダクションの方法論を研究します。

The aim of this workshop is to have each student create, complete, and screen a moving-image work for the understanding of its production process. Workshop Video and Cinema 2 will focus on some filming and post-production methodologies.

授業の内容 / Course Contents

劇映画、ドキュメンタリー、アートや音楽とのコラボレーション等、個々の学生が制作したい映像作品に合わせて、参考となる文献・映像作品等を提示しながら研究。

不特定多数への公開を前提として、特に撮影とポストプロダクション(編集・音響・ミックスダウン等)に重点を置いて、映像作品の制作を行います。

Each student will receive relevant reference materials on literature and moving-image works to carry out their research in accordance with the moving-image works they wish to create, be it a fictional film, documentary, or collaboration with art and music.

Particularly focusing on the filming and post-production processes (such as editing, adding a soundtrack, and mixing down), students will create a moving-image work under the premise that it will be shown to the general public.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 撮影 / ポストプロダクション
- 【2】: 撮影 / ポストプロダクション
- 【3】: 撮影 / ポストプロダクション
- 【4】: 撮影 / ポストプロダクション
- 【5】: 撮影 / ポストプロダクション
- 【6】: 撮影 / ポストプロダクション
- 【7】: 撮影 / ポストプロダクション
- 【8】: 撮影 / ポストプロダクション
- 【9】: 撮影 / ポストプロダクション
- 【10】: 撮影 / ポストプロダクション
- 【11】: 撮影 / ポストプロダクション
- 【12】: 撮影 / ポストプロダクション
- 【13】: 撮影 / ポストプロダクション
- 【14】: 試写 / 講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に臨む姿勢:100%

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

映像作品も含め、適宜、紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

講師との対話、学生同士の共同作業等が重要な要素となるため、対面での授業参加が必須条件となります。

映像論ワークショップ3

Workshop on Video and Cinema 3

映画演出/撮影/脚本

壺井 濯(TSUBOI TAKU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP423
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5120
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修了制作(長編映画)に向けての実践的アプローチ1

Practical approach to graduation project (feature film) 1.

授業の内容 / Course Contents

「俳優の動線」「台詞を言って貰うということ」「フレーミング(カメラをどこに置くか)」「カット割り(なぜカットを割るのか、あるいは割らないのか)」等の演出の基本に立ち返りつつ、短い映像作品を何本か作り、来るべき長編映画撮影に向けての力を養う。作品のテーマは「愛」「祈り」「思い」「物語」等。シナリオはこちらで用意するが、学生が書いて来ても勿論良い。While going back to the basics of directing such as "actor movement", "getting the actors to say the lines", "framing (where to place the camera)", and "cutting (why to cut or not to cut)", students will create several short video works and develop their skills for the upcoming feature film shoot. Themes of the films will be "love", "prayer", "thoughts", "stories", etc. We will prepare the script, but students are welcome to write their own.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:ワークショップ①
- 【2】:ワークショップ②
- 【3】:ワークショップ③
- 【4】:ワークショップ④
- 【5】:ワークショップ⑤
- 【6】:ワークショップ⑥
- 【7】:ワークショップ⑦
- 【8】:ワークショップ⑧
- 【9】:ワークショップ⑨
- 【10】:ワークショップ⑩
- 【11】:ワークショップ⑪
- 【12】:ワークショップ⑫
- 【13】:ワークショップ⑬
- 【14】:ワークショップ⑭

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="checkbox"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>

実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

映画を観る、本を読む

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

映像論ワークショップ4

Workshop on Video and Cinema 4

映画演出/撮影/脚本

壺井 濯(TSUBOI TAKU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP424
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5120
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修了制作(長編映画)に向けての実践的アプローチ2

Practical approach to graduation project (feature film) 2.

授業の内容 / Course Contents

「俳優の動線」「台詞を言って貰うということ」「フレーミング(カメラをどこに置くか)」「カット割り(なぜカットを割るのか、あるいは割らないのか)」等の演出の基礎の先 ---「それらがいかに俳優を自由にし得るか」について研究する。同時に、「映画的」であることに囚われ過ぎず自由に「物語を紡ぐ」ことについても思考を巡らせ、来たるべき長編映画撮影に活かせる様にする。長編映画のシナリオが既に完成しているのならそこから抜粋し模擬演出を行ったり、試しに撮影してみたりする。まだ完成していなければこちらで用意する。

Beyond the fundamentals of directing such as "actor's movement", "getting the actors to say the lines", "framing (where to place the camera)", and "cutting (why to cut or not to cut)", students will study "how such directing can free the actors". At the same time, students will think about "weaving a story" freely without being too caught up in being "cinematic", so that they can utilize this in their upcoming feature film shoot. If a script for a feature film has already been completed, excerpts from it will be taken and mock directed or test shot. If it is not yet completed, we will prepare one.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:ワークショップ①
- 【2】:ワークショップ②
- 【3】:ワークショップ③
- 【4】:ワークショップ④
- 【5】:ワークショップ⑤
- 【6】:ワークショップ⑥
- 【7】:ワークショップ⑦
- 【8】:ワークショップ⑧
- 【9】:ワークショップ⑨
- 【10】:ワークショップ⑩
- 【11】:ワークショップ⑪
- 【12】:ワークショップ⑫
- 【13】:ワークショップ⑬
- 【14】:ワークショップ⑭

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="checkbox"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="checkbox"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

映画を観る、本を読む

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

映像論ワークショップ5

Workshop on Video and Cinema 5
作品制作のための撮影照明技術

山田 達也 (YAMADA TATSUYA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP425
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5120
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

自らの作品制作のため実践的に撮影照明技術を習得する。

Learn practical photography and lighting techniques to create your own works.

授業の内容 / Course Contents

学科機材を使い更なる撮影技術、照明技術を習得し作品制作へつなげる。

その一環として過去の映画作品を題材に演出、撮影方法を分析し再現撮影などを行う。

また履修生との話し合いにより目標を設定し、それに見合う実技内容を展開する。

Students will learn further photographic and lighting techniques using the equipment provided by the school, which will lead to the creation of works of art.

As part of this effort, we will analyze the direction and filming methods of past movies and recreate them.

In addition, we set goals through discussion with students and develop practical skills that match those goals.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、イントロダクション
- 【2】: 企画
- 【3】: 企画
- 【4】: 撮影照明技術①/企画
- 【5】: 撮影照明技術②/企画
- 【6】: 撮影照明技術③/企画
- 【7】: 撮影照明技術④/企画
- 【8】: 撮影照明技術⑤/企画
- 【9】: 課題撮影①
- 【10】: 課題撮影②
- 【11】: 課題撮影③
- 【12】: 課題撮影④
- 【13】: 編集
- 【14】: 試写講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用
----	--	---------------	--	---------------

個人発表	
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	○

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

課題撮影は履修生と相談のうえ授業時間外で集中的に行う場合があります。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて適宜授業時に指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題制作への取り組み:50% 課題制作:50%

テキスト / Textbooks

授業時に必要に応じて配布します。

参考文献 / Readings

授業時に必要に応じて指示します。

映像機器・施設ワークショップ

Workshop for Operating Advanced Video Equipment
 映画音響実践 AVID ProTools 基礎

川口 陽一(KAWAGUCHI YOICHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP505
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像作品における音響に関する技術と知識、とりわけポスト・プロダクション(仕上げ)工程の技術と知識を習得することを目標とする。それに伴い、映像における音響について考えを深める。

In this class, students will acquire skills and knowledge related to sound in visual productions, especially those used in the post-production stage. With these, they will be able to enrich their ideas regarding sound in such productions.

授業の内容 / Course Contents

映像業界で最も使用されている音響システム AVID ProTools の使用を学ぶことが主たる内容である。

その前提となる適切な録音についても指導する。

受講生が制作している作品がある場合、その音響を実践的に仕上げていくことが望ましい。

適宜相談して授業内容を変更していく。

Most of the class will be devoted to learning about the most widely used sound system in the motion picture industry, AVID ProTools.

Guidance for obtaining adequate recordings will be provided as well, since this is a prerequisite for the above.

If a student is currently working on a production, it is advisable to work on and finish the sound for that production.

Guidance counseling will be provided freely, and class contents will be modified as necessary.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: 座学 イントロダクション 映画における音の「演出」について、映画の音を仕上げることについて
- [2]: 座学 ProTools の紹介
- [3]: 個別指導・ディスカッション
- [4]: 個別指導・ディスカッション
- [5]: 個別指導・ディスカッション
- [6]: 個別指導・ディスカッション
- [7]: 個別指導・ディスカッション
- [8]: 個別指導・ディスカッション
- [9]: 個別指導・ディスカッション
- [10]: 個別指導・ディスカッション
- [11]: 個別指導・ディスカッション
- [12]: 個別指導・ディスカッション
- [13]: 個別指導・ディスカッション
- [14]: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間内で学べることは極めて少ない。ほぼ毎回課題を出すことになる。

授業は、やって来た課題を指導することが前提となる。課題をやらない場合授業が成立しないので必ずやってくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席及び及び授業への取り組み、課題・レポート:100%

テキスト / Textbooks

必要に応じて、適宜配布、または指示する。

参考文献 / Readings**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

基本的な Mac の操作ができることが望ましい。

具体的に取り組んでいる作品があることが望ましい。

アート・マネジメント論演習

Advanced Seminar on Arts Management

アートとは何かを問い続ける

中村 佑子 (NAKAMURA YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	UP506
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC5320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

アートとは何か。世界を刷新する可能性をも含む、アートの力をまずは原理的に理解する。その上で、アートの力を損なうことなく発出させ、人や時間など複雑な関係性のなかで、アートプロジェクトを操縦する(マネージメント)技術の習熟を目指します。

What is art? The aim of this course is to fundamentally understand the possibilities of art. Based on this knowledge, students will explore how to emanate art without losing any of its power and also explore management skills for connecting art to society.

授業の内容 / Course Contents

アートとは社会の役に立つものと考えられるときがありますが、本当にそうでしょうか。アートとはこの世界を刷新する可能性を秘めた、空恐ろしい、ときに危険なものでもあると私は考えます。だからこそ圧倒的な力で私たちに別の景色を見せ、世界や人間の安定をがらりと変えてしまう力を持つものです。ハイデガーに世界＝内＝存在という言葉がありますが、人間はこの世界の事物や関係性にもまれ、巻き込まれて生きています。しかし、人が長い時間をかけて作ってきたその居心地の良さは、転覆され、破られる可能性を常に秘めています。その可能性の一つにアートがあるでしょう。そのアートを管理、統括し、マネージメントするというのは、自己矛盾ではないのか。アートと社会を真に接続させることなどできるのか。この自問自答こそアート・マネジメントの根幹であると私は考えます。本講義では、アートというものを原理的に捉え直し、深く理解した上で、アートがその力をいかに発出する「道」を作る技術について考えます。

Art is sometimes seen as something useful to society—but is this in fact true? I believe that art can be the source of vague, inexplicable fears, even a dangerous medium at times, with the possibility of completely changing the world. This is why art has such an overwhelming power to show us new landscapes and drastically transform the stability of the world and humanity.

People lead their lives being jostled and entangled with objects and relationships in the world, as Heidegger's notion of "being-in-the-world" suggests. However, the comfort that people have spent so long creating always contains the possibility of being overturned and broken. One possibility is through art. Could the administration, supervision, and management of art be self-contradictory? Is it really possible to truly connect art and society? I believe that this self-questioning is the core element of art management. This course will fundamentally reconsider art to help students develop a deeper understanding and will also examine the techniques for creating a path where art can emanate its power to the fullest.

授業計画 / Course Schedule

【1】:はじめに

【2】:レクチャーとディスカッション

【3】:レクチャーとディスカッション

- 【4】:レクチャーとディスカッション
- 【5】:参考作品の鑑賞と批評
- 【6】:レクチャーとディスカッション
- 【7】:レクチャーとディスカッション
- 【8】:レクチャーとディスカッション
- 【9】:レクチャーとディスカッション
- 【10】:参考作品の鑑賞と批評
- 【11】:レクチャーとディスカッション
- 【12】:レクチャーとディスカッション
- 【13】:レクチャーとディスカッション
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する参考文献の読解、リサーチなど毎回事前課題に取り組んでもらいます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:20% 授業への出席と積極性:60% レポート課題などへの取り組み:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

中村佑子 マザリング 現代の母なる場所 集英社 2020

中村佑子 わたしが誰かわからない ヤングケアラーを探す旅 医学書院 2023

研究指導

Tutorial Session

温 文(WEN WEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WW111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	PSY7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

院生各自が自身の興味、関心に基づき、研究テーマを設定する。教員の指導の下、そのテーマについて十二分なレビューをした上で、研究を実施して、国内外の学術誌に公刊していき、最終的に博士学位論文として研究成果をまとめられるようにする。

Each graduate student will set a research theme based on his/her own interests and concerns. Under the guidance of the instructor, the student will conduct an adequate review of the topic, conduct research, and publish the results in domestic and international journals, so that the research results can be finally compiled as a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

研究テーマの探索、研究テーマの検討・絞り込み、先行研究に関する検討、研究計画の立案、研究方法・分析方法についての検討などを、指導教員および副指導教員による個別指導で行う。学生は、研究成果を博士課程前期課程の正課である「現代心理学特殊研究」および、毎年2月に行われる年次報告会で研究の進捗について報告し、専攻教員全員が指導する。

Students are individually supervised by a supervisor and a sub-supervisor as they search for a research topic, review previous research, design their research and conduct their studies. Students report on the results of their research in Special Studies in Contemporary Psychology, a regular part of the Master's programme, and in the annual debriefing session in February. All members of the Department offer advice to students on how to progress their research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入授業
- 【2】: 研究テーマの検討1
- 【3】: 研究テーマの検討2
- 【4】: 研究テーマの検討3
- 【5】: 研究計画の立案1
- 【6】: 研究計画の立案2
- 【7】: 研究計画の立案3
- 【8】: 分析についての検討1
- 【9】: 分析についての検討2
- 【10】: 分析についての検討3
- 【11】: 考察の検討1
- 【12】: 考察の検討2
- 【13】: 考察の検討3
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集、研究の実施、論文の執筆は、授業時間外に行われる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 議論への参加:40%

年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と、学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに総合的な評価を行うものとする。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

研究指導

Tutorial Session

石黒 格 (ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WW112
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	PSY7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

院生各自が自身の興味、関心に基づき、研究テーマを設定する。教員の指導の下、そのテーマについて十二分なレビューをした上で、研究を実施して、国内外の学術誌に公刊していき、最終的に博士学位論文として研究成果をまとめられるようにする。

Each graduate student will set a research theme based on his/her own interests and concerns. Under the guidance of the instructor, the student will conduct an adequate review of the topic, conduct research, and publish the results in domestic and international journals, so that the research results can be finally compiled as a doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

研究テーマの探索、研究テーマの検討・絞り込み、先行研究に関する検討、研究計画の立案、研究方法・分析方法についての検討などを、指導教員および副指導教員による個別指導で行う。学生は、研究成果を博士課程前期課程の正課である「現代心理学特殊研究」および、毎年2月に行われる年次報告会で研究の進捗について報告し、専攻教員全員が指導する。

Students are individually supervised by a supervisor and a sub-supervisor as they search for a research topic, review previous research, design their research and conduct their studies. Students report on the results of their research in Special Studies in Contemporary Psychology, a regular part of the Master's programme, and in the annual debriefing session in February. All members of the Department offer advice to students on how to progress their research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入授業
- 【2】: 研究テーマの検討1
- 【3】: 研究テーマの検討2
- 【4】: 研究テーマの検討3
- 【5】: 研究計画の立案1
- 【6】: 研究計画の立案2
- 【7】: 研究計画の立案3
- 【8】: 分析についての検討1
- 【9】: 分析についての検討2
- 【10】: 分析についての検討3
- 【11】: 考察の検討1
- 【12】: 考察の検討2
- 【13】: 考察の検討3
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®])の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集、研究の実施、論文の執筆は、授業時間外に行われる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 議論への参加:40%

年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と、学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに総合的な評価を行うものとする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

知覚心理学特殊研究

Advanced Studies in Perceptual Psychology

氏家 悠太(UJIIE YUTA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WW201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7220
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

知覚心理学およびその関連領域(認知心理学, 実験心理学, 認知科学, 発達科学等)の最新の研究知見に触れ, 批判的にデータを検証する視点やプレゼンテーション・ディスカッション能力などのスキルを獲得することを目指す。さらに, ディスカッションのファシリテーターとしての役割を担い, 議論を深めることを学ぶ。

Through learning recent research in perceptual psychology and related fields (cognitive psychology, experimental psychology, cognitive science, developmental science, etc.), students develop their academic skills such as critical inspection of data, giving presentations, and persuasive discussion. Furthermore, students will acquire the ability to serve as discussion facilitators, contributing to the deepening of discussions within the class.

授業の内容 / Course Contents

知覚心理学およびその関連領域(認知心理学, 実験心理学, 認知科学, 発達科学等)に関する自身の研究内容について, 最新の知見と絡めてプレゼンテーション形式で発表を行う。そして, 履修者全員で研究内容の改善点や発展案について議論・討論を行う。これらを通じて, 研究成果が国内外の学会だけではなく国際査読誌で公表されるよう, 研究内容の深化を行う。

Each student will present their research and engage in discussions related to the latest findings in perceptual psychology and associated fields, such as cognitive psychology, experimental psychology, cognitive science, and developmental science. Following each presentation, all students will collectively discuss and debate the content, offering suggestions for improvements. Through these activities, students deepen their research and prepare for publishing their research findings at domestic and international conferences and in refereed international journals.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 研究発表・討論(1)
- 【3】: 研究発表・討論(2)
- 【4】: 研究発表・討論(3)
- 【5】: 研究発表・討論(4)
- 【6】: 研究発表・討論(5)
- 【7】: 研究発表・討論(6)
- 【8】: 研究発表・討論(7)
- 【9】: 研究発表・討論(8)
- 【10】: 研究発表・討論(9)
- 【11】: 研究発表・討論(10)
- 【12】: 研究発表・討論(11)
- 【13】: 研究発表・討論(12)

【14】:総括**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ガイダンス時に準備学習の内容について教示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:40% 出席と討論:30% ファシリテーターとしての役割:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

授業時に適宜紹介する。

認知心理学特殊研究

Advanced Studies in Cognitive Psychology

木原 健 (KIHARA KEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WW203
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7220
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

生理心理学および精神生理学的手法を用いた認知心理学の研究について、最近の研究内容を理解して検討を加える。さらに、プレゼンテーションやディスカッションを通して、研究者にとって不可欠な科学的表現力や批判的思考力を身につける。

This class will examine recent cognitive-psychological studies with physiological measurements. Furthermore, through presentations and discussions, participants will acquire scientific expression and critical thinking skills essential for researchers.

授業の内容 / Course Contents

脳波、脳血流、眼球運動などの生理計測を用いた認知心理学的研究に関する最近の専門書から、発表者は自らの興味に従って章を選択し、内容をまとめたスライドで発表する。発表された内容は受講者全員で検討する。

発表者は、当日までに発表用のスライドを準備する。発表者以外の受講生も、発表後に十分な討論ができるよう、事前に関連文献などを予習する。発表技法や研究技法に関しては、適宜指導する。

Based on their own interests, students choose a chapter in a recent book introducing cognitive-psychological studies with physiological measurements, such as electroencephalogram, brain blood flow, and eye movements, for presentation. Presented material then be discussed and debated by the whole class.

The presenter(s) prepare a slide for the presentation. Students who are not presenting are also expected to investigate relevant literature in advance and contribute to the discussion. Guidance regarding presentation and research techniques will be provided as necessary.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクションおよび発表内容の決定 / Introduction and determination of presentation contents
- 【2】: スライド発表と討論(1) / Slide presentation and discussion (1)
- 【3】: スライド発表と討論(2) / Slide presentation and discussion (2)
- 【4】: スライド発表と討論(3) / Slide presentation and discussion (3)
- 【5】: スライド発表と討論(4) / Slide presentation and discussion (4)
- 【6】: スライド発表と討論(5) / Slide presentation and discussion (5)
- 【7】: スライド発表と討論(6) / Slide presentation and discussion (6)
- 【8】: スライド発表と討論(7) / Slide presentation and discussion (7)
- 【9】: スライド発表と討論(8) / Slide presentation and discussion (8)
- 【10】: スライド発表と討論(9) / Slide presentation and discussion (9)
- 【11】: スライド発表と討論(10) / Slide presentation and discussion (10)
- 【12】: スライド発表と討論(11) / Slide presentation and discussion (11)
- 【13】: スライド発表と討論(12) / Slide presentation and discussion (12)

【14】: スライド発表と討論 (13) / Slide presentation and discussion (13)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習が必要な場合はその都度指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容と発表技量:50% 議論への参加と出席:50%

全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本生理心理学会(企画)堀忠雄・尾崎久記(監修)室橋春光・荻阪満里子(編集) 生理心理学と精神生理学 第三巻 展開 北大路書房 2018 9784762830198

社会心理学特殊研究

Advanced Studies in Social Psychology

石黒 格 (ISHIGURO ITARU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WW205
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生の研究関心に合わせた英字文献を講読し、各自の研究の推進に貢献する。同時に、他の参加者の研究計画に有用な情報とアイデアを提供することを通して、後進との指導的な関わりを身につける。

授業の内容 / Course Contents

学生が各自に自らの研究関心に沿った文献を提案し、講読する。一名が発表し、残りの学生は論文を事前に精読した上で、そこからどのような研究の発展がありうるかを議論する。

Each student will be asked to suggest literature in line with his or her own research interests. One student will present the summary of the literature, and the remaining students will discuss what future research might be possible from it, after having read the paper carefully.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 発表と議論
- 【3】: 発表と議論
- 【4】: 発表と議論
- 【5】: 発表と議論
- 【6】: 発表と議論
- 【7】: 発表と議論
- 【8】: 発表と議論
- 【9】: 発表と議論
- 【10】: 発表と議論
- 【11】: 発表と議論
- 【12】: 発表と議論
- 【13】: 発表と議論
- 【14】: 発表と議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

次回対象論文の精読と論点の整理を事前に行う。授業内容は、学生各自の研究に関わるものであるため、有益な情報があるのであれば、授業後にも個人的に伝達することが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 議論への貢献:20% 他の参加者への援助的関わり:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

産業・組織心理学特殊研究

Advanced Studies in Industrial/ Organizational Psychology
PRE-SUASION

小口 孝司(OGUCHI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WW206
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

産業・組織心理学に密接に関わる下記のテキストを用いて、pre-suasion について考察を深め、以て各自の研究への応用を図る。さらに、研究に対する批判力と、研究を大局的な視点から評価する力を養う。また、研究についてのディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につける。同時に、研究に対する批判力と、研究を大局的な視点から評価する力を養う。加えて、他の履修者や教員とのディスカッションの中で論点の整理を行う、議論を掘り下げるなど、議論を充実させる役割を担えるようにする。これらによって、研究者および将来の教育者として必要な能力を身につけることも目標とする。

Using the following text closely related to industrial/organizational psychology, students will deepen their discussion of pre-suasion and apply it to their research. In addition, students will develop critical thinking skills and the ability to evaluate research from a broad perspective. Students will also learn how to discuss and present their research. At the same time, students will develop the ability to be critical of research and to evaluate research from a broad perspective. In addition, students can play a role in discussions with other students and the professor to enrich the discussion by organizing issues and delving deeper into discussions. Students will acquire the skills necessary to become researchers and future educators through these activities.

授業の内容 / Course Contents

Robert Cialdini 教授による古典的名著とされる“Influence”が上梓されてから、30年以上が経ている。それは如何に人を動かすかの原理、原則を解説したものである。彼が他人を動かすための前準備のテクニックについて解説したものが、この“Pre-suasion”である。Pre-suasion とは、pre(前)と suasion(勧告・説得)を合わせた Cialdini 教授による造語である。本書を輪読する。その際、担当者は、各章(節)を担当して解説する。さらにその章で紹介されている研究の中で、担当者が最も興味深かったと思う研究論文についても調べ、併せてその概要を紹介する。その後受講生の間で議論をして理解を深めるとともに、各人の研究テーマとの関連性を考究していく。

It has been over 30 years since Professor Robert Cialdini's classic book "Influence" was published. It explains the principles of how to influence people. "Pre-suasion" is a term coined by Professor Cialdini, combining the words "pre" and "suasion". "Pre-suasion" is a term coined by Professor Cialdini, combining "pre" and "suasion". This book will be read in rotation. Each person in charge will be in charge of a chapter (section) and will explain it. In addition, the instructor will also review the most interesting research papers in the chapters and introduce the outline of the research papers. The students will then discuss and deepen their understanding of the research and consider its relevance to their research themes.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 導入

【2】: 担当章(節)の決定

- 【3】:Privileged moments
- 【4】:The importance of attention
- 【5】:What's focal is causal
- 【6】:Commanders of attention
- 【7】:The primacy of associations
- 【8】:Persuasive geographies
- 【9】:The mechanics of pre-suasion
- 【10】:Six main roads to change
- 【11】:Being together
- 【12】:Acting together
- 【13】:Ethical use
- 【14】:Post-suasion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

下記のテキストを輪読する。その際、担当者を各章(あるいは各節)ごとに決める。担当者は、レジュメを作成して、受講者全員に配布する。レジュメには章の要約とそこに示されている1つの研究の要約も記載すること。レジュメに基づいて発表を行った後、全員で討論を行う。自分の担当章(節)以外の部分にも目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当発表:40% 討論への参加:30% 授業での議論における主導的な役割:30%

テキスト / Textbooks

Cialdini, R. Pre-suasion Simons & Schuster 2016 978501109799

参考文献 / Readings

発達心理学特殊研究

Advanced Studies in Developmental Psychology

白井 述 (SHIRAI NOBU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WW209
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

発達心理学と関連する様々な研究トピックスについて能動的に学ぶことで、ヒトの心の発達に関する発展的知識を身につける。さらにそうした知識と自身の研究活動との関係を体系的に整理・統合し、発達心理学研究における重要・かつ新規な論点を提示することができるようになる。

Students are expected to actively learn about various research topics in developmental psychology and to acquire advanced knowledge about the development of the human mind. Students are also expected to integrate their own research activities and knowledge learned through this class and to propose important and novel research directions about developmental psychology.

授業の内容 / Course Contents

毎回の授業の発表担当者を決めて、割り当て回のテーマに関する発表をしてもらおう。担当者の発表内容について履修者全員で議論を行う。

In every-week class, several presenters will be pre-selected from students. The presenters prepare a presentation about assigned research topics regarding developmental psychology. The other students must participate in discussion after the presentations to promote learning of the research topics shown in the presentations.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 学習方法のガイダンス・各授業回の発表担当者の割り当て
- 【2】: 乳児期 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【3】: 乳児期 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【4】: 幼児期から児童期 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【5】: 幼児期から児童期 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【6】: 成人期以降から老年期 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【7】: 成人期以降から老年期 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【8】: 発達と脳 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【9】: 発達と脳 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【10】: 非定形な発達 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【11】: 非定形な発達 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【12】: 発達と教育 1: 担当者による発表・質疑応答
- 【13】: 発達と教育 2: 担当者による発表・質疑応答
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当者は十分な準備をして発表に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表担当会の発表内容:50% 毎回の授業での議論への貢献度:50%

後期課程にふさわしい高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

特に無し。必要があれば授業内で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

特に無し。必要があれば授業内で適宜紹介する。

認知・身体心理学特殊研究

Advanced Studies in Cognitive and Embodied Psychology

温 文(WEN WEN)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WW216
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7220
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

・認知・身体心理学の関連領域の最先端の研究について調査し、新規性の高いリサーチクエスチョンに焦点を当てる能力を身につける。

・新規性・インパクトの高い研究を独立に遂行する能力を身につける。

Students will learn the frontier of the field and will acquire the ability to focus on highly novel research questions.

Students will also learn how to conduct novel and significant research independently.

授業の内容 / Course Contents

・履修生と個別に定期的に研究についてディスカッションし、研究計画を立て、遂行する。

・必要に応じて、文献レビューや発表練習を行う。

Students will have regular meetings with the supervisor about the research plan and research progress. Students will also need to conduct literature review and presentation practice when necessary.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 研究指導
- 【2】: 研究指導
- 【3】: 研究指導
- 【4】: 研究指導
- 【5】: 研究指導
- 【6】: 研究指導
- 【7】: 研究指導
- 【8】: 研究指導
- 【9】: 研究指導
- 【10】: 研究指導
- 【11】: 研究指導
- 【12】: 研究指導
- 【13】: 研究指導
- 【14】: 研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

関連分野の文献を調査し、研究計画を立て、実験を行うことを授業時間外に行う必要がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 討論により評価:50% 研究進捗による評価:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

現代心理学特殊演習

Advanced Seminar on Contemporary Psychology
心理学専攻(後期課程)における総合演習

石黒 格/温 文/白井 述/小口 孝司/氏家 悠太/都築 誉史 (ISHIGURO ITARU/ WEN WEN/ SHIRAI NOBU/ OGUCHI TAKASHI/ UJIIE YUTA/ TSUZUKI TAKASHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WW311
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	PSY7920
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生が自身の研究について発表を行い、他の大学院生や専攻教員からの質問やアドバイスを受けることによって、自身の研究テーマ、方法、分析などの向上を図る。さらに他の大学院生の研究報告を聞き、討論を行うことを通じて、心理学研究への多面的な理解を深め、研究能力を伸長させる。同時に、研究に対する批判力と、研究を大局的な視点から評価する力を養う。加えて、他の履修者や教員とのディスカッションの中で論点の整理を行う、議論を掘り下げるなど、議論を充実させる役割を担えるようにする。これらによって、研究者および将来の教育者として必要な能力を身につけることを目標とする。

Students present their own research progress and receive questions and advice from other graduate students and faculty members in the department, thereby improving their own research. Furthermore, through listening to and discussing the research reports of other graduate students, students will deepen their multifaceted understanding of psychological research and develop their research skills. At the same time, students will develop the ability to be critical of research and to evaluate research from a broad perspective. In addition, students will be able to play a role in enriching discussions with other students and faculty members, such as by organizing issues and delving deeper into discussions. The goal of this course is to acquire the skills necessary to become researchers and future educators.

授業の内容 / Course Contents

この授業は心理学専攻所属教員全員による研究指導の場である。基本的には、研究指導教員全員と、大学院博士課程前期課程・後期課程の大学院生全員が、毎回授業に出席する。司会進行や運営は大学院生が行う。大学院生による研究発表に対し、全員で積極的に討論を行い、指導教員・副指導教員以外の研究指導教員からもアドバイス等をもらう。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:研究発表と討論(1)
- 【3】:研究発表と討論(2)
- 【4】:研究発表と討論(3)
- 【5】:研究発表と討論(4)
- 【6】:研究発表と討論(5)
- 【7】:研究発表と討論(6)
- 【8】:研究発表と討論(7)
- 【9】:研究発表と討論(8)
- 【10】:研究発表と討論(9)
- 【11】:研究発表と討論(10)

【12】: 研究発表と討論(11)

【13】: 研究発表と討論(12)

【14】: 演習全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究発表:40% 討論参加:30% 毎回の授業での議論における主導的な役割の担当:30%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

研究指導

Tutorial Session
臨床心理学研究
(Research of clinical psychology)

大江 由香(OE YUKA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WX111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	CLP7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学的に意義のある研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにすること。

臨床心理学の研究者として自立して研究を企画、実施し、論文としてまとめる能力を獲得すること。

臨床心理学の実践と理論の間の関係を熟知した上で、現場に還元できる研究を行なう能力を獲得すること。

臨床心理学における倫理性を踏まえ、支援を必要とする人と支援をする人の双方にとって意義ある研究を行なう能力を獲得すること。

臨床心理学の研究の発展に寄与する研究を行なう能力を獲得すること。

To be able to set a research theme of clinical psychological significance, conduct individual research under the guidance of a faculty member, and compile research results leading to a doctoral dissertation.

To acquire the ability to independently plan and conduct research as a researcher in clinical psychology and summarize it in a dissertation.

To acquire the ability to conduct research that can be applied back to the field, based on a thorough understanding of the relationship between practice and theory in clinical psychology.

To acquire the ability to conduct research that is meaningful to both those who need support and those who provide it, based on ethics in clinical psychology.

To acquire the ability to conduct research that contributes to the development of clinical psychology research.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、臨床心理学の理論と実践に研究が還元できることは何かを熟考する。研究テーマの検討、先行研究の検討、研究方法の倫理性の検討、博士論文の構成等の検討及び研究に関する指導・助言を行う。

To consider what a doctoral dissertation is and to ponder what research can return to the theory and practice of clinical psychology. The program will examine the research theme, review previous research, consider the ethicality of research methods, and structure the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on the research.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 博士論文研究指導1 研究倫理についての指導

【2】: 博士論文研究指導 2

【3】: 博士論文研究指導 3

【4】: 博士論文研究指導 4

【5】: 博士論文研究指導 5

【6】: 博士論文研究指導 6

- 【7】: 博士論文研究指導 7
- 【8】: 博士論文研究指導 8
- 【9】: 博士論文研究指導 9
- 【10】: 博士論文研究指導10
- 【11】: 博士論文研究指導11
- 【12】: 博士論文研究指導12
- 【13】: 博士論文研究指導13
- 【14】: 博士論文研究指導14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集、臨床心理学的な実験、観察、調査などによる研究の実施、論文の執筆。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究論文執筆:100%

年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と、学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに総合的な評価を行うものとする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session
臨床心理学研究
(Research of clinical psychology)

松永 美希 (MATSUNAGA MIKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WX113
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	CLP7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学的に意義のある研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにすること。

臨床心理学の研究者として自立して研究を企画、実施し、論文としてまとめる能力を獲得すること。

臨床心理学の実践と理論の間の関係を熟知した上で、現場に還元できる研究を行なう能力を獲得すること。

臨床心理学における倫理性を踏まえ、支援を必要とする人と支援をする人の双方にとって意義ある研究を行なう能力を獲得すること。

臨床心理学の研究の発展に寄与する研究を行なう能力を獲得すること。

To be able to set a research theme of clinical psychological significance, conduct individual research under the guidance of a faculty member, and compile research results leading to a doctoral dissertation.

To acquire the ability to independently plan and conduct research as a researcher in clinical psychology and summarize it in a dissertation.

To acquire the ability to conduct research that can be applied back to the field, based on a thorough understanding of the relationship between practice and theory in clinical psychology.

To acquire the ability to conduct research that is meaningful to both those who need support and those who provide it, based on ethics in clinical psychology.

To acquire the ability to conduct research that contributes to the development of clinical psychology research.

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、臨床心理学の理論と実践に研究が還元できることは何かを熟考する。研究テーマの検討、先行研究の検討、研究方法の倫理性の検討、博士論文の構成等の検討及び研究に関する指導・助言を行う。

To consider what a doctoral dissertation is and to ponder what research can return to the theory and practice of clinical psychology. The program will examine the research theme, review previous research, consider the ethicality of research methods, and structure the doctoral dissertation, as well as provide guidance and advice on the research.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 博士論文研究指導1 研究倫理についての指導

【2】: 博士論文研究指導 2

【3】: 博士論文研究指導 3

【4】: 博士論文研究指導 4

【5】: 博士論文研究指導 5

【6】: 博士論文研究指導 6

- 【7】: 博士論文研究指導 7
- 【8】: 博士論文研究指導 8
- 【9】: 博士論文研究指導 9
- 【10】: 博士論文研究指導10
- 【11】: 博士論文研究指導11
- 【12】: 博士論文研究指導12
- 【13】: 博士論文研究指導13
- 【14】: 博士論文研究指導14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する先行研究等の収集、臨床心理学的な実験、観察、調査などによる研究の実施、論文の執筆。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究論文執筆:100%

年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と、学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに総合的な評価を行うものとする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

臨床心理学研究法

Research Methods in clinical Psychology

大石 幸二/松永 美希/山田 哲子/大江 由香(OISHI KOUJI/ MATSUNAGA MIKI/ YAMADA TETSUKO/ OE YUKA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WX201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP7110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学研究法の教育・指導に必要な能力を形成する。臨床心理学研究の倫理について学ぶ。

Form the competencies necessary to teach and supervise clinical psychology research methods. Learn about the ethics of clinical psychology research.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学の研究者および教育者として自立して研究を企画、実施し、論文をまとめられるように、指導教員および副指導教員のもと、実践と理論をつなぐ高度な研究法について学ぶ。また支援を必要とする人と支援をする人の双方にとって意義ある研究を行なえるように、臨床心理学における研究倫理について熟知し、それらを教育する方法について学ぶ。また実際に、各指導教員が担当する学部生および前期課程学生に対して、指導教員のもと、助言や指導を行うことを通して臨床心理学研究の教授法を実践する。また心理教育相談所などにおける担当ケースへのスーパーヴィジョンを通して、臨床指導の教授法についても指導を行うことがある。

Under the supervision of a supervisor and a sub-supervisor, students learn advanced research methods that link practice and theory so that they can independently plan and conduct research and compile papers as researchers and educators in clinical psychology. In addition, students will learn about research ethics in clinical psychology and how to educate students about them so that they can conduct meaningful research for both those who need support and those who provide support. In addition, students practice teaching methods of clinical psychology research by providing advice and guidance to undergraduate students and first semester course students under the supervision of their respective supervisors. In addition, through supervision of cases at psycho-educational consultation offices, etc., students may also receive guidance on teaching methods for clinical instruction.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 臨床心理学的研究法とその教育方法① 臨床心理学研究の倫理
- 【2】: 臨床心理学的研究法とその教育方法②
- 【3】: 臨床心理学的研究法とその教育方法③
- 【4】: 臨床心理学的研究法とその教育方法④
- 【5】: 臨床心理学的研究法とその教育方法⑤
- 【6】: 研究倫理とその教育方法①
- 【7】: 研究倫理とその教育方法②
- 【8】: 研究倫理とその教育方法③
- 【9】: 研究倫理とその教育方法④
- 【10】: 研究倫理とその教育方法⑤
- 【11】: 教授法の実践①

【12】:教授法の実践②

【13】:教授法の実践③

【14】:教授法の実践④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内容の理解を深めるために、自分の研究テーマにおいて臨床心理学的な実験、観察、調査などによる研究の実施、論文の執筆をおこなう。また各指導教員の運営するゼミに参加し、学部生や前期課程学生の研究遂行に対して助言を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 指導教員、副指導教員との議論・報告:50% 専攻における研究発表:50%

指導教員および副指導教員との報告や議論、専攻における研究発表を総合して評価する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

臨床心理学研究法

Research Methods in clinical Psychology

大石 幸二/松永 美希/山田 哲子/大江 由香(OISHI KOUJI/ MATSUNAGA MIKI/ YAMADA TETSUKO/ OE YUKA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WX202
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CLP7110
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学研究法の教育・指導に必要な能力を形成する。臨床心理学研究の倫理について学ぶ。

Form the competencies necessary to teach and supervise clinical psychology research methods. Learn about the ethics of clinical psychology research.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学の研究者および教育者として自立して研究を企画、実施し、論文をまとめられるように、指導教員および副指導教員のもと、実践と理論をつなぐ高度な研究法について学ぶ。また支援を必要とする人と支援をする人の双方にとって意義ある研究を行なえるように、臨床心理学における研究倫理について熟知し、それらを教育する方法について学ぶ。また実際に、各指導教員が担当する学部生および前期課程学生に対して、指導教員のもと、助言や指導を行うことを通して臨床心理学研究の教授法を実践する。また心理教育相談所などにおける担当ケースへのスーパーヴィジョンを通して、臨床指導の教授法についても指導を行うことがある。

Under the supervision of a supervisor and a sub-supervisor, students learn advanced research methods that link practice and theory so that they can independently plan and conduct research and compile papers as researchers and educators in clinical psychology. In addition, students will learn about research ethics in clinical psychology and how to educate students about them so that they can conduct meaningful research for both those who need support and those who provide support. In addition, students practice teaching methods of clinical psychology research by providing advice and guidance to undergraduate students and first semester course students under the supervision of their respective supervisors. In addition, through supervision of cases at psycho-educational consultation offices, etc., students may also receive guidance on teaching methods for clinical instruction.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 臨床心理学的研究法とその教育方法① 臨床心理学研究の倫理
- 【2】: 臨床心理学的研究法とその教育方法②
- 【3】: 臨床心理学的研究法とその教育方法③
- 【4】: 臨床心理学的研究法とその教育方法④
- 【5】: 臨床心理学的研究法とその教育方法⑤
- 【6】: 研究倫理とその教育方法①
- 【7】: 研究倫理とその教育方法②
- 【8】: 研究倫理とその教育方法③
- 【9】: 研究倫理とその教育方法④
- 【10】: 研究倫理とその教育方法⑤
- 【11】: 教授法の実践①

- 【12】:教授法の実践②
- 【13】:教授法の実践③
- 【14】:教授法の実践④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内容の理解を深めるために、自分の研究テーマにおいて臨床心理学的な実験、観察、調査などによる研究の実施、論文の執筆をおこなう。また各指導教員の運営するゼミに参加し、学部生や前期課程学生の研究遂行に対して助言を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 指導教員、副指導教員との議論・報告:50% 専攻における研究発表:50%

指導教員および副指導教員との報告や議論、専攻における研究発表を総合して評価する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

宮本 裕子 (MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	BEC7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめられるようにすること。

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 全体計画の策定、研究テーマの検討・絞り込み、先行研究に関する検討、研究方法についての検討などを行う。
- 【2】: 個別指導
- 【3】: 個別指導
- 【4】: 個別指導
- 【5】: 個別指導
- 【6】: 個別指導
- 【7】: 個別指導
- 【8】: 個別指導
- 【9】: 個別指導
- 【10】: 個別指導
- 【11】: 個別指導
- 【12】: 個別指導
- 【13】: 個別指導
- 【14】: 個別指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する調査、研究。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%

年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と、学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに、総合的な評価を行うものとする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

加藤 千恵 (KATO CHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY114
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	BEC7910
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

各自が研究テーマを設定し、教員の指導の下に個別研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめられるようにすること。

授業の内容 / Course Contents

博士論文とは何かについて考え、研究テーマの検討、先行研究の検討、博士論文の構成等の検討及び各自の研究に関する指導・助言を行う。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 全体計画の策定、研究テーマの検討・絞り込み、先行研究に関する検討、研究方法についての検討などを行う。
- 【2】: 個別指導
- 【3】: 個別指導
- 【4】: 個別指導
- 【5】: 個別指導
- 【6】: 個別指導
- 【7】: 個別指導
- 【8】: 個別指導
- 【9】: 個別指導
- 【10】: 個別指導
- 【11】: 個別指導
- 【12】: 個別指導
- 【13】: 個別指導
- 【14】: 個別指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する調査、研究。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%

年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と、学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに、総合的な評価を行うものとする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

映像身体学原論

Principles of Body Expression and Cinematic Arts

大山 載吉(OHYAMA NORIYOSHI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY151
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「映像身体学」の基本的発想を理解し、それを自身の博士論文に反映できるようになる為の準備をする。

This course aims to enable students to understand the fundamental ideas of “Expression Studies.” It prepares them to apply the ideas at will in their individual research and productions.

授業の内容 / Course Contents

人間の身体と行動の在り方がどのようなものか、そして知覚の本質がどこにあるのか、それが世界との間にいかなる関係を形成するのかを考えます。さらに<機械による知覚>にほかならない写真、映画などの映像が、いかにして身体による知覚＝行動に接続し、思考の方法や感覚の表現になるのかを原理的に解き明かしていきます。

This course considers what the human body and what human behavior actually are, where the essence of perception lies, and how these form one’s relationship with the world. Moreover, the course elucidates theoretically how visual formats such as photographs and movies (which are nothing other than “machine-mediated perception”) connect with a person’s perception = behavior and become expressions of feelings and ways of thinking.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:物質と身体の違い
- 【2】:様々な知覚の段階
- 【3】:脳と知覚
- 【4】:記憶と知覚
- 【5】:機械による知覚としての写真
- 【6】:光の圧縮と切断としての写真
- 【7】:写真と絵画との間の本性の差異
- 【8】:映画の出現
- 【9】:写真と映画との間の本性の差異
- 【10】:<運動>(映画カメラによる知覚)
- 【11】:運動と個体
- 【12】:記憶/過去と映画との関係
- 【13】:機械映像と潜在的なもの
- 【14】:「映像身体学」とは何か

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	
-------------	--

校外実習・フィールドワーク	
---------------	--

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

アンリ・ベルクソン『物質と記憶』など指定されたテキストを読んでもらうこと(各回2時間程度)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 数回のリアクションペーパーと授業に取り組む姿勢:70% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

上記の授業計画は予定であり変更の可能性がある。また、後期課程の履修科目としてよりいっそう高い水準の理解が求められる。

映像身体学研究法

Methodology of Body Expression and Cinematic Arts
映像身体学の哲学

江川 隆男 (EGAWA TAKAO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY152
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、博士論文の作成を目指す院生が、それぞれの研究領域において映像身体学についての基本概念の再形成を、あるいはこの映像身体学の諸原理の再構成を目標とする。そのための研究発表を必ず授業でおこなってもらおう。

授業の内容 / Course Contents

ここでは、映像身体学の基本概念——表現、解釈、感覚、構成、対象性、批判、創造、分析、総合、等々——についていくつかのテキストや資料を用いて、授業を進めていきたい。受講者は、授業内でのテーマについての自分の考えや意見、問題や質問を提起できるようつねに意識して積極的に参加してもらいたい。また論文の書き方についての指導も含めて授業を展開する予定である。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 映像身体学の基本概念についての考察(1)
- 【3】: 基本概念についての考察(2)
- 【4】: 基本概念についての考察(3)
- 【5】: 基本概念の批判的考察(1)
- 【6】: 基本概念の批判的考察(2)
- 【7】: 基本概念の批判的考察(3)
- 【8】: 言語と身体について
- 【9】: 精神と感情について
- 【10】: 哲学と芸術について
- 【11】: 思考と感覚について
- 【12】: 人間と自然について
- 【13】: 意味と無意味について
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

つねにノートを作成すること。

詳しくは授業時に指示するが、この科目の予習・復習にはそれぞれ2時間程度が必要となります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席、研究発表:60% 最終レポート割合::40%

後期課程に相応しい高度な発表を要求する。

テキスト / Textbooks

適宜、コピーを配布する。

参考文献 / Readings

映像身体学特殊研究1

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 1
哲学と映像身体学

江川 隆男 (EGAWA TAKAO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY351
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、映像身体学の基本概念のさらなる展開を意識して、多様な思考の仕方と同時に、それらを総合する力を身につけてもらうことにある。それは、博士論文を作成するために必要な、論述の仕方、問題提起の仕方、分析と総合の仕方、等々についての思考力を獲得することである。

授業の内容 / Course Contents

ここでは、ジル・ドゥルーズの哲学の本質を形成しているいくつかの概念についての本格的な理解をも目指したいと思っています。この哲学は、まさに新たな概念(別の考え方)の形成にあり、それだけでなく新たな情動(別の感じ方)と知覚(別の見方)にまで届くようなものです。基本的にはテキストや資料を用いた講義形式で授業を進めていきます。受講者は、こうした事柄についての内容と表現とを、つねに各自のテーマや課題に即して意識できるよう心掛けてください。

授業計画 / Course Schedule

- [1]: イントロダクション
- [2]: 芸術と哲学の諸問題
- [3]: 経験とは何か(1)
- [4]: 経験とは何か(2)
- [5]: 共通感覚について(1)
- [6]: 共通感覚について(2)
- [7]: 自由意志から自由活动へ(1)
- [8]: 自由意志から自由活动へ(2)
- [9]: まとめ
- [10]: 哲学、芸術、科学について(1)
- [11]: 哲学、芸術、科学について(2)
- [12]: 超越論的経験論について(1)
- [13]: 超越論的経験論について(2)
- [14]: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義内容についてノートをしっかりと取り、各テーマについての自分の考えや自分の課題との関係性などについてつねにまとめる努力が重要となります。

詳しくは授業時に指示するが、この科目の予習・復習にはそれぞれ2時間程度が必要となります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み、発表:60%

最終レポート割合 :40%

後期課程に相応しい高度な発表を要求する。

テキスト / Textbooks

適宜、資料を配布する。

参考文献 / Readings

映像身体学特殊研究2

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 2

21世紀のメディア論

滝浪 佑紀 (TAKINAMI YUKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY352
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

とりわけ視覚メディアを中心として、近年のメディア論からいくつかの重要なテキストを読む。こうした最新のメディア論の研究を深く理解し、映画やテレビ、インターネットなどのメディアの分析をおこなうための方法論を獲得することを目指す。こうした読解を通じ、研究者として論文を書くさいの基礎を獲得する。

授業の内容 / Course Contents

Steven Shaviro, Thomas Lamarre, Lev Manovich などのメディア論を精読する。またこうしたメディア論で論じられている作品や現象についても考察する。授業内でのディスカッションも重視し、最新の研究成果について理解を深める。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読 1
- 【3】: 文献講読 2
- 【4】: 文献講読 3
- 【5】: 文献講読 4
- 【6】: 文献講読 5
- 【7】: 文献講読 6
- 【8】: 文献講読 7
- 【9】: 文献講読 8
- 【10】: 文献講読 9
- 【11】: 文献講読 10
- 【12】: 文献講読 11
- 【13】: 文献講読 12
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="checkbox"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="checkbox"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として授業内で提示された文献をあらかじめ読解すること(各回 2 時間)。復習として授業内での文献講読を踏まえ、提示された参考資料などをもとに、文献に関する理解をさらに深めること(各回 2 時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:40% 授業への取り組み:20% 最終レポート割合:40%

後期課程にふさわしい高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に指示する。

映像身体学特殊研究3

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 3

政治哲学

ヘルダーリンとブレヒト

田崎 英明(TAZAKI HIDEAKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY353
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. 自分が普段読み慣れている言語以外の言語で哲学や美学の文献を読みこなせるようになる。
2. 現代の批評理論の概要を理解し、自分自身でも具体的に作品を理論的に批評できるようになる。
3. 現代の政治運動/政治思想/政治哲学において問われていたことが何であるのかを理解し、その現代的な意義を論じることができるようになる。
4. 自分の研究を現代の批評理論のパースペクティブの内に位置づけられるようになる。

授業の内容 / Course Contents

ヘルダーリンとブレヒトに関する著作を複数の言語で読み、議論していく。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: ブレヒトについて
- 【3】: ベンヤミンとブレヒト 1
- 【4】: ベンヤミンとブレヒト 2
- 【5】: ラクー＝ラバルトによるヘルダーリン 1
- 【6】: ラクー＝ラバルトによるヘルダーリン 2
- 【7】: ブレヒト『アンティゴネー』1
- 【8】: ブレヒト『アンティゴネー』2
- 【9】: ブレヒト『アンティゴネー』3
- 【10】: レーマンとブレヒト 1
- 【11】: レーマンとブレヒト 2
- 【12】: ブレヒト教育劇 1
- 【13】: ブレヒト教育劇 2
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS にアップした教材の事前学習 2 時間、復習 2 時間。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:70% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

Canvas LMS にアップする。

参考文献 / Readings

映像身体学特殊研究4

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 4

宮本 裕子(MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY354
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

映像に関する理論的な文章を自身で読み解けるようになる。映像に関する理論的な理解、とりわけ「クィア・シネマ」という考え方への理解を深める。

In this course, students will learn to independently analyze theoretical texts on moving images. Students will also deepen their theoretical understanding of moving images, particularly in "queer cinema" as a theoretical frame work.

授業の内容 / Course Contents

同性愛やトランスジェンダーのあからさまな表象がハリウッドで禁止されていた時代、当事者は、異性愛が描かれた映画の中に「クィア」なものを読む実践を行ってきた。その後、性的マイノリティの蔑称であった「クィア」の語を冠した「クィア・シネマ」は、ゲイ解放運動と HIV/AIDS パンデミックを背景に、当事者による当事者の表象として出現した。この授業では、「クィア」と映画の関係とその歴史を、文献講読を通じて学ぶ。

During the era when explicit representations of homosexuality and transgender identities were prohibited in Hollywood, individuals engaged in the practice of "queer reading" within films that depicted heterosexuality. The term "queer cinema," which originally derived from a discriminatory term for sexual minorities, later emerged as a form of representation created by and for the queer community, shaped by the context of the gay liberation movement and the HIV/AIDS pandemic. This course explores the relationship between "queer" and cinema, as well as its historical development, through the reading and analysis of relevant texts and films. Through this examination, students will acquire the academic reading and writing skills at an appropriate level for researchers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読
- 【3】: 文献講読
- 【4】: 文献講読
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読
- 【8】: 文献講読
- 【9】: 文献講読
- 【10】: 文献講読
- 【11】: 文献講読
- 【12】: 文献講読
- 【13】: 学生発表
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習、授業の復習、発表準備、課題映像の視聴など。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:60% 最終レポート割合::40%

全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

映像身体学特殊研究5

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 5

『老子』を読む

加藤 千恵 (KATO CHIE)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY355
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

『老子』の代表的な章を講読し、理解を深める。
研究者として論文を批評する力を身につける。

授業の内容 / Course Contents

『老子』は、著者も成立年代もはっきりしない、たった五千字という短い文章なのに、中国古典のなかで最も多くの注釈書が作られてきた名著であり、戦術家、為政者、庶民、不死を目指す者、だれが覗いても、その人に応じて進むべき道を映し出してくれる鏡のようなところのある、じつに不思議な書である。この『老子』のなかから代表的な章を選んで講読し、「水のごとく」、「雌のごとく」、「嬰兒」のごとくあれ、というその内容から、中国人がいかに関心や歴史、そして身体をとらえようとしていたのかを、他の思想と比較しながら考察する。

授業は担当者の報告と全員の意見交換によって進めてゆく。担当者は担当箇所を精読して、必要に応じて調べ、授業時に口頭で解説する。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 『老子』講読 道とは
- 【3】: 『老子』講読 最高の善は水のように
- 【4】: 『老子』講読 玄牝―根源のメス
- 【5】: 『老子』講読 無用の用
- 【6】: 『老子』講読 嬰兒への復帰
- 【7】: 『老子』講読 美や善は絶対か
- 【8】: 『老子』講読 学を絶てば憂い無し
- 【9】: 『老子』講読 無為の政治
- 【10】: 『老子』講読 大器晩成
- 【11】: 『老子』講読 理想郷とは
- 【12】: 『老子』講読 足るを知る
- 【13】: 『老子』講読 柔弱は剛強に勝つ
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用

校外実習・フィールドワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回指定した章を精読してくる。

1週あたり4時間程度の事前学習を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容および授業参加への積極的な態度:70% 授業最終日に提出する小レポート:30%

後期課程にふさわしい高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

金谷治『老子』講談社 1997 4061592785

参考文献 / Readings

初回に紹介する。

映像身体学特殊研究6

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 6

写真の本質を紐解く

日高 優 (HIDAKA YU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY356
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、機械の知覚としての写真の原理を映像身体学の観点から理解し、現代において写真を見ることの意義を再認したうえで、その学びを自分の博士論文に活かすことができるようにすることを目標とする。

The aim of this course is to enable students to develop an understanding of the principles of photography as a form of mechanical perception from the perspective of body expression and cinematic arts and reengage with the meaning behind viewing photographs in the contemporary world. The aim is then to enable students to apply these learnings to their own doctoral dissertations.

授業の内容 / Course Contents

機械映像についての学びは、映像身体学科の学びの核のひとつを成す。まずは、映像身体学の基礎をおさえたうえで、機械映像として人類史上、初めて出現した写真の原理を確認する。さらに写真術登場初期のインパクトを確認しつつ、写真の本質について明らかにしていく。その後は、「演習」ということで、文献講読と自由発表とで授業展開をする。本授業では、写真の本質についての的確な知識をもって考察を深めていけるよう、適宜ディスカッションをおこなうことに加えて、各自が撮影した写真の講評をおこなう機会を設ける。文献は、写真の本質を考察したことで知られる、ニューヨーク近代美術館の写真ディレクターを長らく務めたジョン・シャーカフスキーが企画した写真展「Photographers' Eye」(1966)のテキスト等を読む予定。

The study of mechanical images forms one of the core elements of learning in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. First, the course will cover the fundamentals of body expression and cinematic arts and subsequently examine the principles of photography, the first form of mechanical image that humanity developed. We will also study the impact of photographic techniques in the early stages of photography's development and clarify its essence. Students will subsequently read texts and give in-class presentations in a seminar format. In order for students to deepen their understanding of the essence of photography through the attainment of accurate knowledge, they will not only have opportunities to carry out discussions as necessary but also critique the photographs taken by their classmates. The literature for this course will include the text for The Photographer's Eye (1966), an exhibition organized by photography historian John Szarkowski, who was the director of photography at the Museum of Modern Art, New York for many years.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション——映像身体学における写真
- 【2】: 映像身体学の基礎と写真の原理
- 【3】: 映像身体学の基礎と写真の原理
- 【4】: 映像身体学の基礎と写真出現のインパクト
- 【5】: 文献講読

- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読
- 【8】: 文献講読
- 【9】: 文献講読
- 【10】: 写真作品講評会
- 【11】: 自由発表
- 【12】: 自由発表
- 【13】: 自由発表
- 【14】: まとめ——写真を通して考える映像身体学の意義

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、履修登録完了後に授業内で、もしくは「CanvasLMS」上で履修者に対しておこなう。指定されたテキストを事前・事後に熟読することや関連写真集、作品の鑑賞など、各回の予習・復習には各々2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:30% 口頭発表:40% 最終レポート割合::30%

全ての評価内訳において、前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

映像身体学特殊研究7

Advanced Studies in Body Expression and Cinematic Arts 7

江口 正登 (EGUCHI MASATO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY357
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

パフォーマンス研究の基礎的な概念や理論的枠組を理解し、今後の研究の深化につながるような省察を行う。

The goal of this course is to acquire an understanding of the basic concepts and theoretical frameworks of performance studies, and to engage in critical reflections that advance future research.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、パフォーマンス研究の基本文献を講読し、パフォーマンス研究の基礎的な概念や理論的枠組の理解を目指す。またサブテーマとして、パフォーマンスとデジタル技術の関係ということも意識しながら進める。

毎回の授業では、担当者が講読範囲をレジュメにまとめて発表し、必要に応じて教員が補足を行った上で、クラス全体で議論を行う。後半の授業では、前半の授業内容も踏まえた上で、受講者各自の関心に基づいての自由発表も行う。講読文献に関しては、リチャード・シェクナーやヴィクター・ターナー、アーヴィング・ゴフマンらのものを予定しているが、受講者の関心も考慮して決定する。

In this course, we will explore foundational texts in performance studies, aiming to understand the basic concepts and theoretical frameworks of the field. We will also address the relationship between performance and digital technology as a sub-theme.

In each session, one or more designated students will present a summary of the assigned readings, followed by additional information from the instructor as needed, and a class-wide discussion. In the second half of the course, students will deliver presentations based on their own interests, building on the content covered in the first half. Readings will include works by Richard Schechner, Victor Turner, Erving Goffman, and others. However, the final selection of texts will also reflect the specific interests of the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 文献講読
- 【3】: 文献講読
- 【4】: 文献講読
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読
- 【8】: 文献講読
- 【9】: 文献講読
- 【10】: 自由発表
- 【11】: 自由発表
- 【12】: 自由発表

【13】:自由発表

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献を読んでき(映像などを見てくる)こと、発表の準備、関連事項の調査。また上演や展示の観覧を課すこともあります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% 授業への取り組み:30% 最終レポート割合::40%

後期課程にふさわしい高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

プリントもしくは PDF による資料を配布します。

参考文献 / Readings

高橋雄一郎、鈴木健編 パフォーマンス研究のキーワード:批判的カルチュラル・スタディーズ入門 世界思想社 2011 9784790715085

Richard Schechner Performance Studies: An Introduction Routledge 2020 9781138284562

Kelina Gotman (ed.) Theories of Performance: Critical and Primary Sources Bloomsbury 2022 9781350118096

Michael Mangan The Drama, Theatre and Performance Companion Palgrave Macmillan 2013 9780230551657

ほか、授業時に適宜紹介します。

その他 / Others

授業計画は大まかな予定。受講者の人数や関心も考慮して調整する可能性があります。

映像身体学特殊演習2

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 2
スタンリー・カヴェルの映画論

滝浪 佑紀 (TAKINAMI YUKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY362
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

2024 年度秋学期は映画の本質について十分に論じた哲学者スタンリー・カヴェルの著作を映画やメディアという論点に注目して論じたが、この授業では、カヴェルの哲学をとりわけ映画に注目して考える。映画やメディアにかんして重要な思索をおこなったカヴェルの著作をつうじて、映画の経験について考えることがこの授業の目的である。こうした読解を通じ、研究者として論文を書くさいの基礎を獲得する。

授業の内容 / Course Contents

イントロダクションののち、The World Viewed, Pursuits of Happiness, Cavell on Film を中心とした映画作品論を読解する。さらに Cavell について他の研究者が書いた論文も読む。

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読 1
- 【3】: 文献講読 2
- 【4】: 文献講読 3
- 【5】: 文献講読 4
- 【6】: 文献講読 5
- 【7】: 文献講読 6
- 【8】: 文献講読 7
- 【9】: 文献講読 8
- 【10】: 文献講読 9
- 【11】: 文献講読 10
- 【12】: 文献講読 11
- 【13】: 文献講読 12
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="checkbox"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="checkbox"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として授業内で提示された文献をあらかじめ読解すること(各回 2 時間)。復習として授業内での文献講読を踏まえ、提示された参考資料などをもとに、文献に関する理解をさらに深めること(各回 2 時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:40% 授業への取り組み:20% 最終レポート割合:40%

後期課程にふさわしい高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

映像身体学特殊演習3

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 3

ジジエク以後の現代思想をマッピングする Mapping the Contemporary Thought after Zizek

田崎 英明 (TAZAKI HIDEAKI)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY363
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1990 年代以降の現代思想の流れを理解し、自分の研究をその中に位置づけられるようになる。

現代思想のさまざまな理論や手法を自分の研究に批判的に組み込むことができるようになる。

Through the mapping the contemporary thought since 1990's, successfully finished this course, you'll be able to elucidate the context of your research program.

授業の内容 / Course Contents

90 年代以降の現代思想の流れを当時の社会情勢の中に位置づけ、理解していく。教員の講義と参加者の議論によって進める。

Through the lectures given by the teacher and discussions by the participants, the relationship between political conjuncture and theories will be understood.

授業計画 / Course Schedule

【1】:80 年代から 90 年代へ ジジエク登場の背景

ソ連および東欧社会主義諸国の解体→冷戦の終わり→湾岸戦争

90 年代の「民族」紛争

インターナショナルイズムの衰退

「人道的介入」という危機

【2】:さまざまな体制転換と移行正義の問題

【3】:アーレント復興とラディカル・デモクラシー

生産様式/社会編成体か言説編成体か エルネスト・ラクラウ

【4】:構築主義?

本質主義をめぐって

スピヴァックとバトラー

【5】:スピヴァックとバトラー(続き)

【6】:歴史修正主義 revisionism/否定主義 négationisme の問題

ランシエール

【7】:歴史修正主義 revisionism/否定主義 négationisme の問題

ランシエール

(続き)

【8】:实在論復興

アラン・バディウと思弁的实在論

【9】:实在論復興

アラン・バディウと思弁的实在論

(続き)

【10】:ジェンダー論とセクシュアリティ論 フェミニズムとクィア理論

【11】:ジェンダー論とセクシュアリティ論 フェミニズムとクィア理論

(続き)

【12】:ジェンダー/セクシュアリティに関する「バックラッシュ」と気候危機の否認

今日におけるファシズムをどう捉えるべきか

ウィリアム・コノリー、エンツォ・トラヴェルソ、アルベルト・トスカーノ

【13】:ジェンダー/セクシュアリティに関する「バックラッシュ」と気候危機の否認

今日におけるファシズムをどう捉えるべきか

ウィリアム・コノリー、エンツォ・トラヴェルソ、アルベルト・トスカーノ

(続き)

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教材の事前学習 2 時間、復習 2 時間。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回のリアクション・ペーパー:50% 授業への取り組み:50%

後期課程にふさわしい高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

映像身体学特殊演習4

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 4

宮本 裕子(MIYAMOTO YUKO)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY364
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

映像に関する理論的な文章を自身で読み解けるようになる。映像に関する理論的な理解、とりわけアニメーションという視聴覚-文化的な形態への理論的な理解を深める。研究者にふさわしい論文読解能力と学術論文を執筆する能力を獲得する。

In this course, students will learn to independently analyze theoretical texts on moving images. Students will also deepen their theoretical understanding of moving images, particularly in animation as a form of audiovisual-culture. Students will also be expected to acquire the academic reading and writing skills that are necessary for researchers.

授業の内容 / Course Contents

今日、「アニメーション」は、非「実写」映像一般を指す傾向にあるが、この語自体は、特定の映像芸術とその評価の歴史の中で、今日的な意味として一般化したものである。この授業では、文献を講読を通して、「実写」映像の対となる映像領域と考えられてきた歴史と、その領域的な区分が曖昧になっている現状の双方から、「アニメーション」を検討する。同時に、人種やジェンダー、セクシュアリティ、身体的逸脱といった問題を含む、社会・文化的、政治的な焦点からアニメーションを分析する方法についても検討する。

Today, "animation" tends to refer broadly to non-"live-action" moving images. However, the term itself has been historically shaped and generalized within the context of specific cinematic arts and their critical reception. Through readings and discussions, this course examines "animation" both its historical context as a counterpart to "live-action" film and the current blurring of this distinction. Additionally, the course explores approaches to analyzing animation through social, cultural, and political lenses, including issues of race, gender, sexuality, and bodily deviation. Through this examination, students will acquire the academic reading and writing skills at an appropriate level for researchers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読
- 【3】: 文献講読
- 【4】: 文献講読
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読
- 【8】: 文献講読
- 【9】: 文献講読
- 【10】: 文献講読
- 【11】: 文献講読
- 【12】: 文献講読

【13】:学生発表

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習、授業の復習、発表準備、課題映像の視聴など。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:60% 最終レポート割合::40%

全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

映像身体学特殊演習5

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 5

古代中国医学にみる生命と身体

嵯峨野 智夏 (SAGANO TOMOKA)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY365
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

古代中国の医学文献の中で、生命現象がどのように表現されたか、それらが伝統的な身体観にどのような影響を与えたか、史料にもとづき理解を深める。史料の背景に目を向け、他の時代や地域とも比較しながら、広い視野で研究テーマを展開する。

The course will deepen understanding of how life phenomena were expressed in ancient Chinese medical literature and how they influenced the traditional view of the body, based on historical materials. The research theme will be developed from a broad perspective, pay attention to the background of historical materials and comparing them with those of other periods and regions.

授業の内容 / Course Contents

中国医学経典『黄帝内経 素問・靈枢』を選読し、現代語訳・解説文の作成を通してテキストを理解する。授業の進行は、原文・書き下し文・用語を講師が解説し、各篇の担当者が現代語訳と内容の解説を授業時に発表する形式を主とする。また、伝統医学理論と伝統的な身体観との関わりについて、史料や現代の文献を読み、ディスカッションを通して考察を深め、解説文の作成に反映させる。

Students will read selected passages of the Chinese medical scripture “Huangdi Neijing” and compose modern translations and commentaries in order to understand the text. The lecturer will provide commentary on the original texts, transcriptions, and terminology, and the person in charge of each section will present a modern translation and commentary of the contents in class. In addition, the relationship between traditional medical theory and traditional views of the body will be examined through reading and discussion of historical and contemporary literature and reflected in the preparation of the commentary.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション・『黄帝内経』書誌解説・参考文献紹介
- 【2】:生命はどのように生じるか ー『靈枢』本神①
- 【3】:生命はどのように生じるか ー『靈枢』本神②
- 【4】:はたらく五臓六腑 ー『素問』靈蘭秘典論①
- 【5】:はたらく五臓六腑 ー『素問』靈蘭秘典論②
- 【6】:中間発表・フィードバック
- 【7】:脈動する身体 ー『靈枢』營衛生会①
- 【8】:脈動する身体 ー『靈枢』營衛生会②
- 【9】:命の有限性 ー『素問』上古天真論①
- 【10】:命の有限性 ー『素問』上古天真論②
- 【11】:中間発表・フィードバック

【12】:完成発表・総合討論

【13】:完成発表・総合討論

【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配布プリントの予習・復習、ディスカッション準備(各回1時間程度)。

発表課題作成(15時間程度)。

参考文献・授業時に紹介する文献を読む(30時間程度)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:50% 発表課題:50%

後期課程にふさわしい高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

金谷治『中国思想を考える』中央公論新社 1993 4121011201

坂井建雄『図説 医学の歴史』医学書院 2019 9784260034364

小曾戸洋『新版 漢方の歴史』大修館書店 2014 9784469233162

石田秀実『中国医学思想史』東京大学出版会 1992 4130130374

山田慶兒『中国医学はいかにつくれたか』岩波書店 1999 4004305993

映像身体学特殊演習6

Advanced Seminar on Body Expression and Cinematic Arts 6

写真の本質への理解を深める

日高 優 (HIDAKA YU)

科目設置学部	現代心理学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WY366
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	BEC7320
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、写真分野におけるいくつかの必読文献を読み、学生が写真映像への深い理解を獲得することを促す。とりわけ機械の知覚としての写真の多彩な表現を映像身体学の観点から理解し、現代において写真をみることの意義を再認したうえで、それを自分の博士論文に反映できるようにすることを目標とする。

In this course, students will read several essential texts on photography to deepen the understanding of photographic images. The primary focus is on understanding the myriad forms of expression in photography as a means of mechanical perception from the standpoint of body expression and cinematic arts and reengaging with the meaning of viewing photographs in the contemporary world. Students will reach a final goal of reflecting this learning on their doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

機械映像についての学びは、映像身体学専攻の学びの核のひとつを成す。まずは、映像身体学の基礎をおさえたうえで関連文献を読み、さらに写真映像を分析することによって写真の本質への理解を深める。関連文献では、写真の本質を探究した写真のパイオニアたちや新鋭たち、アルフレッド・スティーグリッツやアレックス・ソスらの写真家や現代アーティストが書いたものなどをとりあげる予定。言葉により写真へアプローチすることを学ぶ方法を獲得するのに資するために、本授業の後半では、学生各人が写真集及び作品を選んで批評し、プレゼンテーションする実践的訓練をおこなう。

The study of mechanical images forms one of the core elements in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. After first studying the foundation of body expression and cinematic arts and reading related texts, students will deepen their understanding of the essence of photography through an analysis of photographic images. The course will focus on texts by photography pioneers who explored the essence of photography as well as young and talented photographers, including works by Alfred Stieglitz, Alec Soth, and contemporary artists. Furthermore, to ensure that students hone methods of learning approaches to photography through words, the course will have the students select and critique a collection of photographs or a photographic work and present their assessments in the second half of the class.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: イントロダクション——映像身体学と写真
- [2]: 文献講読
- [3]: 文献講読
- [4]: 文献講読
- [5]: 文献講読
- [6]: 文献講読
- [7]: 文献講読

- 【8】: 写真作品批評の方法を学ぶ1
- 【9】: 写真作品批評の方法を学ぶ2
- 【10】: 学生によるプレゼンテーション
- 【11】: 学生によるプレゼンテーション
- 【12】: 学生によるプレゼンテーション
- 【13】: 学生によるプレゼンテーション
- 【14】: まとめ——写真という対象に向かって書くということ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、履修登録完了後に授業内で、もしくは「CanvasLMS」上で履修者に対しておこなう。指定されたテキストを事前・事後に熟読することや関連写真集、作品の鑑賞など、各回の予習・復習には各々2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:30% 口頭発表:40% 最終レポート割合::30%

全ての評価方法において、前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。